

始



# 貨物掛必携

昭和十四年四月

乙

札幌鐵道局運輸部貨物課編纂

特 216  
972



貨  
物  
掛  
必  
携





# 目次

## 一 般

商法(抜萃).....	一
商法中署名スヘキ場合ニ關スル件.....	三
鐵道營業法.....	三
鐵道運輸規程.....	三〇
官吏服務紀律.....	三七
國有鐵道職員服務規程.....	三九
運輸、運轉従事員職制及服務規程(抜萃).....	四五
鐵道省分課規程(抜萃).....	五〇
鐵道局分部規程(抜萃).....	五〇
各事務所、工場事務分掌規程(抜萃).....	五三
運輸従事員安全作業心得(抜萃).....	五三
地方鐵道法(抜萃).....	五六
銃砲火藥類取締法(抜萃).....	五六

銃砲火藥類取締法施行規則 (抜萃)	五七
銃砲火藥類取締法施行細則 (抜萃)	五九
火藥類鐵道運送規程	六〇
壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法 (抜萃)	六〇
壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令 (抜萃)	六〇
家畜傳染病豫防法 (抜萃)	六一
家畜傳染病豫防法施行規則 (抜萃)	六一
家畜傳染病檢疫規則 (抜萃)	六一
肥料取締法 (抜萃)	六九
肥料取締法施行規則 (抜萃)	七〇
産業組合法 (抜萃)	七三
農産物検査規則 (抜萃)	七三
農産物検査規則施行細則 (抜萃)	七三
水産物検査規則 (抜萃)	七七
林産物検査規則 (抜萃)	八一

## 取 扱

鐵道省所管航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍及營業料程	八三
-------------------------	----

索道ニ依ル貨物運送規則	八四
荷扱所荷物取扱規則	八六
荷物代金引換規程	八六
荷物代金引換取扱手續	八九
一箇ノ重量百五十斤ヲ超ユル宅扱貨物ノ取扱方	九三
濱小樽驛著貨切扱貨物積載貨車々票及通知書ニ對シ貨物取卸場所表示方ニ就テ	九六
濱小樽驛著貨切扱貨物ノ車票及通知書ニ取卸場所明示ニ就テ	九六
秤量委託ノ場合ニ於ケル輸送順路ニ就テ	一〇三
秤量委託ノ場合ニ於ケル輸送順路ニ關スル件	一〇三
秤量料收受ニ關スル件	一〇三
計重臺ニ依ルニ非サレハ計量困難ナル貨物ノ受託監査方法制定ニ就テ	一〇四
貨車内ノ降雪及凍結物ノ重量に就いて	一〇五
重貨物ノ重量標示ニ關スル件	一〇七
鐵道運輸規程第百條ニ於ケル擔保取扱手續	一〇七
荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件	一〇八
荷送人荷受人カ同一ナル貨物ノ錯誤處理ニ關スル件	一一一
二硫化炭素ノ運送ニ就テ	一一一
二硫化炭素發火防止ニ關スル件	一一三
アルミニウム其ノ他金屬削屑貨物取扱方ノ件	一一三

振綿ノ發火事故防止ニ就テ	二四
火藥類及危險品ノ積卸用燈器備付に關する件	二四
拳銃、實空包、廢彈類ノ運送取締ニ關スル件	二五
貨物ノ附添人ニ就テ	二五
馬匹積車ノ馬糞糞車外吊下取締ニ關スル件	二六
附添人無斷乗込取締ノ件	二六
家畜其ノ他ノ檢疫ニ關スル件	二六
貨切扱貨物通知書ノ送達ニ就テ	二七
酒類及酒用空樽ノ取扱方ニ關スル件	二七
鮮魚類ノ荷造及取扱方ニ就テ	二七
貨物ノ荷札整備ニ就テ	二八
ポンプ空罐輸送ニ關スル件	二八
貨物荷造用容器其他積卸貨主負擔貨物ノ取扱方ニ就テ	二九
コンテナ一ト託送見合セノ場合ニ於ケル集貨料收受方ニ就テ	二九
札幌驛到着貨物取扱制限ニ關スル件	三〇
蜜蜂の運送途中に於ける飼料に就テ	三〇
車掌の乗務せざる列車に連結の緩急車及代用車に積卸する貨物の取扱方に就テ	三〇
梅田驛四ツ橋・横堀各貨物扱所ニ於ケル貨物取扱ニ關スル件	三三
特種停車場其ノ他ニ關スル件	三三

倉庫營業規則、同補則 (抜萃)	一三
鐵道營業用度衡器取扱規程	一五
鐵道營業用度衡器取扱手續	一七
度量衡法 (抜萃)	一八
度量衡法施行令 (抜萃)	一七

## 運 賃

荷物運賃料金豫納規程	一八
荷物運賃料金豫納取扱手續	一八
官衙其ノ他ノ託送荷物ノ運賃及料金ニ對スル後拂扱ノ件	一九
輸出貨物運賃戻規程	一九
罐詰食料品輸出検査ニ關スル件	二〇
陸海軍恤兵品其ノ他ノ無貨輸送方	二〇
陸海軍恤兵品其ノ他ノ無貨輸送取扱方ニ就テ	二〇
災害運賃減免ノ取扱ニ就テ	二〇
災害救恤貨物運賃減免取扱實績報告ノ件	二〇
災害救恤貨物運賃減免取扱實績報告方	二〇
出貨責任數量付貨物運賃戻出貨報告ニ關スル件	二〇

貨物料金拂戻ノ件	三〇七
博覽會・共進會・品評會等ノ出品物ニ對スル運賃割引ニ就テ	三〇八
運賃割引貨物ニ對スル割引證提出方ノ件	三〇八
幼馬ニ對スル貨物運賃割引證ニ就テ	三〇九
鐵道乘車後拂證ノ件 (抜萃)	三〇〇
軌道運賃割引規程	三〇〇

## 輸 送

貨物輸送手續	三一一
貨物輸送取扱細則	三一二
貨車及貨物輸送經路指定ノ件	三二四
宅扱・小口扱及應扱貨物ノ中繼驛及中繼ノ範圍	三二六
列車又ハ連絡船指定貨物運送ノ件	三二五
コンテナニ依ル貨物ノ試驗運送方ノ件	三二六
コンテナニ依ル貨物ノ試驗運送方	三二六
客貨車運轉禁止ニ關スル件「附」註	三七七
セキ號車ノ運轉禁止其ノ他ニ關スル件 (抜萃)	三六〇
專用貨車設定ニ關スル件	三六一

冷蔵車使用ニ當リ注意ノ件	三八一
私有「ワイヤロープ」使用ノ件	三八二
貨車ニ落書禁止及コレガ發見ノ場合抹消ノ件	三八三
覆布又ハ網ヲ連帶線ニ向ケ使用ノ場合車票記入方ノ件	三八三
貨車ノ側板・棲板・轉環枕木及「ステッキ」取外シニ關スル手續	三八三
私有貨車取扱手續 (抜萃)	三八四
車輛稱號規程 (抜萃)	三八四
客貨車検査規程 (抜萃)	三八九

## 運 送 店

鐵道省指定店規程	三九三
鐵道省指定店規程施行細則	四〇三
指定店其ノ他貨物取扱實績調ノ件	四〇二
貨物運送規則第六十七條ノ取次料金ニ關スル件	四〇三
貨物積卸貨車手押入換作業請負處理手續	四〇三
小運送業法	四〇六
小運送業法施行規則	四〇八
日本通運株式會社法	四〇六

小運送業者ノ營業規則認可ニ關スル件……………四三九

### 特種貨物

特種貨物運送手續……………	四四五
特種貨物運送手續第二十九條ニ依ル運賃計算方ニ就テ……………	四六二
鐵道軍事供用令……………	四六三
鐵道軍事輸送規程……………	四六五
軍事輸送ノ場合ニ於ケル料金徴收方ノ件……………	四六七
軍事供用令ニ依ル軍事輸送料金計算程に關する件……………	四六九
軍事輸送料金計算の場合に於ける錢未滿の端數切捨方の件……………	四六九
少數ノ軍人・軍屬・軍馬並軍需品輸送ノ場合賃金後拂ノ件……………	四七〇
陸海軍軍用品の運賃五割減の取扱方の注意……………	四七一
軍事供用令適用範圍ニ關スル件……………	四七二
軍事供用令扱軍馬ノ附添人及料金收受方ニ就テ……………	四七三
軍事供用令輸送料金計算程ニ就テ……………	四七三
陸海軍官憲託送申込ニ依ル火藥類輸送方ノ件……………	四七四
職員共同購買貨物運送承認手續……………	四七四
購買貨物證票發行方ニ關スル件……………	四七七

國有鐵道共濟組合購買部其ノ他日用品專用線運送取扱方……………	四七七
購買部其ノ他ノ使用シ得ル專用線……………	四七八
車輛貸渡及使用規則並局補……………	四八〇
車輛貸渡及使用ニ關シ協議ヲ要スル貨車指定ノ件……………	四八三

### 連帶

連帶運輸規則 (抜萃)……………	四九五
連帶運輸取扱細則 (抜萃)……………	五一七
連帶運輸ヲ爲ス鐵道・軌道・航路及自動車並連帶運輸ノ範圍……………	五三〇
索道ニ依リ小荷物及貨物ノ連帶運輸ヲ爲ス場合ノ取扱方……………	五三三
連帶運輸取扱手續 (抜萃)……………	五三三
日支貨物聯絡運送規則、同補則……………	五三三
鐵道船舶通シ運送規則……………	五四九

### 通關

荷物通關取扱規則 (抜萃)……………	五五三
荷物通關取扱細則……………	五九四



## 專用線

專用線作業契約準則……………	七〇五
專用線作業契約準則施行細則……………	七〇〇
共同使用停車場ニ於ケル社線驛務處理方（抜萃）……………	七〇四
專用線一覽……………	七〇五
專用線作業契約相手方以外使用方ノ件……………	七〇六
空蘭及釧路驛接續木材防腐會社專用線發省用貨物ニ關スル件……………	七〇六
空蘭及釧路驛接續木材防腐會社專用線發省用貨物應扱方ニ就テ……………	七〇六
專用鐵道又ハ專用側線トナルベキ線路ノ建設工事用品運送方ノ件……………	七〇七

## 自動車

自動車線貨物運送規則同補則……………	七〇九
自動車線旅客及荷物並貨物取扱手續（抜萃）……………	七〇二
省營自動車線ニ於ケル一般運輸營業ヲ爲ス停車場及特種停車場其ノ他ニ關スル件……………	七〇六

## 用地

貨物置場使用取扱手續……………	七〇七
上家ノ構造ニ關スル標準ノ件……………	七〇三
箱番ノ構造ニ關スル件……………	七〇三
貨物置場使用願進達ニ關スル件……………	七〇四
上家設置附屬書類進達ニ關スル件……………	七〇四
停車場構内鐵道用地使用承認書其ノ他關係書類交付方ニ關スル件……………	七〇四
鐵道用地使用料ニ關スル件……………	七〇五
土地貸付料分割前納ノ件……………	七〇五
鐵道局長ニ於テ分納承認ニ關スル件……………	七〇六
國庫出納金端數計算法……………	七〇七
國庫出納金端數計算ノ場合處理方ノ件……………	七〇七
貨物置場使用料金拂込ニ關スル件……………	七〇七
土地使用料算定方ニ關スル件……………	七〇八
鐵道用地事務ニ關スル件……………	七〇九
鐵道用地管理ニ關スル件……………	七〇〇
營業主任會議決議ニ對スル回答……………	七〇〇
貨物置場許可地内ニ軌道敷設ニ關スル件……………	七〇一
鐵道用地使用ニ付取締方ノ件……………	七〇一
貨物置場境界標建植方……………	七〇三

雜

鐵道用地使用許可期間ヲ三ケ年ト爲スノ件……………七三三  
 鐵道用地貸付使用及不用地處分ノ際電線路ノ關係ニ付取調ノ件……………七三三  
 驛構内除柵取扱規程……………七三三  
 驛構内除柵取扱規程ニ據ル除柵料金徴收方……………七三四  
 鐵道財産使用承認心得……………七三五

貨物關係經濟調査ニ關スル件……………七三七  
 米ノ受託數量調査ニ關スル件……………七三〇  
 米ノ移動調査ニ關スル件……………七三一  
 繭及生絲ノ受託數量調査ニ關スル件……………七三三  
 荷主懇談會ニ關スル件……………七三四  
 荷主懇談會開催ニ關スル件……………七三五  
 貨客案内ニ關スル件……………七三五  
 貨車入換並貨物積卸用ウキンチ車使用承認ノ件……………七三七  
 ロコモチブ起重機及移動ジブ起重機運轉取扱手續……………七三〇  
 ロコモチブ起重機使用注意の件……………七三一  
 貨物積卸機貨主操縦取扱手續……………七三一

驛設備貨物積卸機操縦者資格審査規程……………七三三  
 驛設備貨物積卸機操縦心得……………七三三  
 運轉取扱心得……………七三六  
 運轉取扱心得細則……………七三八  
 貨車ノ標記自重ト實際自重相違ノモノ取扱方……………七三九  
 貨物積載ノ儘仕立検査施行シ得ル貨車指定……………七四〇  
 停車場構内ニ於ケル塵芥掃除及炭滓取捨擔當方……………七四〇  
 塵芥及炭滓取捨ニ要スル經費負擔方……………七四一  
 客貨車掃除心得……………七四一  
 專任ノ驛長ナキ驛ニ於ケル證明書・謄本等發行ノ場合ノ發行者名記載方ニ就テ……………七四三  
 鐵道局長專決事項……………七四三  
 鐵道局事務所長・工場長及出張所長專決事項……………七四四  
 鐵道揭示例規……………七四五  
 揭示類掲出手續……………七四六  
 貨物取扱人構内入場規程……………七四六  
 荷送人ニ於テ負擔スベキ貨物積換・積直・分載等ノ費用整理方ノ件……………七四九  
 手車自重ニ關スル件……………七五〇

一  
般

### 鐵道と國家との關係 (一)

國家は鐵道の利用者である。  
國家は平時戰時を分たず國家としての職分を盡し活動を爲すには常に鐵道に依頼し之を利用せねばならない。例へば官吏軍人の出張往復、郵便物其他各種材料類の運送等鐵道の依頼者であり利用者の位置に立つのである。

## 商 法 (抜 萃)

明三二、三  
法 四八

### 第三編 商 行 爲

#### 第七章 運送取扱營業

第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用人ガ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラザルシコトヲ證明スルニ非ザレバ運送品ノ滅失、毀損又ハ延滞ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三百二十三條 運送取扱人ガ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直ニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得

第三百二十四條 運送取扱人ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非ザレバ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三百二十五條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルベキ報酬、運送貨其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十六條 運送取扱人ハ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者ガ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十七條 運送取扱人ガ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス

第三百二十八條 運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ら運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有

運送取扱人ガ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引換證ヲ作りタルトキハ自ら運送ヲ爲スモノト看做ス

第三百二十九條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人ガ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルベカリシ日ヨリ之ヲ起算ス



前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
第三百二十九條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス  
第三百三十條 第三百二十八條及ビ第三百四十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

## 第八章 運送營業

第三百三十一條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

### 第一節 物品運送

第三百三十二條 荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ビ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 運送狀ノ作成地及ビ其作成ノ年月日

第三百三十三條 運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ゲタル事項

二 荷送人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ビ其作成ノ年月日

第三百三十四條 貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十四條ノ二 貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三百三十四條ノ三 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラズ

第三百三十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得べき者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使ス

ル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百三十六條 運送品ノ全部又ハ一部ガ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ得ズ若シ運送人ガ既ニ其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部ガ其性質若クハ瑕疵又ハ荷送人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條

運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者ガ運送品ノ受取、引渡、保管及ビ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得ズ

第三百三十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人ガ運送ヲ委託スルニ當リ其種類及ビ價格ヲ明告シタルニ非ザレバ運送人ハ損害賠償ノ責ニ任ゼズ

第三百三十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延着ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第三百四十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルベカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム

運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延着ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第三百四十一條 運送品ガ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損又ハ延着シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第三百四十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ズル運送貨、立替金及ビ其處分ニ因リテ生ジタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品ガ到達地ニ達シタル後荷受人ガ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第三百四十三條 運送品ガ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生ジタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人ガ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送貨其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百四十四條 貨物引換證ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非ザレバ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三百四十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハザルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人ガ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルモ荷受人ガ其指圖ヲ

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

得

爲サザルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人ガ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人ガ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シテ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス

運送人ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十七條 第二百八十六條第二項及ビ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

【參考】

第二百八十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主ガ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザルトキハ賣主ハ其物ヲ供

託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サズシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主ガ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ゲズ

第三百四十八條 運送人ノ責任ハ荷受人ガ留保ヲ爲サズシテ運送品ヲ受取リ且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送

品ニ直チニ發見スルコト能ハザル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人ガ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第三百四十九條 第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ビ第三百二十九條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

## 第九章 寄託

### 第二節 倉庫營業

第三百五十七條 倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百五十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ビ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百五十九條 預證券及ビ質入證券ニハ左ノ事項及ビ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

一 受寄物ノ種類、品質、數量及ビ其荷造ノ種類、個數並ニ記號

二 寄託者ノ氏名又ハ商號

三 保管ノ場所

四 保管料

五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間

六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ビ保險者ノ氏名又ハ商號

七 證券ノ作成地及ビ其作成ノ年月日

第三百六十條 倉庫營業者ガ預證券及質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 前條第一號、第二號及ビ第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項

第三百六十一條 預證券及ビ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ヲ分割シ且其部分ニ對スル預證券及ビ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ビ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

第三百六十二條 預證券及ビ質入證券ヲ作りタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其ノ證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條 (削 除)

第三百六十四條 預證券及ビ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラズ

預證券ノ所持人ガ未ダ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ビ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ

第三百六十五條 第三百三十四條ノ二及ビ第三百三十五條ノ規定ハ預證券及ビ質入證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 預證券又ハ質入證券ガ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此

場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ無スニハ債權額、其利息及ビ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質権者ガ前項ニ掲ゲタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレバ質権ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
第三百六十七條ノ二 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ビ利息ヲ辨済スル義務ヲ負フ  
第三百六十七條ノ三 質入證券所持人ノ債權ノ辨済ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第三百六十八條 質入證券ノ所持人ガ辨済期ニ至リ支拂ヲ受ケザルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ズ  
第三百七十條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スベキ租税、保管料其他保管ニ關スル費用及ビ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス  
競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ゲタル費用、租税、保管料、立替金及ビ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘額アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨済スルコト能ハザリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス  
第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ヅ寄託物ニ付キ辨済ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得  
第四百八十七條ノ二乃至第四百八十八條ノ四、第四百九十一條、第四百九十二條及ビ第四百九十五條ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條 質入證券ノ所持人ガ辨済期ニ至リ支拂ヲ受ケザリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セザリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ  
第三百七十四條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨済期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨済ヲ受ケタル日ヨリ六箇月間質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六箇月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十五條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得  
ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得  
質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得  
第三百七十六條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人ガ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレハ其滅失又ハ毀

損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ  
第三百七十七條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非ザレバ保管料及ビ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ  
但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應ジテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得  
第三百七十八條 當事者ガ保管ノ期間ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六箇月ヲ經過シタル後ニ非ザレバ其返還ヲ爲スコトヲ得ズ但已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ此限ニ在ラズ  
第三百七十九條 預證券及ビ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレバ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ズ  
第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨済期間前ト雖モ其債權ノ全額及ビ辨済期マデ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ供託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十一條ノ二 寄託物ガ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ベキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ビ其辨済期マデノ利息ヲ供託シ其割合ニ應ジテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ビ返還シタル受寄物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス  
前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ預證券ノ所持人ノ之ヲ負擔ス  
第三百八十二條 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス  
第三百八十三條 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨済シタル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百八十一條ノ規定ハ前條第一項ノ供託金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨済シタル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百八十一條 第二百八十六條第一項及ビ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人ガ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス  
第三百七十條及第三百七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第三百八十二條 第三百四十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス  
第三百八十三條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生ジタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ガ預證券ノ所持人若シ其所持人ガ知レザルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス  
前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
第三百八十三條ノ二 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及質入券ニ代ヘテ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百八十三條ノ二 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及質入券ニ代ヘテ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス  
第三百八十三條ノ三 倉荷證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債券ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ビ數量ヲ倉荷證券ニ記載且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

## 第五編 海 商

### 第三章 運 送

第五百九十一條 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶ガ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶ガ航海ニ堪ヘザルニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第五百九十三條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラズシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長ガ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ビ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人ガ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

第六百一一條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者ガ他ノ備船者及ビ荷送人ト共同セズシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者ガ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス  
發航前ト雖モ備船者ガ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ビ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ズ

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指揮ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス荷送人ガ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者ガ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一一條ノ規定ハ荷送人ガ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的トナシタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備ガ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スベキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハザル日ヲ算入セズ

第六百六條 荷送人ガ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送貨、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ビ運送品ノ價格ニ應ジ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スベキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非ザレバ運送品ヲ引渡スコトヲ要セズ

第六百七條 荷送人ガ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷送人ヲ確知スルコト能ハザルトキ又ハ荷送人ガ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテハ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ讓賣スルコトヲ得  
船長ガ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者ガ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラズ

第六百十一條 船舶所有者ガ前條ニ定メタル權利ヲ行ハザルトキハ備船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 第五百八十七條第一項ニ掲ゲタル事由
- 二 運送品ガ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト



第五百八十七條 第一項ニ掲ゲタル事由ガ航海中ニ生ジタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應ジ運送品ノ價格ヲ超エザル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送ガ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハザルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得  
前項ニ掲ゲタル事由ガ發航後ニ生ジタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及ビ第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條 第一項第二號及ビ第六百十四條第一項ニ掲ゲタル事由ガ運送品ノ一部ニ付テ生ジタルトキト雖モ備船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船長ガ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ

二 船長ガ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

三 船長ガ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ビ第三百四十八條ノ規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

#### 第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後運滞ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

一 船舶ノ名稱及國籍

二 船長ガ船荷證券ヲ作ラザルトキハ船長ノ氏名

三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ビ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號

四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號

五 荷受人ノ氏名若クハ商號

六 船積港

七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人ガ陸揚港ヲ指定スベキトキハ其之ヲ指定スベキ港

八 運送貨

九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

十 船荷證券ノ作成地及ビ其作成ノ年月日

第六百二十三條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ原本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人ガ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非ザレバ運送品ヲ引渡スコトヲ得ズ

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人ガ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ運滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長ガ第六百二十四條ノ規定ニ依リ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人ガ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同ジ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人ガ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其効力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長ガ未ダ運送品ノ引渡ヲ爲サザルトキハ原所持人ガ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第六百二十九條 第三百三十四條乃至第三百三十五條及ビ第三百四十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

### 第四章 海損

第六百四十一條 船長ガ船舶及ビ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生ジタル損害及ビ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險ガ過失ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ和害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨グズ

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送貨ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割

合ニ應ジテハ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生ジタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

### 商法中署名スヘキ場合ニ關スル件

明三三、二  
法一七

商法中署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

## 鐵道營業法

明三三、三  
法六五

### 第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルベシ

第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル  
鐵道運輸規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 運賃其ノ他ノ運送條件ハ關係停車場ニ公告シタル後ニ非ザレバ之ヲ實施スルコトヲ得ズ

運賃其ノ他ノ運送條件ノ加重ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ公告ハ一月以上之ヲ爲スコトヲ要ス  
第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非ザレバ乗車セシムルコトヲ得ズ  
附添人ナキ重病者ノ乗車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得

第五條 火藥其ノ他爆發質危險品ハ鐵道方其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得

第六條 鐵道ハ左ノ事項ノ具備シタル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得ズ

- 一 荷送人ガ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルトキ
- 二 貨物ノ運送ニ付特別ナル責務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メザルトキ
- 三 運送ガ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セザルトキ
- 四 貨物ガ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ
- 五 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ

前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限り之ヲ引受タルノ義務ヲ負フ

第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ベキ場合ニ限り貨物ヲ受取ルベキ義務ヲ負フ

第九條 貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スベキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得

點檢ニ因リ貨物ノ種類及性質ガ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラザル場合ニ限り鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之ガ爲生ジタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ズ

前二項ノ規定ハ火藥其ノ他爆發質危險品ヲ成規ニ反シ手荷物中ニ收納シタル疑アル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 旅客又ハ荷送人ハ手荷物又ハ運送品託送ノ際鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ表示料ヲ支拂ヒ要償額ヲ表示スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル表示額ガ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡期間末日ニ於ケル到達地ノ價格及引渡ナキ場合ニ於テ旅客又ハ荷送人ガ受クベキ其ノ他ノ損害ノ合計額ヲ超ユルトキハ其ノ超過部分ニ付テハ其ノ表示ハ之ヲ無効トス

第十一條ノ二 要償額ノ表示アル託送手荷物又ハ運送品ノ減失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テハ鐵道ハ表示額ヲ限度トシテ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ズ此ノ場合ニ於テ鐵道ハ損害額ガ左ノ額ニ達セザルコトヲ證明スルニ非ザレバ左ノ額ノ支拂ヲ免ルルコトヲ得ズ

一 全部減失ノ場合ニ於テハ表示額

二 一部減失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡アリタル日(延著シタルトキハ引渡期間末日)ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リ計算シタル價格ノ減少割合ヲ表示額ニ乗ジタル額

託送手荷物、高價品又ハ動物ニ付テハ託送ノ際旅客又ハ荷送人ガ要償額ノ表示ヲ爲サザル場合ニ於テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ノ定ムル最高金額ヲ超エ其ノ減失又ハ毀損ニ因ル損害ヲ賠償スル責ニ任ゼズ

前二項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品ガ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ減失又ハ毀損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 引渡期間滿了後託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ延著トス

引渡期間ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

延著ニ因ル損害ニ付賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テハ鐵道ハ左ノ額ヲ限度トシテ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

一 要償額ノ表示アルトキハ其ノ表示額

二 要償額ノ表示ナキトキハ其ノ運賃額

前項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品ガ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ延著シタル場合ニハ之ヲ適用

セズ

第十三條 鐵道ガ引渡期間滿了後一月ヲ經過スルモ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲サザル場合ニ於テハ旅客又ハ貨主ハ減失ニ因ル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ鐵道ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ引渡ヲ爲サザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ賠償ヲ受ケタル者ハ其ノ請求ノ際留保ヲ爲シタルトキハ到達ノ通知ヲ受ケタル後一月内ニ限り賠償金ヲ返還シテ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

第十三條ノ二 荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハザル運送品ハ主務大臣ノ定ムル所ニヨリ公告ヲ爲シタル後六月内ニ其ノ權利者ヲ知ル能ハザル場合ニ於テハ鐵道其ノ所有權ヲ取得ス託送手荷物及一時預リ品ニ付亦同ジ

第十三條ノ三 鐵道ガ其ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ貨物ノ引渡ヲ爲スコト能ハザルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫營業者ニ寄託スルコトヲ得

貨物ヲ寄託シタルトキハ鐵道ハ遲滞ナク荷送人及荷受人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

貨物ヲ寄託シタル場合ニ於テ倉庫證券ヲ作製セシメタルトキハ其ノ證券ノ交付ヲ以テ貨物ノ引渡ニ代フルコトヲ得鐵道ハ第一項ノ費用ノ辨濟ヲ受クル迄倉庫證券ヲ留置スルコトヲ得

前四項ノ規定ハ貨物ノ引取期間内ニ其ノ引取ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十五條 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乗車券ヲ受クルニ非ザレバ乗車スルコトヲ得ズ

乗車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限り乗車スルコトヲ得

第十六條 旅客ガ乗車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得乗車後旅行ヲ中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第十七條 天災事變其ノ他已ムヲ得ズル事由ニ因リ運送ニ着手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ジ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乗車券ヲ呈示シ検査ヲ受クベシ

有効ノ乗車券ヲ所持セズ又ハ乗車券ノ検査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡サザル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ割増賃金ヲ支拂フベシ

前項ノ場合ニ於テ乗車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス乗車等級不明ナルトキハ其ノ列車ノ最優等級ニ依リ運賃ヲ計算ス

第十八條ノ二 第三條、第六條乃至第十三條、第十四條、第十五條及第十八條ノ規定ハ鐵道ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル船舶、軌道、自動車又ハ索道ニ依ル運送ニ付之ヲ準用ス

第十八條ノ三 鐵道ト船舶ト通ジ運送ヲ爲ス場合ノ運送ニ付テハ請求ニ因リ荷送人ハ全運送ニ對シ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ荷送人ノ請求ニ因リ全運送ニ對シ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ運送狀又ハ貨物引換證ニ付テハ鐵道運送ニ於ケル運送狀又ハ貨物引換證ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條ノ四 前二條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ船舶ニ依ル運送ノ區間及其ノ運送業者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

## 第二章 鐵道係員

第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 旅客及公衆ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ着スベシ

第二十三條 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クベシ

懲戒ヲ爲スベキ場合ニ於テ地方鐵道業者之ヲ爲サザルトキハ監督官廳ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ醸スノ處アル所爲アリタルトキハ

三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乗込マシメタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十七條 (削除)

第二十八條 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキ

ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條ノ二 第十九條及第二十一條ノ規程ハ政府及公共團體ノ鐵道ニ、第二十條及第二十三條ノ規定ハ公共團體ノ鐵道ニ之ヲ適用セズ

## 第三章 旅客及公衆

第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケズシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 有効ノ乗車券ナクシテ乗車シタルトキ

二 乗車券ニ指示シタルモノヨリ優良ノ車ニ乗りタルトキ

三 乗車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セザルトキ  
第三十條 託送手荷物又ハ運送品ノ種類又ハ性質ヲ詐稱シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス記名乗車券ヲ買  
求ムル際氏名ヲ詐稱シタル者亦同ジ  
第三十條ノ二 前二條ノ所爲ハ鐵道ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ズ  
第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帶シタル者ハ五十圓以下  
ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
第三十二條 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 列車運轉中乗降シタルトキ  
二 列車運轉中車輛ノ側面ニアル車扉ヲ開キタルトキ  
三 列車中旅客乗用ニ供セザル箇所ニ乗リタルトキ

第三十四條 制止ヲ肯ゼズシテ左ノ行爲ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス  
一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ  
二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄リニ立入りタルトキ

第三十五條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケズシテ車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ請ヒ、物品  
ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス  
第三十六條 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識掲示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シ又ハ其ノ用ヲ失ハシメタ  
ル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三十七條 停車場其ノ他鐵道地内ニ妄リニ立入タル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス  
第三十八條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス  
第三十九條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ科料ニ處ス  
第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乗車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス傳染病患者其ノ  
病症ヲ隱蔽シテ乗車シタルトキ亦同ジ  
前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セズ

第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得  
一 有效ノ乗車券ヲ所持セズ又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯ゼザルトキ  
二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯ゼザルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯シタルトキ  
三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ  
四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ  
前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セズ

第四十三條 (削 除)  
第四十四條 (削 除)  
第四十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十三年八月勅令第三三〇號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)  
鐵道略則、鐵道犯罪罰例、明治十六年七月第二十三號布告ハ之ヲ廢止ス

附 則

# 鐵道運輸規程

明三三、八  
通令三六

## 第一章 總 則

- 第一條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ旅客及公衆ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フベシ
- 第二條 旅客及公衆ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖ニ從フベシ
- 第三條 鐵道ハ主要ナル停車場ニ申告簿ヲ備置クコトヲ要ス
- 第四條 旅客貨物ノ取扱ニ關シ鐵道ノ處置ニ不當ノ廉アリト認ムル者ハ前條ノ申告簿ニ記載シ抗告ヲ爲スコトヲ得  
申告簿ニ依リ抗告ヲ爲ス者ハ事實ヲ詳記シ其ノ住所ヲ記シ署名スルコトヲ要ス  
鐵道ハ氏名住所ヲ明示シタル抗告ニ付テハ遲滯ナク辯明ヲ與フベシ
- 第五條 停車場ニハ見易キ場所ニ驛名ヲ明示シ其ノ他旅客ノ指導タルベキ標示ヲ爲スベシ
- 第六條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運賃表、列車時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備付ケ公衆ノ閱覽ニ供スベシ
- 第七條 (削除)
- 第八條 効用ヲ失ヒタル諸揭示類ハ即時ニ之ヲ撤去スベシ
- 第九條 停車場ニハ時計ヲ備付ケ正確ニ時刻ヲ齊正スベシ

## 第二章 旅客運送

- 第十條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ列車出發時刻及終着驛名並適宜連絡列車ノ終着驛名ヲ揭示スベシ
- 第十一條 停車場ニハ當該線路ニ於ケル列車時刻表、運賃表及必要ニ應ジ他ノ關係線路ニ於ケル時刻表及運賃表ノ摘要ヲ揭示スベシ
- 前項ノ時刻表ニハ列車ニ聯結スル客車ノ等級及種類ヲ表示スベシ
- 第十二條 停車場ニハ見易キ場所ニ當該停車場ヨリノ旅客運賃表ヲ揭示スベシ
- 第十三條 旅客ノ同伴スル六年未滿ノ小兒ハ旅客一人ニ付少クトモ一人迄無賃ヲ以テ運送スベシ  
割引乗車券ヲ以テ乗車スル旅客又ハ特ニ乗車位置ノ指定ヲ爲ス列車若ハ客車ニ乗車シ小兒ノ爲其ノ指定ヲ請求スル旅客ニ付テハ督監官廳ノ認可ヲ得テ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得  
十二年未滿ノ小兒ハ第一項ノ規定ニ依リ無賃運送ヲ爲スモノヲ除キ半賃金ヲ以テ運送スベシ  
小兒無賃運送ノ員數ヲ限定スルトキ又ハ第二項ノ規定ニ依リ其ノ無賃運送ヲ爲サザルトキハ停車場ニ揭示スル運賃表又ハ列車時刻表ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ要ス
- 第十四條 乗車券ニハ通用區間及期限、客車ノ等級、運賃額並ニ發行ノ日附ヲ記載スベシ  
特種及臨時發行ノ乗車券ニ在リテハ前項ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得
- 第十五條 停車場ニ於テハ少クトモ列車ノ出發時刻十五分前ニ乗車券ノ賣出ヲ開始スベシ交通頻繁ナル停車場ニ於テハ少クトモ一時間前ニ之ヲ開始スベシ
- 出札ハ列車出發時刻五分前迄ハ之ヲ停止スルコトヲ得ズ  
改札口ハ同一分前迄ハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得ズ

第十六條 鐵道ハ旅客ニ對シ運賃金額正算拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 旅客ハ改札前ニ在リテハ其ノ買受ケタル乗車券ヲ他級ノ乗車券ト交換シ又ハ之ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ運賃拂戻ノ請求ハ乗車券發行ノ當日ニ限ル

乗車券相當ノ坐席ナキ場合ニ於テ鐵道係員ガ優等車ニ一時便乗ノ取扱ヲ爲サザルトキハ旅客ハ選擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乘シテ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ鐵道係員ニ申告スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ノ外旅客ハ乗車券ヲ返還シ運賃ノ拂戻ヲ受ケ又ハ劣等車ニ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

改札後ト雖坐席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時ニテモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車へ乘換ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十八條 乗車券ハ其ノ通用區間中何レノ部分ニ付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特種ノ列車ニ付監督官廳ノ認可ヲ得テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ乘繼驛限定ノ效ヲ妨グズ

第十九條 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ列車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ旅客ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ及保護ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ既ニ通過セル線路ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場へ無貨送還スベシ

第二十條 列車遲延ノ爲相當ノ時間中ニ接續スル列車ニ乘車スルコトヲ得ザルトキハ連絡乗車券ヲ有スル旅客ニ限リ其ノ請求ニ因リ無貨ニテ出發停車場(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場)ニ送還シ出發停車場ヨリノ運賃(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停車場トノ間ニ對スル運賃ヲ控除シ殘額)ヲ拂戻スベシ但シ旅客ガ次回ノ返リ列車ヲ以テ中斷ナク復歸スルトキニ限ル

第二十一條 旅客ガ任意ニ劣等車ニ便乗シタルトキハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ遲延、運轉ノ中斷等アリタルトキハ關係停車場ニ遲滯ナク之ガ揭示ヲ爲スベシ

第二十三條 乗車券ヲ所持セズ又ハ無効ノ乗車券ヲ以テ乘車シ若ハ檢査ノ際乗車券ノ呈示ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡サザル旅客ニ對シ鐵道ハ普通運賃二倍以内ノ割増運賃ヲ請求スルコトヲ得

乗車券ヲ買受クルノ暇ナク鐵道係員ノ許諾ヲ得テ乘車シタル旅客ニ對シ鐵道ハ二十錢以内ノ増拂ヲ請求スルコトヲ得

割増運賃又ハ増拂ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル證券ヲ交付スベシ

第二十四條 列車出發時刻五分前ニ至ルトキハ鐵道係員ハ鳴鈴其ノ他便宜ノ方法ニテ發車ノ注意ヲ與フベシ

第二十五條 列車ハ揭示時刻表ニ示サレタル時刻前ニ出發セシムルコトヲ得ズ

揭示時刻表ニ掲ゲタル列車ノ運轉ハ天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ基因シタル運送上ノ支障アルトキ若ハ之ヲ豫知シタルトキノ外休止スルコトヲ得ズ

第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アリタルトキハ座席ヲ指定スベシ

必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖座席ノ指定ヲ爲スコトヲ得

旅客乗車中座席ヲ離レテ之ヲ占置カザルトキハ他人之ヲ占取スルモ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第二十七條 囚徒ヲ乘車セシムルトキハ普通旅客ト之ヲ區別スベシ

第二十八條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客ハ乗車スルコトヲ得ズ

出發時刻ニ後レタル爲發行當日限り通用ノ乗車券ノ效用ヲ失フニ至リタルトキハ其ノ翌日內ニ限り該乗車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル列車ニ乗車スルコトヲ得但シ乗後レノ際遲滯ナク其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ提出シ有效ノ證明ヲ受ケタルトキニ限ル

特ニ列車ヲ指定シタル乗車券ノ通用期限ハ前項ノ規定ニ依リ延長セララルコトナシ

第二十九條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ボス風體、行爲ヲ爲スベカラズ

車扉ニ凭リ又ハ肢體ヲ車外ニ出スベカラズ

車内ノ器具、裝飾物ヲ汚損セザル様注意ヲ爲スベシ

燐寸ノ燃差、煙草ノ吸殻及唾等ヲ唾壺ノ外ニ投ズベカラズ

線路係員、通行人等ニ危險ヲ與フルノ虞アル物品ハ猥ニ之ヲ投棄スベカラズ

第三十條 途中客車ニ不足ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク之ヲ補充ノ準備ヲ爲スベシ

第三十一條 列車ガ停車場ニ到着シタルトキハ鐵道係員ハ停車場ノ名稱、乗換アルトキハ其ノ旨並停車時間五分以上アルトキハ其ノ時間ヲ喚呼スベシ

鐵道係員ハ停車場ニ下車スル旅客ノ爲速ニ車扉ヲ開クベシ

列車ガ停車場外ニ於テ停止スルトキハ縱令長時間ニ涉ルト雖鐵道係員ノ許諾ヲ得ルニ非ザレバ下車スルコトヲ得ズ

第三十二條 三時間ニ少クトモ一回五分以上停車セザル列車ニハ各客車ニ便所ノ備アルコトヲ要ス

第三十三條 旅客ハ自ら携帯シ得ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザルモノニ限り之ヲ客車内ニ持込ムコトヲ得

一 爆發質、自然發火質、腐蝕質其ノ他危險ヲ他ニ及ボスベキ虞アル物品但シ携帯制限ヲ超エザル火藥類ヲ除ク

二 酒精、油類其ノ他引火シ易キ物品但シ旅行中使用スル少量ノモノヲ除ク

三 燧爐及焔爐但シ懷中用ノモノ又ハ直ニ使用シ得ザルモノヲ除ク

四 死體

五 動物但シ鐵道ニ於テ客車内ニ携帯スルコトヲ許諾シタル小動物ニシテ同乗者ニ迷惑ヲ及ボスベキ虞ナキモノヲ除ク

六 不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑ヲ及ボスベキ虞アル物品

七 坐席又ハ通路等ヲ塞グベキ虞アル物品及客車ヲ毀損スベキ虞アル物品

前項ノ物品ニ付テハ旅客自ラ之ヲ保管スル責ニ任ズ

第三十四條 旅客ガ前條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル物品ヲ客車内ニ持込ミ又ハ持込マムトシタル場合ニハ鐵道係員ハ旅客ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セズ

鐵道ハ前二項ノ規定ニ依ルノ外其ノ物品ニ付乗車券ニ指示シタル區間(乗車券ヲ所持セザルトキハ乗車列車ノ運轉區間)ニ相當スル運賃及其ノ十倍以内ノ増運賃並前條第一項第一號及第二號ニ掲グル物品ニ在リテハ尙其ノ重量一應ニ付金五圓以内ノ増運賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第三十五條 旅客ガ第三十三條第一項第七號ニ掲グル物品ヲ客車内ニ持込ミタル場合ニハ鐵道ハ其ノ物品ニ付旅客ノ乗車區間ニ於ケル運送ノ委託ヲ受ケタルモノト看做シ相當運賃ヲ請求スルコトヲ得

其ノ物品ガ直ニ運送ノ引受ヲ爲スニ適セザルモノナルトキハ鐵道ハ旅客ヲ途中ニ下車セシメ且其ノ物品ニ付既ニ運送シタル區間ニ對スル相當運賃ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條ノ二 旅客及公衆ガ他ノ旅客ノ持込手荷物ヲ裝ヒテ物品ノ無貨運送ヲ圖リタル場合ニハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

### 第三章 託送手荷物

第三十六條 旅客ガ其ノ旅行ニ必要ナル物品ハ手荷物トシテ之ヲ託送スルコトヲ得但シ貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品及動物ハ此ノ限ニ在ラズ



特種ノ鐵道又ハ列車ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ手荷物ノ運送ヲ取扱ハザルコトヲ得

第三十七條 火藥類及危害ヲ他ニ及ボスベキ處アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品及容積重量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ズ

第三十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クトモ二十疋迄ノ手荷物ヲ無貨ニテ運送スルノ便ヲ與フベシ

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無貨手荷物重量ハ前記重量ノ半ヲ以テ制限トス

割引乗車券ヲ以テ乗車スル旅客ノ手荷物ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ得テ前二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三十九條 重量ニ依リ運賃ヲ定メザル特定物品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スベシ

前項ノ物品ニ付テハ鐵道ハ其ノ種類及運賃ヲ特定シテ監督官廳ノ認可ヲ得之ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セザル様鎖錠緊束シ紛ラハシキ他ノ運送標記等ヲ附着スベカラズ

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ規定スル乗車券賣出時間内ニ其ノ手續ヲ爲スベシ但シ列車出發時刻ヨリ少クトモ五分前ニ之ガ手續ヲ爲サザルトキハ次回ノ列車ヲ以テ運送セララルモ故障ヲ述ブルコトヲ得ズ

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乗車券ヲ鐵道係員ニ呈示スベシ

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引換ノ符票ヲ交付シ之ト引換ニ引渡ヲ爲スモノトス

第四十四條 手荷物受取ノ際前條引換ノ符票ヲ所持セザルトキハ其ノ受取ルベキ權利アルコトヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ニ供スルニ非ザレバ之ガ引渡ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於テ之ガ引渡ヲ爲スベキモノトス但シ時間其ノ他取扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應ジ中間停車場ニ於テモ之ガ引渡ヲ爲スベシ

前項但書ノ場合ニ於テハ旅客ハ豫メ鐵道係員ニ乗車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スベシ  
第一項但書ノ場合ニ於テハ手荷物運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四十六條 第十九條及第二十條ノ場合ニ於テ旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷物ハ旅客ト共ニ之ヲ無貨

送還スベシ此ノ場合ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取ラザルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十八條 旅客ガ火藥類其ノ他危害ヲ他ニ及ボスベキ處アル物品ヲ手荷物トシテ託送シタル場合ニハ第八十五條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 (削除)

#### 第四章 小荷物(小貨物)運送

第五十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同ジ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クベシ

第三十六條第二項ノ規定ハ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十一條 第三十九條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スベシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ携帶スル商品ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スベシ

第五十三條 小荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲スベシ但シ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

## 第五章 死體運送

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クトモ六時間前迄ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スベシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞スベシ

第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スベシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スベシ

第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特約ニ因リ特別車ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト離隔搭載スベシ

飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ズ

第六十三條 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車（混合列車亦同ジ）ニ聯結スベシ

死體ハ成ルベク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スベシ又已ムヲ得ザル場合ノ外運送中ノ轉載スルコトヲ得ズ

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルベシ若シ六時間内ニ引取ザラルトキハ鐵道ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ヅベシ

## 第六章 貴重品運送

第六十五條 左ニ掲グルモノヲ貴重品トス

一 金貨、銀貨、紙幣、銀行券、軍用手票、印紙、郵便切手及公債證書、大藏省證券、株券、債券、商品券其ノ他

ノ有價證券並金、銀、白金其ノ他ノ貴金屬、イリチウム、タングステン其ノ他ノ稀金屬、金剛石、紅玉、綠柱玉、琥珀、眞珠其ノ他ノ寶石、象牙、鼈甲、珊瑚及其ノ各製品

二 美術品及骨董品

三 容器荷造ヲ加ヘ一疋ノ價格金四十圓ノ割合ヲ超ユル物但シ動物ヲ除ク

貴重品ト貴重品ニ非ザルモノトヲ混ゼル場合ニ於テ容器荷造ヲ加ヘ一疋ノ價格金四十圓ノ割合ヲ超エザルトキハ之ヲ貴重品ニ非ザルモノト看做ス

第一項第三號及前項ノ場合ニ於ケル重量及價格ハ一荷造毎ニ之ヲ計算ス

第六十六條（削除）

第六十七條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クトモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スベシ

貴重品託送者ハ運送狀ヲ差出スベシ

第六十八條 貴重品ノ運送ハ特ニ定メタル列車ニ限ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス

第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

## 第七章 動物運送

第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小動物ハ旅客列車（混合列車亦同ジ）ヲ以テ運送ノ便ヲ開クベシ

第七十一條 旅客ノ携帶スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スベシ

第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之ガ引取ヲ爲スベシ之ガ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第七十三條 旅客ノ携帶スル犬ヲ除ク外小動物ハ逸出ノ虞ナキ様態、網若クハ箱等ニ納レ託送スベシ  
第七十四條 旅客列車(混合列車亦同ジ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前各條ニ定アル場合ヲ除ク外小荷物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條 鐵道ハ動物ノ運送ニ付附添人ヲ請求スルコトヲ得

附添人ノ乗車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ズ

附添人ハ動物ヲ監視シ驛長ノ認諾ヲ受クルニ非ザレバ他車ニ轉乘スルコトヲ得ズ

附添人ハ藁、枯草等燃エ易キ物品アルトキハ喫煙具及發火シ易キ物品ヲ車中ニ携帶スルコトヲ得ズ

第七十六條 猛獸ヲ託送セムトスル者ハ逸走其ノ他危害防止ノ爲充分ナル羈絆ヲ施スベシ

第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ豫メ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スベシ

鐵道ガ動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セズ

第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ託送人、受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要スル材料ヲ準備スベシ

第七十九條 小動物ノ外動物ハ到達ノ通知ヲ受ケタル後速ニ之ガ引取ヲ爲スベシ之ガ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第八十條 (削除)

第八十一條 (削除)

第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

## 第八章 大荷物(大貨物)運送

第八十三條 鐵道ガ直ニ運送ヲ爲スコトヲ得ザル場合ニ於テ特約ヲ以テ發送迄保管ノ爲貨物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ

運送狀ニ特約ノ條件ヲ明記スルコトヲ要ス

荷送人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送迄一時貨物ヲ留置スルコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留置料ヲ請求スルコトヲ得

第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其ノ手續ヲ爲スベシ

第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

- 一 運送狀作成ノ地及年月日
- 二 發送停車場ノ名稱
- 三 到達停車場及所屬鐵道名
- 四 届先、荷受人ノ氏名又ハ商號及住所
- 五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種類、箇數並記號
- 六 要價額ノ表示又ハ價格ノ明告ヲ爲ストキハ其ノ金額
- 七 運送便ノ種類
- 八 運賃ノ支拂方法
- 九 貨物引換證請求ノ有無
- 十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項
- 十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所

第八十五條ノ二 運送狀ニ記載シタル貨物ノ品名、重量、容積又ハ箇數ニ基キ計算シタル運賃ガ正當運賃ニ不足スル場合ニハ鐵道ハ不足額ノ外其ノ十倍以内ノ増運賃ヲ請求スルコトヲ得

荷送人ガ火藥類其ノ他危害ヲ他ニ及ボスベキ處アル物品ヲ他ノ品名ニ依リ託送シタルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外

鐵道ハ其ノ重量一疋ニ付金五圓以内ノ増運賃ヲ請求スルコトヲ得  
前二項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供スベシ

第八十七條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ鐵道ハ運送狀ノ謄本ヲ交付スベシ此ノ場合ニ於テハ金五錢以内ノ手数料ヲ請求スルコトヲ得

第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ運送狀ニ其ノ受付番號ヲ記入スベシ

第八十九條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一 貨物引換證作成ノ地及年月日

二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十一號ニ掲ゲタル事項

三 第八十八條ノ受付番號

四 運賃、料金ノ額及其ノ受否

第九十條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防グニ必要ナル荷造ヲ爲スベシ

貨物ニハ各箇ニ箇數、記號、宛名等ヲ明瞭ニ其ノ外面ニ標記シ他物ト取違ハザル様注意ヲ爲スベシ且成ルベク到達停車場名ヲ附記スベシ

第九十一條 貨主ガ貨物ノ積卸ヲ爲スベキ場合ニ於テハ鐵道ハ積卸時間ヲ定メ貨主ニ其ノ通知ヲ發スベシ

鐵道ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ前項ノ通知ヲ發スルコト能ハザルトキハ當該停車場ノ揭示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

貨主ガ第一項ノ時間内ニ積卸ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル貨車留置料ヲ請求シ又ハ荷受人ノ費用ヲ以テ貨物ノ荷卸ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 貸切貨車積貨物及一個ノ長六米、重量三百疋又ハ容積一立方米ヲ超ユル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス

第九十三條 貨主ガ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル料金ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受クル料金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物託送ノ際ニ之ヲ支拂フベシ  
運賃金額ヲ確定スルコトヲ得ザルトキハ鐵道ハ概算拂ヲ請求スルコトヲ得

第九十五條 鎖錠保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ若ハ火氣ニ感ジ易キ物品ハ有蓋貨車ニ搭載スベシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ覆布及綱ヲ準備スベキモノトス其ノ使用ニ對シ料金ヲ請求スルコトヲ得但シ貨車貸切ノ場合ニ於テ特約アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條 貨物ガ到達停車場ニ到達シタルトキハ鐵道ハ運滞ナク引取時間ヲ定メテ到達ノ通知ヲ發スベシ但シ配達ヲ爲スベキ貨物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十八條 荷受人ガ前條ノ引取時間内ニ貨物ノ引渡ニ應ゼザルトキハ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル貨物保管料ヲ請求スルコトヲ得

荷受人ガ貨物ノ引渡ヲ受ケタル後其ノ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ貨物留置料ヲ請求スルコトヲ得但シ引取時間内ハ此ノ限ニアラズ

第九十九條 貨物ノ減失又ハ毀損アリタルトキハ鐵道ハ速ニ調査ヲ遂ゲ之ヲ書面ニ具シ荷送人及荷受人ニ通知スベシ  
第一百條 貨物引換證ヲ交付シタル場合ニ於テ該證ノ紛失等ニ因リ之ト引換ニ貨物ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ザルトキハ鐵道ハ引渡請求人ニ於テ其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキニ限り貨物引渡ノ義務アルモノトス

第一百一條 (削除)  
 第一百二條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第九章 鐵道ノ責任

第一百二條ノ二 要價額ノ表示ハ運送狀ヲ交付スル場合ニ於テハ運送狀ニ記載シ、運送狀ヲ交付セザル場合ニ於テハ鐵道ノ定ムル様式ニ依ル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

鐵道ハ運送狀ノ交付ヲ請求セザル場合ニ於ケル要價額表示ノ式紙ヲ停車場ニ備置キ旅客又ハ荷送人ノ使用ニ供スベシ

第八十七條ノ規定ハ第一項ノ書面ニ付之ヲ準用ス

第一百二條ノ三 要價額ノ表示料ハ左ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 託送手荷物、貴重品 表示額金百圓迄毎ニ 金 七 錢
- 二 動物 金千圓迄ニ付テハ 同 金 三十 錢
- 金千圓ヲ超ユル額ニ付テハ 同 金 五十 錢
- 三 其ノ他ノ運送品 同 金 四 錢

前項ノ規定ハ一口ニ付金十錢ヲ超エザル範圍内ニ於テ最底料金ヲ設定スルコトヲ妨ゲズ

前二項ノ規定ニ依ル表示料ハ停車場ニ之ヲ揭示スルコトヲ要ス

鐵道營業法第十一條第二項ノ規定ニ依ル超過部分ニ對スル表示料ニ付テハ之ガ拂戻ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第一百二條ノ四 要價額ノ表示ナキ託送手荷物、貴重品又ハ動物ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付テハ鐵道ニ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外左ノ金額ヲ超エ賠償ノ責ニ任セズ



- 一 託送手荷物 旅客一人ニ付 金百五十圓
- 二 貴重品 一疋(容器荷造ヲ含ム)迄毎ニ 金 一 圓 但シ一口金百五十圓ヲ最高額トス
- 三 動物 物

- 牛、馬 一頭ニ付 金百二十圓
- 犢 同 金三十圓
- 豚、綿羊 同 金二十圓
- 其ノ他ノ獸類 同 金十圓
- 其ノ他ノ動物 一疋(容器荷造ヲ含ム)迄毎ニ 金五十圓 但シ一口金五十圓ヲ最高額トス

第一百二條ノ五 託送手荷物又ハ運送品ニ對スル引渡期間ハ左ノ各號ノ期間ヲ合算シタルモノトス

- 一 發送期間
- 二 輸送期間
- 三 集配期間

發送期間ハ託送手荷物、小荷物又ハ急行便貨物ニ付テハ運送ノ爲メ受取リタル日ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ貨物ニ付テハ其ノ日及翌日ヲ以テ之ニ充ツ

輸送期間ハ運賃計算ノ場合ニ於ケル輸送ノ經路ニ由リ各鐵道毎ニ左ノ各號ノ通トス

- 一 託送手荷物及小荷物ニ付テハ四百斤迄毎ニ一日
  - 二 貨物ニ付テハ百六十斤迄毎ニ一日但シ急行便ニ在リテハ二百五十斤迄毎ニ一日
- 集配期間ハ停車場外ニ於テ託送手荷物又ハ運送品ノ受取又ハ引渡ヲ爲ス場合ニハ其ノ各ニ付一日トス
- 鐵道ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ託送手荷物又ハ運送品ガ延著シタル場合ニ於テハ其ノ遅延日數丈ケ引渡期間

ハ延長セラレタルモノト看做ス  
託送手荷物又ハ運送品ノ引渡アリタル場合ニ於テハ鐵道方其ノ引渡ノ準備ヲ爲シ且到達ノ通知ヲ發スベキモノニ付其ノ通知ヲ發シタルトキハ其ノ後ノ期間ニ付テハ鐵道ノ責ニ歸スベキ理由アル場合ヲ除クノ外引渡期間ハ之ヲ超過セザリシモノト看做ス

第二百二條ノ六 要償額ノ表示アル託送手荷物又ハ運送品ノ延著ニ因ル損害ニ付鐵道方賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テ支拂フベキ金額ハ鐵道ニ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ル

一 請求者ニ於テ延著ニ因ル損害額ヲ證明シタル場合ニ於テハ表示額ヲ限度トシテ一切ノ損害額  
二 其ノ他ノ場合ニ於テハ運賃額ヲ限度トシ延著ノ期間一日迄毎ニ運賃額ノ百分ノ十

要償額ノ表示ナキ託送手荷物又ハ運送品ノ延著ニ因ル損害ニ付鐵道方賠償ノ責ニ任ズル場合ニ於テ支拂フベキ金額ハ鐵道ニ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ル

一 請求者ニ於テ延著ニ因ル損害額ヲ證明シタル場合ニ於テハ運賃額ヲ限度トシテ一切ノ損害額  
二 其ノ他ノ場合ニ於テハ運賃額ノ二分ノ一ヲ限度トシテ延著ノ期間一日迄毎ニ運賃額ノ百分ノ五

前二項ノ場合ニ於ケル運賃額ハ當該託送手荷物又ハ運送品ノ運賃額及其ノ集配ノ爲受クル金額ヲ合算シタル額トス  
第一項第二號及第二項第二號ノ場合ニ於テ託送手荷物又ハ運送品ノ一部ガ延著シ又ハ延著ノ期間ヲ異ニスルトキ鐵道ノ支拂フベキ金額ハ延著シタル各部分ノ數量ニ付之ヲ計算ス

第二百二條ノ七 鐵道ハ託送手荷物又ハ運送品引渡ノ際滅失、毀損又ハ延著ヲ事由トシ旅客又ハ貨主ノ請求アリタルトキハ其ノ引渡品ノ數量、狀態又ハ引渡シ月日ニ付證明ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二條ノ八 鐵道營業法第十三條第二項ノ規定ニ依ル留保アリタル場合ニ於テ留保者ノ請求アルトキハ鐵道ハ之ガ證明ヲ爲スコトヲ要ス

鐵道營業法第十三條第二項ノ規定ニ依ル留保アリタル託送手荷物又ハ運送品ニ付其ノ到達、發見等ニ因リ引渡ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタルトキハ鐵道ハ賠償ヲ受ケタル者ニ對シ速ニ其ノ旨通知ヲ爲スコトヲ要ス

附 則

第三百三條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十三年十月一日ヨリ施行)

第三百四條 鐵道方外國鐵道ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ於テハ本規程ニ依ラザルコトヲ得但シ私設鐵道ニ在リテハ監督官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第三百五條 第二十三條、第六十五條及第二百二條ノ二乃至第二百二條ノ八ノ規定ハ鐵道ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル軌道、自動車又ハ索道ニ依ル運送ニ付之ヲ準用ス

官吏服務紀律

明二〇、七  
勅令 三九

第一條 凡ソ官吏ハ 天皇陛下及 天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其ノ職務ヲ盡スベシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スベシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルベカラズ

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セズ謹慎懇切ナルコトヲ務ムベシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ秘密ヲ漏洩スルコトヲ禁ズ其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ機密ニ就キ訊問ヲ受タルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ズ

第六條

官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ其職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ズ

第七條

官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ズ

第八條

官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名儀ヲ以テスルモ直接ト間接ト問ハズ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ

第九條

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ 天皇陛下ノ裁下ヲ要ス

第十條

左ニ掲ゲタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ズ

第十一條

官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

第十二條

官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

第十三條

官廳ノ用品ヲ調達スル者

第十四條

官廳ト諸般ノ契約ヲ結ブ者

第十五條

凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ

第十六條

官吏並其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ直接ト間接ト問ハズ商業ヲ營ムコトヲ得ズ

第十七條

官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ズ及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ズ

第十八條

官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ズ

第十九條

浪費ニシテ產ヲ破リ其分ニ應ゼザル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルベシ

第二十條

官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十一條

凡ソ局長、所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラザルモノハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムベシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事情ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スベシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セザル者亦過失タルコトヲ免レズ

第二十二條

本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉ズル者ニ適用ス

第二十三條

凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十四條

官吏並其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ直接ト間接ト問ハズ商業ヲ營ムコトヲ得ズ

第二十五條

官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ズ及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ズ

第二十六條

官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ズ

第二十七條

浪費ニシテ產ヲ破リ其分ニ應ゼザル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルベシ

第二十八條

官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十九條

凡ソ局長、所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラザルモノハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムベシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事情ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スベシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セザル者亦過失タルコトヲ免レズ

第三十條

本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉ズル者ニ適用ス

# 國有鐵道職員服務規程

大 一四、五  
達 三五九

第一條

國有鐵道職員（以下單ニ職員ト稱ス）ハ自己ノ本分ヲ守リ所屬上長ノ命令ニ服シ法規令達ニ從ヒ誠實ニ職務ヲ行フベシ

註

一 官吏並待遇官吏其ノ他俸給ヲ得テ公務ニ從事スル者ノ服務ニ付テハ本規程ノ外官吏服務紀律（明治二十年勅令第三九號法規總則第三章）參照

二 自己ノ本分トハ職員トシテ爲スベキ本來ノ務ヲ謂フ尙第一三條參照

三 法規令達トハ鐵道ニ關係アル法律、勅令、省令、告示、大臣達、局長達、所長達、通報、注意事項等及文書ニ依ル通達通牒類ヲ謂フ

四 以下各條定ムル所ノ大部分ハ之ヲ要スルニ規定ノ有無ニ拘ラズ當然ニ守ルベキ義務中ノ主要ナルモノヲ指示シタルニ過ギズ故ニ職員タルモノハ單ニ以下各條ヲ遵守スルヲ以テ足レリトセズ所謂健全ナル常識ノ命ズル所ニ從ツテ積極的ニ各自業務ノ改善ト成績ノ向上トヲ實現スル様努力スベキモノナリ

第二條

職員ハ常ニ品位ヲ保チ人格ヲ修養スルト共ニ職務上必要トスル智識技能ヲ會得上達セシムル様努ムベシ

註

一 品位トハ單ニ服裝姿勢言語態度等ノ外形ノミナラズ心ノ正シク清キコトヲモ含ムモノナリ

二 職務上必要トスル智識技能ノ會得上達ハ職務ノ何タルヲ問ハズ必要トスル所ナルモ就中旅客荷主等ニ直接スル運輸從事員、各種ノ工事製作修理等ニ從事スル職員、技工等ニ在リテハ特ニ急ニスベカラザル重要事ナリ

三 職員ハ社會ニ奉仕スルノ心得ヲ以テ常ニ業務ノ安全便益ヲ圖リ旅客、荷主及公衆ニ對スル取扱ノ公正ヲ期スベシ

第三條

職員ハ社會ニ奉仕スルハ鐵道ハ一般社會公衆ノ爲ニ存スル公益事業ナルヲ以テ之ニ從事スル職員ハ社會公衆ノ利便ノ爲ニ一身ヲ捧ゲテ盡スベシト謂フノ意ナリ

註

一 社會ニ奉仕スルハ鐵道ハ一般社會公衆ノ爲ニ存スル公益事業ナルヲ以テ之ニ從事スル職員ハ社會公衆ノ利便ノ爲ニ一身ヲ捧ゲテ盡スベシト謂フノ意ナリ

二 業務ノ安全便益ヲ圖リトハ旅客荷物ノ輸送等ニ關シ取扱上ノ事故ヲ防止シ利用者ノ便益ヲ主トスベシト謂フノ意ナリ

三 取扱ノ公正トハ人ニ依リ又ハ場合ニ依リ差別ヲ設ケズ公平無私ノ取扱ヲ爲スベシトノ意ナリ、旅客荷主等ニ直接スル從事員ニ在リテハ特ニ相手方ノ身分ノ高下親疎ノ別等ニ依リ取扱ヲ二三ニスルガ如キコトナキ様注意ヲ要ス、本條前段ニ所謂業務ノ便益トハ斯ル不純ノ動機ニ依ル不公平ノ取扱ヲ意味スルモノニ非ザルハ勿論ノコトナリ

第四條

職員ハ職務ヲ行フニ際シ其ノ内外ヲ問ハズ懇切丁寧ヲ旨トシ荷クモ禮讓ヲ失スルノ舉動アルベカラズ

註

一 其ノ内外ヲ問ハズトハ職員相互間タルト旅客公衆等職員外ノ者ニ對スルトヲ問ハズト謂フ意ナリ

二 本條モ亦旅客荷主等ニ直接應對スル職員ノ特ニ注意スベキ事項ナリ

第五條

職員ハ職務ヲ行フニ際シ簡捷正確ヲ旨トシ常ニ關係員相互間ニ連絡ヲ圖リ協力互助ノ精神ヲ失フベカラズ

註

一 簡捷正確トハ形式、手續等ノ繁雜ヲ避ケ然モ取扱上ノ過誤ヤ期日時間等ヲ遅延スルガ如キコトナキ意ニシテ對外關係トシテハ業務ノ便益トナリ對內關係ニ在リテハ能率ノ増進トナル

二 本條後段ハ鐵道ノ如ク各擔當ヲ別ニスル多數職員ノ集團ニ依リ業務ヲ執ル場合ニ在リテハ責任ノ轉嫁回避等ハ最忌ムベキコトニシテ相互連絡協調ノ精神ヲ尊重スベキ意ナリ、運轉事故等火急咄嗟ノ場合ニ在リテハ特ニ此ノ精神ヲ失ヒ易キコトアリ注意スベシ

第六條

職員ハ擔當業務ノ緩急輕重ヲ考ヘ適切ナル處理ヲ爲ス様努ムルト共ニ期間若ハ期日ノ定アルモノニ就キテハ之ヲ嚴守スル様心掛クベシ

註

一 業務ノ緩急輕重ニ依ル處理ハ一見第三條ニ所謂取扱ノ公正ト撞着スルガ如キモ必ズシモ然ラズ緩急輕重ノ判斷ヲ正當ニ爲スコトガ却ツテ取扱ノ公平ヲ期スル所以ナルコトアルヲ知ラザルベカラズ

二 提出期日ノ定アル報告類其ノ他臨機急ヲ要スル調査等ニ關シテハ往々ニシテ其ノ期限ヲ遅延スルガ爲業務ノ處理上豫想外ノ不都合ヲ來スコトアリ特ニ注意ヲ要ス

第七條

職員ハ濫ニ缺勤遅刻早退シ又ハ所屬上長ノ許可ナクシテ職務上ノ居住地若ハ執務場所ヲ離レ執務時間ヲ變更シ又ハ職務ヲ交換スルコトヲ得ズ

註

一 鐵道部内職員執務時間其ノ他ニ關スル件  
官舎取扱規程

二 工場員勤務時間規程(以上法規總則第三章)參照

第八條

職員ハ自己ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハズ機密ヲ洩ラスベカラズ其ノ職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

註

一 機密ナリヤ否ヤハ單ニ「秘扱」ノ指定アルモノニ限リ限定セラレズ廣ク各事項ノ内容ニ依リ判斷識別スベキモノナリ  
職員ハ裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トナリタル場合ニ於テモ所屬上長ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ職務上ノ機密ヲ供述

第九條

スルコトヲ得ズ

註

一 證人、鑑定人ニ關シテハ民事訴訟法及刑事訴訟法等參照

第十條

職員ハ職務上未發ノ文書ヲ他人ニ漏ラスコトヲ得ズ

註

一 未發ノ文書トハ正當ニ相手方ニ發送セラレズ又ハ公表前ニ屬スル文書ナリ決裁前後ヲ問ハズ  
職員ハ所屬上長ノ許可ヲ得タル場合ノ外職務ニ關シ報酬其ノ他何等ノ名義ニ拘ラズ贈遺慶應其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ズ

第十一條

職務ニ關係アル限リニ於テハ其ノ事前タルト事後タルト又利益ヲ與フル者ガ職員タルト外部者ナルトヲ問ハザルナリ

註

一 職員ハ職務ニ關スルト否トヲ問ハズ所屬職員ヨリ贈遺慶應其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ズ  
本條ハ職務ニ關係ナキ場合モ禁止セリ之レ上長トシテ人事ノ公正ヲ保ツ上ニ於テ極メテ必要ナレバナリ但シ吉内事等ノ際全ク人情風俗ノ美ニ出ヅル場合ハ上長ノ健全ナル判斷ニ俟ツノ外ナシ

第十二條

職員相互間ニ在リテモ中元歳暮等禮儀ニ互ル贈答等ハ務メテ之ヲ廢止シテ生活完費ヲ除クコトニ心掛クベキナリ

註

一 本條ノ職員忠實ノ義務(規程第一條參照)即チ一身ヲ捧ゲテ職務ニ盡スノ必要ヨリシテ原則トシテ副業ヲ禁ズルノ趣旨ナリ故ニ勤務時間外ニ於ケル業務モ亦上長ノ許可ヲ必要トス尙規程第二八條參照  
二 官吏ニ在リテハ家族ノ商業ニ關シテモ上長ノ許可ヲ必要トス(官吏服務紀律參照)

第十三條

職員ハ其ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハズ火氣ノ取扱ニ注意スベシ

註

一 擔當業務トハ自己ノ直接分擔シテ從事スル業務ナリ管掌業務トハ自己ガ直接從事セザルモ職務ノ系統上指導監督ノ責アル業務ナリ  
二 業務上事故ノ發生ヲ防止スベキコトハ當然ニシテ特ニ規定スルノ要ナキモ旅客荷物ノ取扱輸送ニ從事スル職員ニ在リテハ特ニ事故ノ防止ヲ業務上ノ第一義トシテ常ニ緊張ヲ要スルモノナルヲ以テ本條ヲ以テ注意ヲ喚起シタルモノナリ尙規程第一條、第三條、第五條、第六條、第七條、第一四條、第一九條、第二一條、第二二條、第二三條、第二四條、第二六條第二八條等參照

第十四條

職員ハ其ノ職務ニ關シテ事故ヲ惹起セシメザル様努ムベシ

註

一 擔當業務トハ自己ノ直接分擔シテ從事スル業務ナリ管掌業務トハ自己ガ直接從事セザルモ職務ノ系統上指導監督ノ責アル業務ナリ  
二 業務上事故ノ發生ヲ防止スベキコトハ當然ニシテ特ニ規定スルノ要ナキモ旅客荷物ノ取扱輸送ニ從事スル職員ニ在リテハ特ニ事故ノ防止ヲ業務上ノ第一義トシテ常ニ緊張ヲ要スルモノナルヲ以テ本條ヲ以テ注意ヲ喚起シタルモノナリ尙規程第一條、第三條、第五條、第六條、第七條、第一四條、第一九條、第二一條、第二二條、第二三條、第二四條、第二六條第二八條等參照

第十五條

職員ハ事故發生シタルトキハ之ニ對スル應急處置、救護復舊ノ爲ニスル應接連絡、原因ノ調査、關係箇所ニ對スル報告

第十六條

職員ハ事故發生シタルトキハ之ニ對スル應急處置、救護復舊ノ爲ニスル應接連絡、原因ノ調査、關係箇所ニ對スル報告



等機宜ノ措置ニ就キ敏速、果斷、細心ヲ旨トシ萬遺漏ナキコトヲ期スベシ

註 一 事故發生ノ際ニ於ケル具體的處置ニ就キテハ運轉取扱心得（法規運轉第一章）其ノ他各種從業員服務規程（法規總則第三章）等參照

二 運轉事故ノ發生シタル場合最注意スベキ點ハ關係者相互間ニ於ケル應接連絡ノ急速密接ナルコトト指揮命令者ノ系統ヲ定メ之ヲ集中統一スルコトトニ存ス責任ノ回避、權限ノ固執等ハ最忌ムベキコトナルヲ忘ルベカラズ尙規程第一八條第三八條參照

三 本條ハ一般職員トシテ心掛クベキ要項ナルモ特ニ長主任等ノ上長タルモノハ一層玩味遵守スベキモノナルコトヲ忘ルベカラズ

### 第十七條

職員ハ自己ノ權限ニ屬シ若ハ委任セラレタル事項ト雖重大又ハ異例ト認ムル場合ハ所屬上長ノ指揮ヲ承クベシ

### 第十八條

職員ハ自己ノ擔當ニ屬セザル事項ト雖火急ノ場合ニシテ且所屬上長ノ指圖ヲ待ツノ暇ナシト認ムルトキハ臨機ノ處理ヲ爲スベシ但シ其ノ取扱ニ特別ノ制限又ハ資格ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項本文ノ場合ニ在リテハ事後直ニ所屬上長ニ其ノ旨ヲ報告シ又ハ正當擔務者ニ引繼グベシ

### 第十九條

一 取扱ニ特別ノ制限又ハ資格ヲ要ストハ列車運轉ノ取扱ハ驛長又ハ運轉掛ニ機關車ノ操縱ハ機關手ニ限定セララルガ如シ

二 運轉取扱心得及各種從業員採用規程（法規運轉第一章及同總則第三章）等參照

註 一 現金ニ關シテハ帝國鐵道會計事務規程、鐵道會計事務取扱細則（法規會計第一章）參照、物品ニ關シテハ物品會計規則及物品事務規程（同物品第一章）工務關係工事材料及工用器具機械取扱手續（同工事第二章）電氣關係工用物品取扱手續（同電氣第三章）等參照

### 第二十條

職員ハ所要材料及消耗品ノ使用ニ關シテ左ノ諸點ニ注意スベシ

一 努メテ節約ヲ圖ルコト

二 貯藏ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ數量ヲ適當ナラシムルコト

三 過剩又ハ不用品アルトキハ請求ノ調節、返納、轉用等機宜ノ方法ヲ講ズルコト

註 一 材料品、備品及消耗品ノ區別ニ就キテハ物品事務規程（法規物品第一章）參照

第二十一條 職員ハ其ノ取扱使用ニ係ル備品ノ整理保存ニ注意シ殊ニ器具機械類ニ就キテハ時々之ヲ檢査若ハ試用シテ其ノ完全ナルコトヲ期スベシ

註 一 備品ノ整理ニ關シテハ物品事務規程參照

二 消火器、携帶用電話器等ハ特ニ其ノ完否ヲ時々試驗スル要アリ

### 第二十二條

職員ハ其ノ取扱ニ係ル文書法規類ノ整理ニ注意シ殊ニ公文書ノ保管場所ヲ定メ之ヲ明示スベシ

註 一 法規類ノ加除訂正ノ整理セラレザルモノ多シ注意ヲ要ス

二 公文書ノ保管場所ヲ二三ニスルコトハ紛失遲延等ノ事故ヲ惹起スル原因ナリ殊ニ擔當者缺席出張等ノ場合事務ノ代理處理ヲ不可能ナラシムル弊頗ル大ナリ注意スベシ尙規程第三五條、第三七條參照

### 第二十三條

職員ハ其ノ關係スル建造物車輛機械其ノ他ノ一般施設物ノ整備取扱ニ注意シ破損亡失等ノコトナキ様努ムベシ

註 一 入換中ニ於ケル車輛ノ破損、運用中ニ於ケル貨車用覆布、綱ノ亡失等ニ特ニ注意ヲ要ス

### 第二十四條

職員ハ職務上携帶スル時計ヲ齊正スベキ者ニ付亦同ジ

### 第二十五條

職員ハ濫ニ他人ヲシテ執務場所ニ立テ入ラシムルベカラズ

### 第二十六條

職員ハ勤務ノ交代ニ當リテハ成規ノ定ムル所ニ依リ成規ナキ場合ハ帳簿口頭其ノ他適當ノ方法ニ依リ其ノ詳細ヲ引繼グベシ

### 第二十七條

職員ハ自他ノ衛生ニ關シテ左ノ事項ヲ注意スベシ

一 執務場所其ノ他關係箇所ノ清潔ヲ保ツコト

### 第二十八條

職員ハ常ニ身神ノ休養ニ注意シ殊ニ徹夜其ノ他特殊ノ勤務ニ服スル者ニ在リテハ非番日其ノ他ノ休養時間ヲ濫用セザル様努ムベシ

註 一 休養時間ノ濫用ハ健康ヲ害シ且事故ヲ惹起スル素因ナリ直接列車運轉ニ從事スル職員ニ在リテハ特ニ注意ヲ要ス

### 第二十九條

職員ガ他ノ職務ヲ兼掌又ハ代務スルトキハ當該職員ニ關スル服務規程ニ依ルモノトス

### 第三十條

職員ハ其ノ服務ニ關シ特別ノ規定アル場合ハ當該規定ニ依リ當該規定ナキ又ハ抵觸セザル條項ニ限り本規程ニ依ルモノ

トス

註一 運輸従事員、汽車従事員、保線従事員、電氣従事員、船舶従事員工場従事員等ニ關スル服務規程（法規總則第三章）參照

第三十一條 上長ハ服務ニ關シ常ニ所屬員ノ模範トナリ所屬員ヲ指導訓練シテ前各條ノ規定ヲ遵守勵行セシムル様努ムベシ

註一 上長トハ或範圍ノ職員ニ對シ指導監督命令ノ責ニ任ズル者ヲ總稱ス一定ノ職名ヲ有スルト否ト内勤ト外勤タルトノ間ハザルナリ

二 以下數條ハ上長トシテ特ニ遵守シ若ハ心掛クベキ事項ヲ規定シタルモノナルモ上長ニ依リ權限ニ廣狹アルヲ以テ以下各條ノ規定スル所ヲ自ら處理シ得ル者ト然ラザル者トアルベシ自ら處理シ能ハザル者ハ權限アル上長ニ進達シテ其ノ指圖ヲ受クベキ義務アルコトヲ忘ルベカラズ

第三十二條 上長ハ所屬員ノ勤務ヲ按排シ適當ニ事務又ハ作業ノ分擔ヲ定メ所屬員ノ負擔ヲ成ルベク公平均等ナラシムル様努ムベシ

第三十三條 上長ハ所屬員ノ執務ヲ監督シ其ノ適否勤怠功過ニ付常ニ公正ノ判斷ヲ持シ配置進退賞罰ヲ適切ナラシムルコトヲ期スベシ

註一 本條ハ能率増進、業績向上ノ根本ナルコトヲ注意スベシ特ニ所屬員ニ對スル適否ヲ判斷シテ適材適所ノ配置ヲ爲スコトヲ忘ルベカラズ

二 文官任用令、分限令、俸給令、各種従事員採用規程、職員表彰規程、文官懲戒令、鐵道部内雇員懲戒規則（法規總則第三章）及局所長職務權限並委任事項（法規總則第二章）等參照

第三十四條 上長ハ所屬員ヲシテ關係法規令達類ヲ會得セシメ殊ニ日々執務上必要ナル令達ハ適當ナル方法ニ依リ之ヲ熟知セシムル様努ムベシ

註一 適當ナル方法トハ點呼ノ際關係従事員ニ通告シ又ハ執務場所ニ掲記シテ注意ヲ促シ或ハ時々講習試問スル等各種ノ方法ヲ謂フ尙職員講習會規程（法規總則第三章）參照

第三十五條 上長ハ時々所屬員ノ保管セル未決又ハ未發文書報告類ヲ點檢シ内容ノ緩急輕重ニ依リ機宜ノ指示ヲ與フル等常ニ業務ノ進行ヲ圓滑ナラシムル様努ムベシ

註一 上長ハ收受文書ヲ所屬各擔當者ニ配付スル際其ノ緩急輕重ニ依リ適當ノ指示ヲ爲スベキコト勿論ナル方更ニ本條ニ依リ未決文書ヲ點檢シテ具體的ニ指示スルコトモ亦極メテ緊要ナルコトヲ忘ルベカラズ尙規程第六條及第二二條參照

第三十六條 上長ハ事務又ハ作業ノ繁閑ヲ考ヘ必要ニ應ジ所屬員ヲ相互融通執務セシメ配員上元費ヲ除ク様努ムベシ

註一 貨客ノ輸送業務ノ如キ季節ニ依リ地域ニ依リ又同一驛所ニ在リテモ時間ニ依リ繁閑ノ度ヲ異ニスルコト頗ル多キヲ以テ最繁忙時期ヲ標準トシテ定員ヲ配置スルガ如キハ務メテ之ヲ避ケ彼此相融通シテ經費ノ節約ヲ期スベキモノナリ尙規定第三二條參照

第三十七條 上長ハ專任ノ擔當者ナキトキ又ハ擔當者中ニ缺員缺勤アルトキハ他ノ擔當者ヲシテ其ノ職務ヲ兼掌又ハ代務セシメ又ハ自ら之ヲ處理スベシ

第三十八條 上長ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ所屬上長ノ許可アル場合ノ外他ノ規定ニ依リ取扱者ニ制限アルモノ又ハ其ノ採用ニ特別ノ資格ヲ要スル者ノ職務ニ他ノ職員ヲ充當スルコトヲ得ズ但シ事故其ノ他火急ヲ要スル一時の場合ニシテ所屬上長ノ許可ヲ受クル暇ナク然モ業務上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限リニ在ラズ

註一 規程第一八條註參照

第三十九條 上長ハ所屬員ニ傳染病患者發生シタル場合ハ直ニ關係箇所ニ報告シ消毒隔離、遮斷等機宜ノ處置ヲ講ズベシ

註一 傳染病豫防規程及消毒規程（法規總則第四章）參照

# 運輸、運轉従事員職制及服務規程

（抜萃） 六一四、四 達二四七

## 第一章 驛、營業所、操車場、信號場、信號所従事員

### 第一節 總則

第一條 驛（略）従事員ノ職名、職務及指揮系統ハ左ノ通トス

職名	職	務
驛長	所屬員ヲ指揮監督シ驛、營業所、操車場、信號場又ハ信號所ニ屬スル一切ノ業務ヲ處理ス	直接指揮者
助役	驛長ヲ輔佐シ又ハ之ヲ代理ス	運輸事務所長又ハ鐵道局出張所長

貨物掛 貨物ノ取扱及之ニ附帯スル一切ノ事務ニ從事ス  
 特ニ命ゼラレタルトキハ營業倉庫寄託物ノ取扱及之ニ附帯スル一切ノ事務ニ從事ス  
 諸機掛 貨物積卸用機械ノ操縦及保守ニ從事ス  
 諸機手 諸機掛ノ職務ヲ補助シ又ハ之ヲ代行ス  
 驛手世話掛 驛手、荷扱手ヲ指導シ驛手又ハ荷扱手ノ職務ニ從事ス  
 驛手 荷物ノ積卸、運搬、車輛ノ手押入換、電報ノ配達、室内外ノ清掃、燈器ノ掃除、配置、點火、消火其ノ他ノ雜務ニ從事ス  
 荷扱手 荷物ノ積卸、運搬、配達、車輛ノ手押入換、覆布ノ小修繕、掃除其ノ他ノ雜務ニ從事ス  
 守衛 貨物關係構内ノ警戒、取締ニ從事ス  
 驛(略) 從業員ハ法規令達ヲ守ルベキハ勿論ナルモ旅客、荷主及公衆ニ應對スルニ當リテハ其ノ字句ニ拘泥シテ非常識ニ流レ相手方ニ不快ヲ感ゼシムルガ如キコトナキ様ニ注意スベシ

第二節 驛長

第三條 驛長ハ常ニ運輸ノ狀況ニ注意シ關係箇所長トノ連絡ヲ保チ相協調シテ全般ノ成績ヲ舉グル様ニ努ムベシ  
 第六條 驛長ハ受託荷物ノ品種、運送距離等ニ應ジテ發送列車ヲ適當ニ選ビ途中ノ中繼ヲ省ク等其ノ速達ヲ圖ルベシ  
 第七條 驛長ハ旅客及荷物ノ運賃表、列車運轉時刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表、諸規則ヲ整ヘ置キ旅客、荷主及公衆ノ申出アルトキハ之ヲ閱覽ニ供シ必要ニ應ジテ説明スベシ  
 第八條 驛長ハ各種指示、指導標及廣告類ヲ整理スベシ  
 第十一條 驛長ハ線路不通等ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ周知セシムルノ方法ヲ探ルベシ不通線路開通シタル場合及豫メ其ノ開通時期ヲ知り得タル場合亦同様トス  
 第十三條 驛長ハ受託貨物ニ對シ貨車ヲ配給スルトキハ公平ヲ期シ且貨物ノ品種ニ應ジテ適當ナル貨車ヲ配給スル様ニ努ムベシ  
 第十四條 驛長ハ緩急車、同代用車及積合車ニ對スル積載量ノ充實、發着貨車ノ停留時間ノ短縮ニ努ム車輛効率ノ増進ヲ期スベシ  
 第十五條 驛長ハ輸送貨車ト輸送力トノ關係ヲ考ヘ貨物列車ノ運轉又ハ休止ニ付機宜ヲ失ハザル様ニ注意スベシ  
 第十六條 驛長ハ連結受持區域内ノ各驛ニ於テ連結スベキ貨車ノ模様ニ注意シ連結貨車ヲ適當ニ當割ツベシ

第十七條 驛長ハ貨物列車ヲ組成スルトキハ途中ニ於ケル入換作業ヲ省キ且輸送力ヲ有效ニ利用スル様ニ努ムベシ  
 第二十四條 助役ノ服務ニ付テハ驛長ノ服務ニ關スル規定ニ依ル

第九節 貨物掛

第五十七條 貨物掛ハ諸機掛、驛手世話掛、驛手、豫備驛手、荷扱手及守衛並貨物積卸、集配及貨車手押請負人ヲ指示督勵シテ貨物事故ヲ發生セシメザル様ニ注意スベシ  
 第五十八條 貨物掛ハ貨物移動ノ模様ニ注意シ著シク常態ト異ナルモノアルトキハ驛長ニ報告スベシ  
 第五十九條 貨物掛ハ貨物ノ受取、引渡及監査ヲ爲スベシ  
 第六十條 貨物掛ハ貴重品ノ受取、引渡又ハ引繼ニ付テハ特ニ其ノ受授ヲ正確ニスベシ  
 第六十一條 貨物掛ハ火藥類又ハ危險品等事故ノ發生シ易キ貨物ニ付テハ特ニ其ノ取扱ニ注意シ且成ルベク旅客乗降場ト隔離シタル場所ニ於テ之ヲ取扱フベシ  
 第六十二條 貨物掛ハ貨物引換證又ハ船荷證券付貨物ニ付テハ貨物ヲ受取ラズシテ證券ヲ交付シ又證券ヲ回收セズシテ貨物ヲ引渡スガ如キコトナキ様ニ注意スベシ  
 第六十三條 貨物掛ハ輸移出入貨物ノ取扱ニ當リテハ税關、檢疫所等トノ連絡ヲ圖リ運送ヲ圓滑ナラシムベシ  
 第六十四條 貨物掛ハ附添人ヲ乗車セシムルトキハ其ノ乗車ノ箇所其ノ他必要ナル事項ヲ指示スベシ  
 第六十五條 貨物掛ハ貨物ノ保管ヲ嚴重ニシ且貨物置場ヲ整理スベシ  
 第六十六條 貨物掛ハ貨車ノ使用ニ先チ破損其ノ他ノ故障ナキコトヲ確メ且車内ノ清掃ニ注意スベシ  
 第六十七條 貨物掛ハ宅扱、小口扱及應扱貨物ノ積付ニ注意シ且貨物積載量ノ充實ヲ圖リ貨車ノ効率ノ増進ニ努ムベシ  
 第六十八條 貨物掛ハ宅扱、小口扱及應扱貨物ヲ發送又ハ中繼スルトキハ努メテ途中ノ中繼ヲ省キ貨物ヲ速達セシムル様ニ注意スベシ  
 第六十九條 貨物掛ハ貨物積卸作業ヲ迅速ナラシメ貨車停留時間ノ短縮ヲ圖リ又貨物集配作業ヲ督勵シテ集配ヲ速ラシメザル様ニ努ムベシ  
 第七十條 貨物掛ハ連帶線所屬貨車到着シタルトキハ速ニ積卸ヲ完了シ所定ノ經路ニ由リテ所屬鐵道ニ返送スベシ

第七十一條 貨物掛ハ緩急車又ハ同代用車積貨物ノ積卸ノ爲列車ヲ遅ラシメザル様ニ豫メ列車ノ停止位置ヲ考ヘ荷物ヲ搬出シ置ク等積卸作業ヲ敏活ナラシムベシ

第七十二條 貨物掛ハ貨車用覆布及綱ヲ丁寧ニ取扱ハシメ且之ヲ無益ニ停留セシムベカラズ

第七十三條 貨物掛ハ毎朝衝器ヲ検査シ其ノ汚穢ニ注意シ其ノ他機械、器具類ヲ整備スベシ

第七十四條 貨物掛ハ運賃、料程、運送區域、荷物集配區域表其ノ他必要ナル諸表ヲ備ヘ常ニ之ヲ完全ニ爲シ置クベシ

第七十五條 貨物掛ハ營業倉庫寄託物ノ取扱ヲ命ゼラレタルトキハ特ニ左ノ各號ニ注意スベシ

- 一 守衛、荷扱手、出入庫作業請負人等ヲ督勵シテ事故ノ發生ヲ防止スルコト
- 二 貨物ノ積付方ニ注意シ且倉庫收容量ノ充實ヲ圖ルコト
- 三 貨物ノ種類、性質等ニ應ジ盜難、火災、腐敗、變質、濡損、鼠害等ニ對スル防護方法ニ留意スルコト
- 四 現品ト帳表類及帳表類相互ノ對照ニ努メ錯誤ナキヲ期スルコト
- 五 貨物ノ受取、引渡ニ付テハ特ニ其ノ受授ヲ正確ニスルコト
- 六 倉庫證券ヲ發行シタル貨物ニ付テハ貨物ヲ受取ラズシテ證券ヲ交付シ又ハ規定ニ反シ證券ヲ回收セズシテ貨物ヲ引渡スガ如キコトナカラシムルコト
- 七 貨物ノ保管期間及倉庫ノ貸貸期間ニ留意シ期間満了ノ際ニ於ケル所定ノ通知又ハ催告ヲ怠ラザルコト
- 八 倉庫用鍵ノ保管及受授ヲ嚴重ニスルコト
- 九 倉庫出入者ノ取締ヲ嚴重ニシ且無用ノモノヲ出入セシメザルコト

第十節 諸 機 掛

第七十六條 諸機掛ハ機械器具各部ノ検査手入ニ努メ且之ガ清掃ニ注意シ常ニ良好ナル狀態ニ保持スベシ

第七十七條 諸機掛ハ機械器具ニ不良ノ箇所アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ貨物掛ニ報告スベシ

第七十八條 諸機掛ハ貨物ノ積卸ニ從事スルトキハ貨物又ハ車輛ヲ毀損セシメザル様ニ注意スベシ

第十節ノ二 諸 機 手

第七十八條ノ二 諸機手ノ服務ニ付テハ諸機掛ノ服務ニ關スル規定ニ依ル

第二十三節 驛 手

第四百四十四條 驛手ハ荷物ノ積卸、運搬ヲ爲ストキハ丁寧ニ取扱ヒ毀損等ノ事故ヲ發生セシメザル様ニ注意スベシ

第四百四十五條 驛手ハ火藥類、危險品其ノ他破損シ易キ荷物ノ取扱ニ付テハ之ヲ投ゲ、之ニ衝擊ヲ與ヘ、火氣ヲ近ヅケ又ハ手鉤類ヲ用フベカラズ

第四百四十六條 驛手ハ車輛ノ手押入換ヲ爲ストキハ前方ノ線路及關係轉轍器ニ注意シ且激突等ノコトナカラシムル様ニ注意スベシ

第二十五節 荷 扱 手

第四百四十九條 荷扱手ハ荷物ノ積卸、運搬ヲ爲ストキハ丁寧ニ取扱ヒ毀損等ノ事故ヲ發生セシメザル様ニ注意スベシ

第四百五十條 荷扱手ハ火藥類、危險品其ノ他破損シ易キ荷物ノ取扱ニ付テハ之ヲ投ゲ、之ニ衝擊ヲ與ヘ、火氣ヲ近ヅケ又ハ手鉤類ヲ用フベカラズ

第四百五十一條 荷扱手ハ荷物置場ヲ整理シ且荷物ノ雨濡、盜難等ノ事故ヲ起サザル様ニ注意スベシ

第四百五十二條 荷扱手ハ車輛ノ手押入換ヲ爲ストキハ前方ノ線路及關係轉轍器ニ注意シ激突等ノコトナカラシムル様ニ注意スベシ

第四百五十三條 荷扱手ハ掛員ヨリ配達スベキ荷物ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ配達スベシ

第四百五十四條 荷扱手ハ配達荷物ノ著拂運賃、料金、引換代金又ハ立替金ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ掛員ニ引渡スベシ

第四百五十五條 荷扱手ハ配達荷物ヲ荷受人ニ引渡スコト能ハザルトキハ之ヲ持戻リ掛員ニ引渡シ其ノ事由ヲ告グベシ

第四百五十六條 荷扱手ハ覆布及綱ヲ丁寧ニ取扱フベシ

第二十五節ノ二 守 衛

第四百五十七條ノ二 守衛ハ荷主、公衆ニ對シテハ親切丁寧ヲ旨トスベシ

第四百五十七條ノ三 守衛ハ驛構内ノ荷主、公衆及車馬ノ集散スル場所ノ混雜ヲ來サザル様ニ努ムベシ

第四百五十七條ノ四 守衛ハ門戸ノ開閉、出入者ノ取締ヲ爲シ常ニ驛構内ヲ警戒シテ盜難、火災ノ豫除ニ注意スベシ

第四百五十七條ノ五 守衛ハ荷主公衆ノ待合所、荷物置場等ノ整頓、掃除ニ注意スベシ

# 鐵道省分課規程

(抜萃)

大九、五

第十二條 運輸局ニ左ノ八課ヲ置ク

- 一 總務課
- 二 旅客課
- 三 貨物課
- 四 配車課
- 五 運轉第一課
- 六 運轉第二課
- 七 船舶課
- 八 自動車課

第十五條 運輸局貨物課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 貨物取扱上ノ施設計畫ニ關スル事項
- 二 貨物ノ運賃及料金ニ關スル事項

第十六條 運輸局配車課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 貨物輸送上ノ施設計畫ニ關スル事項
- 二 貨車及附屬ノ配給ニ關スル事項

# 鐵道局分部規程

(抜萃)

大五、八

第一條 鐵道局ニ左ノ八部ヲ置ク

- 一 總務部
- 二 運輸部
- 三 運轉部
- 四 工務部
- 五 電氣部
- 六 經理部
- 七 船舶部
- 八 自働車部

第七條 運輸部ニ左ノ四課ヲ置ク

- 一 庶務課
- 二 旅客課
- 三 貨物課
- 四 自働車課

第八條 運輸部庶務課ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 四略
- 二 旅客及荷物事故ノ調査報告
- 三 停車場ノ設置及廢止
- 四 連帶運輸及停車場ノ共同使用
- 五 專用鐵道並専用側線ノ作業契約
- 六 客車貨車ノ借入及使用許可
- 七 (以下略)

第十條 運輸部貨物課ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 貨物取扱ノ施設
- 二 貨物狀況ノ調査

- 三 貨物運賃及料金
  - 四 貨物集配、積卸及貨車手押入換
  - 五 停車場附屬倉庫及貨物置場ノ使用許可
  - 六 貨物ノ通關代辦
  - 七 船車連絡地點ニ於ケル連絡作業
  - 八 衡器ノ検査及扛重機ノ使用
  - 九 貨物運送補助營業ニ關スル業務
  - 十 貨物輸送設備ノ調査
  - 十一 貨車及附屬品ノ集配
  - 十二 貨物列車ノ編成及運行ノ調査
  - 十三 貨物輸送成績ノ調査
- 第三十一條 經理部審査課ハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 運輸並附帶ノ收入及諸拂戻金ノ審査及計算
  - 二 驛、荷扱所及船舶等ノ備付ノ帳表類及乘車船券類ノ検査
  - 三 運輸ノ統計

## 各事務所、工場事務分掌規程

(抜萃)

昭一、一、五八  
札達甲一五七

第三條 運輸事務所營業係ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 旅客、荷物並ニ貨物ノ取扱及輸送
- 二 客車、貨車ノ編成並ニ運用
- 三 客車用品類ノ整備及運用

- 四 列車乗務員ノ運用
- 五 省營自動車ノ運輸及運轉
- 六 荷物事故ノ調査、報告並ニ防止
- 七 貨物運送取扱業並ニ荷物運送補助營業
- 八 運輸關係ノ設備調査
- 九 驛倉庫ノ使用並ニ貨物積置用空地ノ一時的使用許可、除柵及箱番
- 十 度衡器ノ整備並ニ検査
- 十一 運輸關係諸願及陳情
- 十二 鐵道司法警察並ニ移動警察
- 十三 構内諸營業並ニ列車内營業
- 十四 揭示並ニ廣告

## 運輸従事員安全作業心得

(抜萃)

昭一三、〇四七  
札達甲一〇四

驛員

一 一般關係

- 1 常ニ健康ニ注意シ休養ヲ怠ラザルコト
- 2 家族並ニ同僚トノ圓滿ニ留意シ常ニ明朗ナル氣分ノ保持ニ努ムルコト
- 3 可成早目ニ出勤出場シ心ニ餘裕ヲ持ツコト
- 4 規律ヲ重ンジ反則又ハ冒險的行爲ヲ爲サザルコト
- 5 服裝ヲ整正シ輕快ナル身仕度ヲ爲スコト
- 6 聽音ヲ妨グル防寒具又ハ兩具等ヲ附ケ線路通行或ハ構内作業ヲ爲サザルコト

- 7 常ニ時計ヲ齊正シ置クコト
  - 8 作業ハ計畫的ニ行ヒ決シテ無理ヲ爲サザルコト
  - 9 作業中ハ安全ヲ第一トシ線路内ニ佇立シ雜談又ハ雜念ニ耽ルガ如キ行爲ヲ爲サザルコト
  - 10 各關係者トノ連絡ヲ密ニシ相互ノ打合ヲ完全ニ行フコト
  - 11 飛降り飛降りハ成ルベク行ハザルコト
  - 12 車輛乗降りノ際ハ足元ニ注意スルコト
  - 13 車輛ニ接近シ或ハ狹隘ナル車輛間ヲ通抜ケノ際ハ該車輛ノ移動シ來ルコトナキヤニ付キ注意ノコト又車輛ノ下ヲ潜ツザルコト
  - 14 足元ノ迂ル虞アル場合ハ止メ荒縄等ヲ用フルコト
  - 15 通勤時ノ通路ハ定メラレタル順路ニ從ヒ妄ニ構内ヲ通行セザルコト
  - 16 夜間構内ヲ通行スル場合ハ慣レタル場所ヲ選ブコト
  - 17 線路ヲ横斷スルトキハ必ず左右ニ注意ヲ拂ヒ慌テテ詰所ヨリ飛出スガ如キ危險ナル行爲ヲ爲サザルコト又其ノ際軌條ニ乗ラザルコト
  - 18 作業場ヘ往復ノ爲構内ヲ通行スルトキハ列車ノ運行ニ注意シ可成線路内ヲ步行セザルコト
  - 19 火氣取扱ニ就テハ格段ノ注意ヲ拂フコト
  - 20 軒下通行ノ場合ハ雪崩ニ注意スルコト
  - 21 常ニ安全設備ノ完否ヲ確ムルコト
  - 22 自他ノ作業位置ヲ認識シ他人ニ傷害ヲ與ヘザル様注意スルコト
  - 23 危險箇所又ハ支障物ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ除去スルカ又ハ其ノ旨關係掛ヘ申告スルコト
  - 24 危險箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スコト
  - 25 不熟練者ニ對シテハ懇切叮嚀ニ指導注意ヲ與ヘルコト
- 九 貨物ノ運搬積卸作業
- 1 滿載車ヲ開扉スルトキハ貨物ノ顛落防止ニ注意スルコト
  - 2 積卸中入換通告アリタルトキハ貨物ノ顛倒ニ注意シ踏板ハ直ニ取外スコト

- 3 入換作業中ハ貨車ノ扉ヲ可成閉ルコト
  - 4 雪又ハ氷ノ附着シタル足場板ヲ其ノ儘使用セザルコト
  - 5 狭キ場所ニテ貨車ヨリ飛降りハ爲サザルコト
  - 6 危險品、潤大品ノ積卸ニハ特ニ注意スルコト
- 十 貨物積卸用機械取扱作業
- 1 使用開始ニ先立チ給油状態並ニ機械各部ノ點檢ヲ爲シ操縦上支障ナキヲ確認スルコト
  - 2 所定以上ノ潤大貨物ヲ取扱ハザルコト
  - 3 荷役ハ必ず一操作毎ニ完全停止セシメタル後次ノ始動ヲ爲スコト
  - 4 機械ハ叮嚀ニ取扱ヒ貨物又ハ車輛ヲ損傷シ他人ニ危害ヲ加ヘザル様周圍ニ注意スルコト
  - 5 操縦中ハ常ニ機械ノ状態ニ注意シ不具合ノ點ヲ發見シタルトキハ直ニ應急處置ヲ施行スル外操縦者ニ於テ獨斷的取扱ヒヲ爲サザルコト

車掌區員

- 四 荷扱作業
- 1 積付荷物ハ轉落セザル様注意スルコト
  - 2 荷姿ニ留意シ袖夫木挽等ノ手荷物ハ双物混入シアルニ付注意スルコト
  - 3 箱物ハ釘、帶金等ニ注意スルコト
  - 4 籠物ハ刺アルニ付取扱上注意スルコト
  - 5 長尺物長鐵等ノ取扱ヒニハ特ニ注意スルコト
  - 6 鐵板トタン板等ノ取扱ヒハ縁先端ニ注意スルコト
  - 7 荷物中ヨリ突出セルモノナキヤ良ク調ブルコト
  - 8 取卸シ個數ハ豫報ヲ勵行シ作業ニ當リ周章セサルコト
  - 9 列車停止前又ハ進行後荷物ノ積卸シヲ爲サザルコト
  - 10 車扉開閉ニ當リテハ手指ヲ挾マザル様注意スルコト
  - 11 代用車開封ノ際手指ヲ負傷セザル様注意スルコト

12 火藥危險品ノ取扱ハ慎重ニ爲スコト  
13 手套ハ常ニ用ヒ之ヲ放サザル様心懸クルコト

## 地方鐵道法

(抜萃) 大八、四  
法五二

- 第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ運輸ヲ開始スルコトヲ得ズ  
第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クベシ  
監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ變更ヲ命ズルコトヲ得  
第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

## 銃砲火藥類取締法

(抜萃) 明四三、四  
法五三

- 第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
一 本法ノ適用ヲ受クベキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍  
二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱  
三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項  
四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項  
五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

## 銃砲火藥類取締法施行規則

(抜萃) 明四四、三  
勅一六

- 第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ(略)  
第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ掲グル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ  
一 火藥、硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類  
二 爆藥、雷酸鹽(雷求ノ類)起爆ノ用途ニ供スル窒化物(窒化鉛ノ類)其ノ他ノ起爆劑、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥(各種ダイナマイトノ類)、硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物(ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロトリユオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチールアニンノ類)及之ヲ主トスル混和物  
三 火工品、實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線(一尺ノ燃焼時間十秒以上ヲ要スルモノ)速燃導火線又ハ煙火、其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク  
雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス  
第二十二條 火藥類ハ左ニ掲グル者ガ其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ズ  
六 運送業者(一―五、七以下略)  
第二十八條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ズ

火藥類ノ種類		貯藏所ノ種類	
火	藥	火	藥
爆	藥	同	略
		三	二
		貫	貫
		同	略



銃用實包	同	三萬筒	同
銃用空包	同	三萬筒	同
銃用雷管	同	十萬筒	同
工業用雷管	同	一萬筒	同
信管、爆管、門管	同	三萬筒	同

前項ニ掲ゲザル火工品ハ其原料タル火薬又ハ爆薬ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莖及導火線ハ此ノ限リニ在ラズ  
 第三十一條 火薬類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火薬類貯藏所ニ之ヲ貯藏スベシ(略)  
 第三十六條 第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ超過スル火薬類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ズ

第三十七條 火薬類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ズ

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官署ニ之ヲ届出ヅベシ

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ授受、運搬又ハ携帯スルコトヲ得ズ

第四十四條 第二十二條、第三十一條、第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セズ

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第四十五條 第二十二條、第二十八條、第三十一條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條ノ規定ニ違反シタル者(略)又ハ本令ニ依リ許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火薬類ヲ貯藏シタル者(略)ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 左ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依リ輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣(略)之ヲ定ム

一 火薬類ノ貯藏、收納、荷造其ノ他ノ取扱ノ方法及制限  
 二 (略)

三 火薬類ノ運搬ノ方法及制限(四以下略)

### 銃砲火薬類取締法施行細則

(拔萃)

明四四、三  
 内令 二

第二十八條 銃砲火薬類取締法施行規則第三十一條ノ規定ニ依リ火薬類ヲ各別棟ノ火薬類貯藏所ニ貯藏スルハ左ノ各號ノ區別ニ依ル

一 有煙火薬、有煙火薬ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及有煙火薬ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品、硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ

過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆薬ニシテ有機硝化物ヲ含有セザルモノ

二 無煙火薬、無煙火薬ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及無煙火薬ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品

三 爆薬

四 火工品

前項第三號ヲ除クノ外各號中ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スルニハ各種類毎ニ銃砲火薬類取締法施行規則第二十八條ニ掲ゲタル數量ヲ以テ貯藏セムトスル數量ヲ除シ其ノ商ヲ加ヘ其ノ和一ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十七條 銃砲火薬類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火薬類ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ日出前又ハ日没後ニ於テ荷造、荷解、荷積、荷卸又ハ授受スルコトヲ得ズ

參照 銃砲火薬類取締法施行規則第十八條

軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火薬類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スベシ

一 火薬 一貫三百匁以内

二 銃用實包 千筒以内

三 銃用空包 千筒以内

四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莖 二千筒以内

第三十八條 銃砲火薬類取締法施行規則第三十六條ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ運搬スベキ火薬類ノ種類、數量、運搬ノ日時、方法、通路及發着ノ場所ヲ具スルコトヲ要ス

第	昭和	年	月	日	火藥類運搬許可證	住	所	氏	警察官署名
運搬許可受ケタル者									
種類									
數量									
運搬ノ日時									
運搬ノ方法									
通過ノ路									
發着ノ場所									

### 火藥類鐵道運送規程

大四、一〇  
關令

用紙美濃半切

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スル場合ハ本規程ニ依ル  
 本規程ニ於テ火藥類トハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ規定スルモノヲ謂フ  
 第二條 火藥類ノ荷送人ハ少クトモ三十六時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ求ムベシ  
 第三條 火藥類ノ荷送人ガ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クベキ場合ニ於テハ鐵道係員ハ其ノ許可證ヲ檢閱スベシ  
 第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ容器ニ收納スベシ但シ軍需ノ託送ニ係ルモノハ當該軍需所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得  
 火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ火藥、爆藥若ハ火工品ト朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉帳セシムベカラザル

モノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スベシ  
 第五條 火藥類ノ受授ハ貨物掛又ハ驛長ノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ  
 火藥類搬入ノ日時、場所及方法ニ關シテハ前項ノ係員ノ指示ニ從フベシ其ノ搬出ノ日時及方法ニ付亦同ジ  
 第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得  
 附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得ズ  
 附添人ノ乘車賃ハ三等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ズ  
 第七條 火藥類ハ木製有蓋貨車ヲ以テ運送スベシ但シ貨車ノ内部ニ鐵釘、鐵具等ノ突起シタルモノアルトキハ木板、革、布又ハ蓮ノ類ヲ以テ之ヲ覆フベシ  
 第八條 銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スベキ火藥類ハ之ヲ同一車中ニ積載スルコトヲ得ズ但シ火藥類ヲ裝填セザル雷管附又ハ爆管附藥莖ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
 第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定額ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ズ  
 第十條 火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一車中ニ混載スルコトヲ得ズ但シ銃用實包、銃用空包、火藥類ヲ裝填セザル雷管附若ハ爆管附藥莖、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線、電氣導火線、導爆線、濕藥(箱内ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ)、芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物ニ起爆劑ヲ附セザルモノ、硝酸アンモン若ハ過鹽素酸アンモンヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有セザルモノニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ、硝酸アンモンヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有スルモノ其ノ含有總量百分ノ四以下ニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ、煙火、信號焰管、發雷信號、星火ヲ發スル榴彈(十二筒以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各筒ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ)、火箭(六筒以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各筒ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ)又ハ三十底以下ノ火藥若ハ六底以下ノ爆藥(起爆劑ヲ除ク)ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 一 容器又ハ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ所ニ品名ヲ明記シタルトキ  
 二 他ノ貨物が容易ニ燃燒シ又ハ爆發ノ誘因トナルベキ虞ナキモノナルトキ  
 三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定額ノ三分ノ二ヲ超過セザルトキ  
 第十一條 前條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト混載シタルトキハ他ノ貨物ト相當間隔ヲ保タシメ又ハ墜落ノ虞ナキ個所ニ於テ他

ノ貨物ノ上積ト爲スベシ

第十二條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉輾セザル様緊密ニ積載スベシ

第十三條 火藥類ノ積卸等ヲ爲ストキハ手鉤類ヲ用ヒ若ハ投下スルコトヲ得ズ又衝動ヲ豫防シ得ル様革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スベキ場所ヲ覆ヒタルトキノ外之ヲ轉輾スルコトヲ得ズ

火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類積載ノ貨車内ニ於テハ安全燈以外ノ燈火ヲ使用シ、燭寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ又ハ喫煙スルコトヲ得ズ

火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿ツコトヲ得ズ

第十四條 火藥類ノ積卸ハ第十條但書ニ掲ゲタル火藥類ヲ除クノ外旅客乗降場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ旅客ヲ搭載シタル客車ガ場内ニ在ラザルトキハ此ノ限ニアラズ

第十五條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ規定ニ該當スルモノヲ除クノ外日出前及日没後ニ於テ受授、積卸、荷造又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條 火藥類積載貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト朱記シタル標札ヲ附スベシ

第十七條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ連結スベシ但シ不燃質物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナク且燃焼シ易カラザル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得

前項ノ適用ニ付テハボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第十八條 火藥類積載ノ貨車ハ七輛以下ニ限リ他貨物積載ノ貨車ト同一列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十九條 火藥類積載ノ貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得但シ鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第十條但書ニ掲ゲタル火藥類ノ積載貨車並ニ他ノ貨物トヲ混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 火藥類積載ノ貨車ニ在リテハ制動機ヲ使用スルコトヲ得但シ車側制動機ハ此ノ限リニ在ラズ

第二十一條 火藥類ハ成ルベク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スベシ且ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外運送中ノ他ノ貨車ニ積替フルコトヲ得ズ

第二十二條 火藥類ヲ運送スル列車停車スルトキハ特ニ車輛ノ點檢ヲ嚴ニシ危險アリト認ムルトキハ即時ニ該車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ

列車運轉中車軸發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ之ヲ冷却シ又ハ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ至リ前項ノ處置ヲ爲スベシ

第二十三條 火藥類ヲ運送スル列車二時間以上停車ヲ要スルトキハ成ルベク隔離シタル線路ニ火藥類ヲ積載シタル貨車ヲ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ヅベシ前條ノ規定ニ依リ車輛ヲ解放シタル場合亦同ジ

第二十四條 火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ荷受人ニ通知スベシ

荷受人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク火藥類ヲ停車場外ニ搬出スベシ

第二十五條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乗車スルコトヲ得ズ但シ少量ノ銃用火藥類及緩燃導火線ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

### 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

( 抜 萃 ) 六一、四 三一

第四條 行政官廳ハ保安上必要アリト認ムルトキハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受、運搬又ハ携帯ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第五條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 本法ヲ適用セザル壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ範圍

二 壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣、授受、使用、運搬其ノ他ノ取扱

第七條 第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

# 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令

(抜萃)

昭一、七  
内令二、三

第一條 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ハ攝氏三十五度ニ於テ十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯、攝氏十五度ニ於テ二氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮アセチレン瓦斯及總テノ液化瓦斯ニ之ヲ適用ス

第三條 壓縮瓦斯及液化瓦斯ノ容器ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 大容器 内容積五百リットル(鹽素瓦斯ヲ充填スルモノニ在リテハ四百リットル)以上ノモノ
- 二 中容器 内容積五十リットルヲ超エ五百リットル(鹽素瓦斯ヲ充填スルモノニ在リテハ四百リットル)ニ滿タザルモノ
- 三 小容器 内容積〇・一リットル以上五リットル以下ノモノ

第二十二條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ充填シタル容器ノ貯藏、運搬及取扱ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 危害ノ生ズル虞アル場所又ハ物件ト隔離スルコト
- 二 攝氏三十五度以上ノ場所ニ貯藏セザルコト
- 三 液化瓦斯ヲ充填シタル容器ハ其ノ溫度ヲ攝氏四十度以下ニ保ツベキ適當ノ措置ヲ爲シテ之ヲ運搬スルコト
- 四 突出セル瓦斯閉閉裝置ニ付テハ常ニ朝蓋ヲ螺着セシメ置クコト但シ内容積五リットル未滿ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 容器ハ動搖又ハ轉落等ノ虞ナカラシメ且投下其ノ他粗暴ノ取扱ヲ爲サザルコト
- 六 容器ノ瓦斯閉閉裝置及之ニ取付タル導管ノ凍塞ヲ融解シ又ハ液化瓦斯ノ容器ヲ加熱スルニハ熱濕布又ハ攝氏四十度以下ノ温湯ヲ以テスルコト

第二十三條 左ノ各號ニ該當シ當該官廳ヨリ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ非ザレバアセチレン瓦斯、攝氏三十五度ニ於テ二氣壓以上ノ壓力ヲ有スル他ノ壓縮瓦斯及總テノ液化瓦斯ヲ充填スルコトヲ得ズ

- 一 材料ニハ鋼又ハ鐵ヲ用フルコト但シ壓縮酸素瓦斯又ハ液化炭酸瓦斯ヲ充填スル小容器ニシテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタル者ノ製造シタル輕合金製ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 大容器ヲ除クノ外繼目ナク製作シタルモノナルコト
- 三 熔接シタル大容器ハ内務大臣ノ指定シタル者ノ熔接シ熔接後適當ナル方法ニ依リ燒鈍シタルモノナルコト

四 大容器ハ別ニ定ムル屈曲試験及延伸試験ニ合格シタル材料ヲ以テ製作シ中容器及小容器ハ別ニ定ムル壓潰試験及延伸試験ニ合格シタルモノナルコト

五 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ攝氏十五度ヲ標準トセル充填壓力ノ三倍以上ノ壓力、其ノ他ノ壓縮瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ攝氏三十五度ヲ標準トセル充填壓力ニ其ノ三分ノ二以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試験(容器ノ耐壓試験ハ水壓ニ依ル以下之ニ同ジ)ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル内容積ノ恒久増加ガ全増加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ノモノナルコト

六 左ノ液化瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ各表示ノ耐壓試験壓力以上ノ壓力ニ對シ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル内容積ノ恒久増加ガ全増加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ナルコトノ外充填物ノ重量一キログラムニ對シ各表示ノ内容積以上ヲ有スルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	耐壓試験壓力	内容積	瓦斯ノ名稱	耐壓試験壓力	内容積
炭酸瓦斯	二〇〇	一・三四	ホスゲン瓦斯	二五	〇・八
亞酸化窒素瓦斯	二〇〇	一・三四	油瓦斯	二〇〇	二・五
アンモニア瓦斯	三〇	一・八六	プロパン瓦斯	三〇	二・三五
鹽素瓦斯	二五	〇・八	クロルメチル瓦斯	二〇	一・二五
亞硫酸瓦斯	二〇	〇・八	クロルエチル瓦斯	一五	一・二五

七 瓦斯閉閉裝置ハ充填瓦斯ニ依リ浸蝕セラレザル材料ヲ以テ作りタルモノナルコト

八 瓦斯閉閉裝置ニハ容器ノ耐壓試験壓力ノ十分ノ八ノ壓力ニ耐ヘザル安全裝置ヲ備フルコト

九 瓦斯充填口及放出口ノネヂハ可燃性瓦斯ヲ充填スベキ容器ニ在リテハ左回轉、其ノ他ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ニ在リテハ右回轉タルコト

十 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ノ安全裝置、瓦斯閉閉裝置等瓦斯ト接觸スル部分ニハ鋼ヲ用ヒザルコト

十一 外部ニ損傷ヲ生ジタル容器又ハ最近ノ耐壓試験後三年(大容器及輕合金ヲ以テ製作シタル小容器ニ在リテハ二年)ヲ經過シタル容器ハ第五號又ハ第六號ノ規定ニ依リ更ニ試験ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト

十二 容器ハ其ノ見易キ箇所ニ容器番號(記號アルモノハ之ヲ含ム以下之ニ同ジ)耐壓試験年月日、容器製造所ノ名稱又ハ其ノ

符號、充填シ得ベキ瓦斯ノ名稱並ニ液化瓦斯ノ容器ニ在リテハ耐壓試驗壓力及其ノ内容積、壓縮瓦斯ノ容器ニ在リテハ最高充填壓力ヲ鮮明ニ刻印セルモノナルコト

十三 左ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ其ノ外面ヲ各表示ノ色別ニ塗裝シ其ノ他ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ其ノ外面ニ充填スベキ瓦斯ノ名稱ヲ記載シタルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	塗 色	瓦斯ノ名稱	塗 色	瓦斯ノ名稱	塗 色
酸素 瓦斯	黒	炭酸 瓦斯	緑	鹽素 瓦斯	黄
水素 瓦斯	赤	アンモニア 瓦斯	白	アセチレン 瓦斯	褐

## 家畜傳染病豫防法

(抜 萃)

大一一、四  
法 二九

第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、綿羊、山羊、豚、犬、鶏及鷺ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛肺疫、口蹄疫、狂犬病、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流産、馬綿羊山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽コレラヲ謂フ

畜類傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條 家畜ガ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ検査シタル獸醫師ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ヅベシ但シ家畜ガ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌道係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ届出ヅベシ

第三條 前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スベシ

前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ殺スコトヲ得ズ但シ鷄及鷺ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注

射又ハ藥浴ヲ行ハシムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十一條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ畜舎、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道係員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒スベシ但シ家畜コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タズシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條 傳染病ノ病毒ニ接觸シ又ハ接觸シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スベシ

警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條 牛、馬、綿羊、山羊又ハ豚ガ疾病ノ爲斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ヅベシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 第三條(略)、第十一條ノ規定ニ依ル義務者(略)ガ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハズ又ハ行フコト能ハザルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員之ヲ行フコトヲ得

第十六條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第二十條 家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲施行スル檢疫ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ

檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定スル物ノ外傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ニ付檢疫ヲ行フコトヲ得

第二十一條 檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ航海日誌其ノ他ノ書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十二條 第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一(略)

二 第三條、(略)又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者  
 三 (略)第十六條(略)ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者  
 四 (略)第十四條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ゲタル者  
 第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サザル所有者、保管者、船長、鐵道係員又ハ軌道係員  
 二 (略)第十一條ノ規定ニ違反シタル者  
 三 第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ従ハザル者  
 四 正當ノ理由ナクシテ(略)第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢問ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者  
 第二十八條 第十三條ノ届出ヲ爲サザル者ハ科料ニ處ス  
 第二十九條 航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スベシ  
 第三十條 第二十條ノ規定ハ宮内省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ準用ス  
 前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍衙ニ於テ檢疫ヲ行フモノニ之ヲ適用セズ  
 第三十一條 本法中船長ニ適用スベキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

### 家畜傳染病豫防法施行規則

(抜萃) 大一二、一  
農商令 一

第十條 地方長官家畜傳染病豫防法第十六條第一項(略)ノ規定ニ依ル停止ヲ命ジタルトキ又ハ之ヲ解除シタルトキハ其ノ旨管内ニ告示シ且農林大臣並隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ報告スベシ  
 第十三條 航海中家畜方傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ船長ハ其ノ家畜ヲ隔離シ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル場所及物品ハ之ヲ消毒スベシ

前項ノ家畜ニシテ斃死シタルトキハ其ノ屍體ハ消毒液ヲ浸シタル藁又ハ藁等ヲ以テ全體ヲ包裹シ病毒ノ散逸ヲ防グベシ但シ領海外ニ於テハ之ヲ投棄スルコトヲ得

### 家畜傳染病檢疫規則

(抜萃) 大一二、一  
農商令 二

第一條 家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ハ北海道函館港、同小樽港、(略)ニ於テ之ヲ行フ但シ當分ノ内(略)函館港、小樽港(略)ニ在リテハ牛毛、馬毛、山羊毛及豚毛ノ檢疫ハ之ヲ行ハズ  
 第二條 農林大臣檢疫施行上必要アリト認ムルトキハ檢疫ヲ受クベキモノノ種類ヲ限リ其ノ檢疫ヲ受クベキ海港ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クとも十日以前ニ其ノ旨ヲ告示ス

### 肥料取締法

(抜萃) 明四一、四  
法 五一

第一條 本法ニ於テ肥料ト稱スルハ植物ノ營養ニ供スル物料ヲ謂フ  
 第二條 肥料ノ製造、輸入、移入又ハ賣買ヲ營業ト爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受タベシ  
 肥料ノ調合又ハ製造業ニ伴フ肥料ト爲ルベキ副産物ノ產出ハ之ヲ肥料ノ製造ト看做ス  
 前項ノ製造業及副産物ハ主務大臣之ヲ指定ス  
 第四條 肥料營業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ肥料ニ保證票ヲ添附スベシ  
 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料及原料ハ刑法第十九條ノ物ニ非ザル場合ト雖之ヲ沒收スルコトヲ得  
 一 (略)  
 二 (略)

- 三 (略)
- 四 肥料ニ虚偽ノ保證票ヲ添附シタル營業者又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ他ノ肥料ニ使用シタル營業者
- 五 虚偽ノ保證票ヲ添附シタル肥料又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ使用シタル肥料ヲ輸入、移入又ハ授受シタル營業者
- 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 一 第四條ニ依ル保證票ヲ添附セザル營業者
- 二 (略)

## 肥料取締法施行規則 (抜萃)

明四一、八  
農商令一七

第十二條 左記ノ副産物ハ肥料取締法第二條第二項ノ副産物トス

- 一 大豆油粕、菜種油粕、棉實油粕、荳油粕、胡麻油粕、蓖麻子油粕、椰子油粕、落花生油粕、亞麻仁油粕、麻實油粕、植物油粕、米糠油粕
  - 二 魚族荒粕、獸肉搾粕、蠶蛹油粕
  - 三 硫酸「アンモニア」、加里鹽類、「トーマス」燐肥
- 前項ノ副産物ヲ產出スル製造業ハ肥料取締法第二條第二項ノ製造業トス
- 第十三條 左記ノ肥料ヲ製造、輸入若ハ移入スル營業者ハ肥料ノ主成分量ヲ保證スル爲其ノ製造、輸入若ハ移入後遲滞ナク保證票ヲ肥料ノ各容器ノ外部ニ、容器ヲ使用セザルモノニ在リテハ各箇ノ外部ニ添附スベシ
- 一 過燐酸石灰、重過燐酸石灰、沈澱燐酸石灰、「トーマス」燐肥、硝酸鹽類、「アンモニア」鹽類、加里鹽類及化學的方法ニ依リ製造シタル肥料
  - 二 骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、「タンゲージ」、乾血、「グアノ」及特ニ粉碎シタル肥料
  - 三 菜種油粕、棉實油粕、荳油粕、胡麻油粕、蓖麻子油粕、椰子油粕、落花生油粕、亞麻仁油粕、麻實油粕、植物雜油粕、米糠油粕、溶劑ヲ使用シテ製造シタル大豆油粕、蠶蛹油粕

- 四 堆積肥料、乾糞肥料、煙炭肥料、液肥ヲ他物ニ吸收セシメタル肥料
- 五 二種以上ノ肥料ヲ混合シタル肥料

肥料營業者ニシテ保證票ヲ添附シタル肥料ノ容器ヲ變更シ若ハ之ヲ開キ若ハ天災其他特別ノ事故ニ因リ其ノ主成分量ニ異動ヲ生ジタル場合又ハ保證票ヲ添附スベキ肥料ニシテ其ノ添附ナキモノ若ハ保證票ニ第十五條第一項第一號乃至第五號ノ事項ノ記載ヲ缺キ若ハ其ノ記載ノ不明ナル保證票ヲ添附シタルモノヲ取得シタル場合ハ前項ノ規定ヲ準用ス保證票喪失シ若ハ著シク毀損汚染シタル場合亦同ジ

第十四條 地方長官必要ト認ムルトキハ前條ニ掲ゲザル肥料ト雖農商務大臣ノ認可ヲ經テ肥料營業者ニ保證票ノ添附ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 保證票ニハ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 保證票ナル文字
  - 二 肥料ノ名稱
  - 三 肥料百分中ノ主成分量
  - 四 保證票ヲ添附スル者ノ氏名又ハ名稱、主タル營業所ノ位置及營業種別
  - 五 前各號ノ外肥料製造ノ營業者ニ在リテハ其ノ肥料ノ製造年月及製造場ノ所在地、輸入、移入ノ營業者ニアリテハ肥料ノ輸入若ハ移入ノ年月、仕入先、肥料賣買ノ營業者ニ在リテハ其ノ肥料ノ製造、輸入若ハ移入ノ營業者ノ氏名若ハ名稱又ハ仕入先及保證票添附ノ年月
- 前項第三號ノ主成分量ハ左ノ區別ニ從ヒ肥料ニ含有スル百分ノ一以上ノ主成分ノ最少量ヲ記載スベシ
- |                   |                                  |
|-------------------|----------------------------------|
| 一 「アンモニア」鹽類       | 「アンモニア」性窒素                       |
| 二 硝酸鹽類            | 硝酸性窒素                            |
| 三 過燐酸石灰、重過燐酸石灰    | 可溶性燐酸                            |
| 四 沈澱燐酸石灰、「トーマス」燐肥 | 枸橼酸ニ溶解スル燐酸                       |
| 五 前二號以外ノ燐酸鹽類      | 水溶性燐酸、水ニ溶解セズシテ枸橼酸「アンモニア」液ニ溶解スル燐酸 |
| 六 加里鹽類            | 水溶性加里                            |

七 有機質肥料  
八 前各號以外ノ肥料

窒素全量、燐酸全量、加里全量  
窒素全量、「アンモニヤ」性窒素、硝酸性窒素、燐酸全量、可溶性燐酸（又ハ水溶性燐酸、水ニ溶解セズシテ枸橼酸「アンモニヤ」液ニ溶解スル燐酸若ハ枸橼酸ニ溶解スル燐酸）、加里全量、水溶性加里

前項ニ依ル可溶性燐酸ノ記載ハ水溶性燐酸ノ量ト水ニ溶解セズシテ枸橼酸「アンモニヤ」液ニ溶解スル燐酸ノ量トノ合計量ニ付之ヲ爲スベシ  
第十六條 保證票ニハ前條ニ規定シタル事項並肥料ノ正味量、商標及商號ノ外他ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ズ

### 産業組合法

（抜萃） 明三三、三三四

#### 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ  
一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト（信用組合）  
二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セズシテ之ヲ賣却スルコト（販賣組合）  
三 産業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セズシテ又ハ之ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト（購買組合）  
四 組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト（利用組合）  
（第二項以下略）

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スベキ文字ヲ用フベシ  
産業組合ニ非ズシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

#### 第二章 設立

第十條ノ二 法人ハ産業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル法人ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ法人ノ産業組合ノ組合員ト爲ルニ付必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ三 農事實行組合ハ一定ノ地區内ノ農業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

農事實行組合ハ法人トス  
農事實行組合ノ地區ハ部落其ノ他之ニ準ズル區域トス

### 農産物検査規則

（抜萃） 大八、三三三

#### 第一章 總則

第一條 本則ニ於テ農産物ト稱スルハ玄米、粳、精米、大麥、小麥、裸麥、ライ麥、燕麥、黍、稗、玉蜀黍、大豆、小豆、豌豆、菜豆、蕎麥、菜種、芥子、荳、亞麻種、亞麻莖、除蟲菊、澱粉、取卸薄荷、苹果及馬鈴薯ヲ謂ヒ授受ト稱スルハ賣買、贈與、交換、辨濟、貸借、擔保又ハ寄託等ノ爲ノ受渡ヲ謂ヒ輸送ト稱スルハ鐵道又ハ船舶ニ依ル運搬ヲ謂フ  
第二條 本道内ニ於テ生産シタル農産物ハ本則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノニ非ザレバ之ヲ授受、輸送、移出又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 一個（俵、叭、袋、罐、桶等）未滿ノモノ
- 二 學術研究又ハ試驗ノ用ニ供スルモノ
- 三 博覽會、共進會若ハ品評會ニ出品スルモノ又ハ慈善事業ニ供スルモノ
- 四 官公署ノ所有ニ屬スルモノ
- 五 徵發若ハ強制執行ニ因リ授受又ハ輸送スルモノ
- 六 本道内ニ於テ自家ノ食用、飼料又ハ種子用ニ供スルモノ
- 六ノ二 進物用ニシテ一口二箇以内ノモノ
- 六ノ三 政府拂下米ニシテ包裝ヲ改メザルモノ
- 六ノ四 粳ニシテ贈與、交換、辨濟、貸借又ハ擔保ノ爲受渡スルモノ
- 七 澱粉ノ粕摺粉、篩下及足元並雜穀ノ腐粒、病害粒及批等ニシテ食用ニ堪ヘザルモノ



- 八 碎米及厨萃果
- 九 穀又ハ精米ニシテ包装ヲ爲サザルモノ
- 十 本道内ニ於テ自己ノ醸造其ノ他ノ製造原料ト爲ス爲他人ニ委託加工シタル精米
- 前項第六號乃至第八號及第十號ニ該當スルモノニ付テハ検査執行員ノ承認ヲ受クベシ
- 第三條 検査ハ生産検査、移出検査及精米検査ノ三種トス
- 生産検査ハ道内ニ於テ授受又ハ輸送セムトスルモノニ付之ニ行ヒ移輸出検査ハ道外ニ移出又ハ輸出セムトスルモノニ付之ヲ行ヒ
- 精米検査ハ道内ニ於テ精白シタルモノニ付之ヲ行フ
- 精米検査ニ在リテハ道外産ト雖道内ニ於テ精白シ又ハ道外産タル證憑ナキ精米ハ之ヲ本道産ト看做ス
- 第十四條 検査済ノ農産物ト雖左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ更ニ検査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ授受、輸送、移出又ハ輸出スルコトヲ得ズ

- 一 包装ヲ毀損シ又ハ改装シタルモノ
  - 二 検査證印ノ不明トナリタルモノ
  - 三 検査證票乙號若ハ丙號ヲ毀損シ之ハ亡失シタルモノ
  - 四 容量又ハ重量ヲ増減シタルモノ
  - 五 虫害、鼠害ヲ受ケ又ハ變質シタル事實明ナルモノ
  - 六 検査有効期間ヲ經過シタルモノ
- 検査執行員必要ト認ムルトキハ検査證票甲號ヲ毀損又ハ亡失シタルモノニ付更ニ検査ヲ受ケシムルコトアルベシ
- 第二十條 運送業者又ハ運送取扱業者ハ未検査品又ハ第二十五條ノ三若ハ第四十五條ニ該當スル検査品ヲ輸送シ又ハ輸送ノ爲之ヲ取扱フコトヲ得ズ但シ検査執行員ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限りニ在ラズ

### 第二章 生産検査

第二十三條 生産検査ハ農産物ノ生産者又ハ之ニ準ズベキ者ノ設置所ニ於テ之ヲ行フ但シ一口三十箇ニ充タザルトキ又ハ受檢者ノ請求アリタルトキ若ハ検査所長必要ト認ムルトキハ便宜ノ箇所ニ於テ之ヲ行フコトアルベシ

第二十四條 生産検査ハ左ニ掲グルモノニ就キ之ヲ行フ

- 玄米、粳、大麥、小麥、裸麥、ライ麥、燕麥、黍、稗、玉蜀黍、大豆、小豆、豌豆、菜豆、菜種、芥子、亞麻種、亞麻莖、除蟲菊、澱粉、取卸薄荷、苹果
  - 第二十五條 生産検査ヲ受クベキモノノ容量又ハ重量ハ左ノ各號ニ依ルベシ
  - 一 俵入、叭入
    - 玄米 四斗(約七二・一六立)
    - 粳 四〇疋又ハ四斗(約七二・一六立)
    - 小麥、裸麥、ライ麥、黍、玉蜀黍、大豆、小豆、豌豆、菜豆、菜種、芥子、亞麻種 正味六〇疋
    - 大麥、蕎麥 正味五〇疋
    - 燕麥、稗、花 正味四〇疋但裸燕麥正味六〇疋
  - 二 袋入
    - 除蟲菊 皆掛二五疋
    - 稗 正味五〇疋
    - 澱粉 正味四五疋
    - 其ノ他 正味四五・三七五疋(百封度)五〇疋又ハ六〇疋
  - 三 籬入
    - 取卸薄荷 皆掛凡一五疋
  - 三ノ二箱入
    - 苹果 正味一八疋但シ之ニ依リ難キモノハ正味十五疋トナスコトヲ得
  - 四 容器ヲ使用セザルモノ
    - 亞麻莖 皆掛凡二五疋
- 第二十八條 検査執行員検査ヲ行ヒタルトキハ等級及腦分ニ應ジ毎箇ニ検査證票ヲ添附シ左ニ掲グルモノヲ除ク外検査證印ヲ押捺スベシ
- 一 亞麻莖
  - 二 取卸薄荷





煮乾玉筋魚	素乾小鯧	煮乾鱈
燒乾魚肉	煮乾鱈	煮乾鱈
二 鮭節		
三 魚類鹽藏品	鹽鱈	鹽鱈
四 魚卵製品	鹽鱈	鹽鱈
五 貝類乾製品	乾北寄	海扇貝柱
六 乾海扇	海扇生黑乾	海扇耳
七 海參	乾ふぢこ	
八 鰺	生乾鰺	
九 鮪酢漬品		
一〇 海菜	海菜	銀杏草
石花菜	海菜	つのみた
大葉草	あかはた	
若布	ちがいそ	

一 昆布乾製品  
 刻昆布

二 鮭魚油  
 鯨油

三 魚肥料  
 鮭粕  
 鯨粕  
 鱈生玉粕

四 魚油  
 魚油

五 魚油  
 魚油

六 魚油  
 魚油

七 魚油  
 魚油

八 魚油  
 魚油

九 魚油  
 魚油

一〇 魚油  
 魚油

一一 魚油  
 魚油

一二 魚油  
 魚油

一三 魚油  
 魚油

一四 魚油  
 魚油

一五 魚油  
 魚油

一六 魚油  
 魚油

一七 魚油  
 魚油

一八 魚油  
 魚油

一九 魚油  
 魚油

二〇 魚油  
 魚油

二一 魚油  
 魚油

二二 魚油  
 魚油

二三 魚油  
 魚油

二四 魚油  
 魚油

二五 魚油  
 魚油

二六 魚油  
 魚油

二七 魚油  
 魚油

二八 魚油  
 魚油

二九 魚油  
 魚油

三〇 魚油  
 魚油

三一 魚油  
 魚油

三二 魚油  
 魚油

三三 魚油  
 魚油

三四 魚油  
 魚油

三五 魚油  
 魚油

三六 魚油  
 魚油

三七 魚油  
 魚油

三八 魚油  
 魚油

三九 魚油  
 魚油

四〇 魚油  
 魚油

四一 魚油  
 魚油

四二 魚油  
 魚油

四三 魚油  
 魚油

四四 魚油  
 魚油

四五 魚油  
 魚油

四六 魚油  
 魚油

四七 魚油  
 魚油

四八 魚油  
 魚油

四九 魚油  
 魚油

五〇 魚油  
 魚油

五一 魚油  
 魚油

五二 魚油  
 魚油

五三 魚油  
 魚油

五四 魚油  
 魚油

五五 魚油  
 魚油

五六 魚油  
 魚油

五七 魚油  
 魚油

五八 魚油  
 魚油

五九 魚油  
 魚油

六〇 魚油  
 魚油

六一 魚油  
 魚油

六二 魚油  
 魚油

六三 魚油  
 魚油

六四 魚油  
 魚油

六五 魚油  
 魚油

六六 魚油  
 魚油

六七 魚油  
 魚油

六八 魚油  
 魚油

六九 魚油  
 魚油

七〇 魚油  
 魚油

七一 魚油  
 魚油

七二 魚油  
 魚油

七三 魚油  
 魚油

七四 魚油  
 魚油

七五 魚油  
 魚油

七六 魚油  
 魚油

七七 魚油  
 魚油

七八 魚油  
 魚油

七九 魚油  
 魚油

八〇 魚油  
 魚油

八一 魚油  
 魚油

八二 魚油  
 魚油

八三 魚油  
 魚油

八四 魚油  
 魚油

八五 魚油  
 魚油

八六 魚油  
 魚油

八七 魚油  
 魚油

八八 魚油  
 魚油

八九 魚油  
 魚油

九〇 魚油  
 魚油

九一 魚油  
 魚油

九二 魚油  
 魚油

九三 魚油  
 魚油

九四 魚油  
 魚油

九五 魚油  
 魚油

九六 魚油  
 魚油

九七 魚油  
 魚油

九八 魚油  
 魚油

九九 魚油  
 魚油

一〇〇 魚油  
 魚油

- 一 荷造結束ヲ改メ若ハ毀損シタルモノ
  - 二 檢印、等級印又ハ檢査證ノ不明トナリタルモノ
  - 三 檢査證票ヲ毀損シ又ハ亡失シタルモノ
  - 四 容量又ハ重量ニ著シキ増減アリタルモノ
  - 五 蟲害、鼠害ヲ受ケ又ハ變質シタルモノ
- 第四條 運送業者又ハ運送取扱業者ハ檢査ヲ受ケザル水産物ヲ運送又ハ運送取扱ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第二條第一項但書又ハ第六條但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第二條第一項、第三條、第三條ノ二第二項、第十二條ノ三又ハ第十五條ノ二ニ違反シタル者
  - 二 第十六條ノ臨檢若ハ帳簿ノ査閲ヲ拒ミ又ハ命令ニ服セザル者
  - 三 詐偽又ハ不正ノ手段ニ依リ檢査ヲ受ケタル者
  - 四 不正ノ目的ヲ以テ檢印、等級印、檢査證若ハ檢査證票ヲ塗抹、改竄、毀棄若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ無効ナラシメ又ハ不正ノ目的ヲ以テ檢査證、檢査證票若ハ檢査證票ニ表示スベキ事項ヲ表示シタル謄海苔ノ包裝紙ヲ使用シタル者

附 則

左ノ水産物ニ付テハ當分ノ内本令ニ依ル檢査ハ之ヲ行ハズ

- 一 鹽 鮭
  - 二 鹽 鱒
  - 三 占守郡ニ於テ生産シタル罐詰
- 樣式第一號 水産物檢査員證(厚質白紙)

第 九 號
官 職 氏 名
水 産 物 檢 査 員 證
六 六
面 裏
北 海 道 廳 印

## 林 産 物 檢 査 規 則

( 抜 萃 )

昭九、四  
道廳令四二

- 第一條 本則ニ於テ林産物ト稱スルハ針葉樹及闊葉樹ノ素材及製材ヲ謂ヒ授受ト稱スルハ賣買、贈與、交換、辨濟、貸借、擔保、寄託等ノ爲ニ爲ス受渡ヲ謂フ
- 第二條 本道内ニ於テ生産シタル林産物ハ本則ニ依リ檢査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ授受、移出又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 學術ノ研究又ハ試驗ノ用ニ供スルモノ
  - 二 博覽會、共進會、品評會ニ出品スルモノ
  - 三 帝室林野局、國及北海道地方費ニ於テ生産シタルモノ
  - 四 素材ニシテ本道内ニ於テ消費スルモノ及檢尺徑六寸又ハ長六尺未滿ノモノ但シ檢尺徑六寸未滿ノモノト雖モ移出又ハ輸出スルモノニシテ檢査ノ申告アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
  - 五 製材ニシテ長、六尺未滿、吋材ニ在リテハ六呎未滿ノモノ
  - 六 板ニシテ幅六寸未滿、吋寸法ノモノニ在リテハ六吋未滿ノモノ但シ横、澁、長押及之ニ準ズルモノ並ニ打上天井板、廊下板、羽目板ヲ除ク
  - 七 木舞、箱板、ベニア及ベニア板、下駄棒、電柱腕木、柵木、柵製材、スキー材、鐵道軌道枕木、電柱及銘木類
  - 八 東物ニシテ一東ニ滿タザルモノ
  - 九 特別ノ事由ニ因リ長官ニ於テ檢査ノ必要ナシト認メタルモノ
- 本道外ニ於テ生産シタルコトノ確認シ得ザル林産物ハ本道内ニ於テ生産シタルモノト看做ス
- 第十五條 檢査員檢査ヲ終了シタルトキハ檢印又ハ等級印(樣式第一號)ヲ押捺ス
- 第二十一條 運送業者又ハ運送取扱業者ハ檢査ヲ受ケザル林産物ニ付運送又ハ運送取扱ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第二條第一項各號ノ一ニ該當スル林産物又ハ第十一條ノ規定ニ依リ指定場所ニ運送スル林産物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

取

扱

### 鐵道と國家との關係 (二)

國家は保護助長者であり、進んでは其の創設者、管理者となる  
鐵道は利益ある地方にては或は私營會社にて之を敷設經營するこ  
とあるべきも、不利益なるか損失を來すが如き經營を期待し得な  
いから、國家は鐵道の補助保護を爲すか或は自ら敷設經營の方策  
を採るのである。

## 鐵道省所管航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍 及營業料程

昭四、一二  
鐵告二九三

鐵道省所管航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍及營業料程左ノ通定メ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 各航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍  
稚内大泊港間

一般運輸營業但シ貨物ノ内火藥類、玩具用普通火工品、生石灰、可燃性固體（マグネシウム及アルミニウム粉ヲ除ク）、酸化腐蝕劑（臭素及硝酸加里ヲ除ク）、甲種ノ鐵道車輛（私有貨車ヲ含ム）及死體ハ取扱ヲ爲サズ

青森函館間  
一般運輸營業

宇野高松間

一般運輸營業

宮島巖島町間

旅客、手荷物、小荷物、附隨小荷物、小口扱及宅扱貨物但シ小口扱貨物ハ日滿連絡貨物ニ限ル

下關門司間

旅客、手荷物、小荷物及附隨小荷物

下關小森江間

## 鐵道と國家との關係 (二)

國家は保護助長者であり、進んでは其の創設者、管理者となる鐵道は利益ある地方にては或は私營會社にて之を敷設經營することあるべきも、不利益なるか損失を來すが如き經營を期待し得ないから、國家は鐵道の補助授護を爲すか或は自ら敷設經營の方策を採るのである。

## 鐵道省所管航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍 及營業料程

昭四、一二  
鐵告二九三

鐵道省所管航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍及營業料程左ノ通定メ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 各航路ニ於ケル運輸營業ノ範圍  
稚内大泊港間

一般運輸營業但シ貨物ノ内火藥類、玩具用普通火工品、生石灰、可燃性固體（マグネシウム及アルミニウム粉ヲ除ク）、酸化腐蝕劑（臭素及硝酸加里ヲ除ク）、甲種ノ鐵道車輛（私有貨車ヲ含ム）及死體ハ取扱ヲ爲サズ

青森函館間

一般運輸營業

宇野高松間

一般運輸營業

宮島巖島町間

旅客、手荷物、小荷物、附隨小荷物、小口扱及宅扱貨物但シ小口扱貨物ハ日滿連絡貨物ニ限ル

下關門司間

旅客、手荷物、小荷物及附隨小荷物

下關小森江間

一般貨物但シ小森江ニ於テハ經山ニ限ル  
下關釜山間

一般運輸營業但シ貨物ノ内火藥類、玩具用普通火工品、生石灰、可燃性固體（マグネシウム及アルミニウム粉ヲ除ク）、酸化腐蝕劑（臭素及硝酸加里ヲ除ク）、馬以外ノ家畜ニシテ容器ニ容レザルモノ、甲種ノ鐵道車輛（私有貨車ヲ含ム）及死體ハ取扱ヲ爲サズ

二 航路營業料程

稚内	大泊港間	二二〇
青森	函館間	一六〇
宇野	高松間	二二五
宮島	嚴島町間	五
下關	門司間	一五
下關	小森江間	一五
下關	釜山間	二四〇

索道ニ依ル貨物運送規則

昭一、七  
鐵告二、八

第一條 仙人峠大橋間ニ於ケル索道ニ依ル貨物ノ運送ハ本規則ニ依ル

第二條 左ニ掲グル貨物ハ運送ノ引受ヲ爲サズ

- 一 一箇ノ重量三百疋、幅〇・六米、高〇・九米又ハ長六米ヲ超ユルモノ
- 二 水ニ容レタル活魚、遺骨、糞、汚穢品、特種貴重品、危險品

第三條 左ニ掲グル貨物ハ省ニ於テ特ニ承諾シタル場合ニ限り運送ノ引受ヲ爲ス

- 一 一箇ノ重量百五十疋ヲ超ユルモノ
- 二 一箇ノ長二・四米ヲ超ユルモノ

第四條 鐵道ヲ宅扱トスルモノハ通シ運送ノ取扱ヲ爲サス

第五條 鐵道ト通シ運送スル貨物ニシテ鐵道ヲ貸切扱ニ依ルモノハ索道ヲ小口扱又ハ應扱ニ依ルモノトス

第六條 一口ト爲スベキ貨物ハ左ノ通トス

- 一 索道ノミ運送スル石灰石ハ荷受人、荷受人及託送ノ日ヲ同ジクスルモノナルコト
- 二 鐵道ト通シ運送スル貨物ニシテ索道ヨリ發シ鐵道ヲ貸切扱トスルモノハ五應又ハ六應ノ貨車一車ニ積載シ得ル數量ノモノナルコト

第七條 引渡期間ハ左ノ通トス

- 一 發送期間 貨物受託ノ日一日
- 二 輸送期間 一日

第八條 鐵道ト通シ運送スル貨物ニシテ鐵道ヲ貸切扱ニ依ルモノニ對シテハ小口扱ノ例ニ依リ荷札ヲ附スルモノトス

第九條 貨率ハ左ノ通トシ鐵道ト通シ運送スル貨物ノ運賃ハ索道ト鐵道ヲ各別ニ算出シ之ヲ合算ス

等	級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	一一級	一二級	一三級
貨率（百疋ニ付）		一九	一五	一三	一一	一〇	八	七	一五	八	七



- 第十條 索道ノミ運送スル貨物ノ一口ノ運賃ノ最低ハ左ノ通トス  
小口扱 十錢  
應扱 一回
- 第十一條 鐵道ヲ貸切扱トスル貨物ノ仙人峠驛ニ於ケル接續料ハ一回ニ付二十五錢トス
- 第十二條 代金引換ノ取扱ヲ爲サズ
- 第十三條 前各條以外ノ事項ハ鐵道運送ノ例ニ依ル

### 荷扱所荷物取扱規則

昭一、九  
鐵告三二一

- 第一條 荷扱所ニ於ケル荷物ノ取扱ハ本規則ニ依ルノ外旅客及荷物運送規則並ニ貨物運送規則ニ依ル
- (註) 荷物ノ受託、運送、引渡、代金引換其ノ他ノ取扱ニ付テハ荷扱所ヲ驛ト看做スモノトス
- 第二條 荷扱所ト其ノ所屬驛相互間ニ發著スル荷物ノ取扱ヲ爲サズ但シ荷扱所ヘノ返送又ハ著驛變更ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 荷扱所ニ於テハ左ノ荷物ノ取扱ヲ爲サズ  
一 小荷物(省略)  
二 貨物  
イ 一箇ノ長四・五米、高二・五米、幅一・六米又ハ重量二千斤若ハ容積八・〇立方米ヲ超ユルモノ  
ロ 特殊貴重品、危険品中火薬類、汚穢品、小口扱ニ對シ等級ノ定ナキモノ
- 第四條 一口ノ荷物ヲ分割シテ集貨又ハ配達ヲ爲ス場合ノ引渡期間ハ最後ノ集貨又ハ配達ノ時ヲ以テ計算ノ始期又ハ終期トス
- 第五條 (一項略)
- 第六條 貨物ハ別ニ定ムル區域内ニ於テ集貨又ハ配達ノ取扱ヲ爲ス (一項略)

- 宅扱以外ノ貨物ノ集貨又ハ配達ヲ爲ス場合ノ取扱ニ付テハ宅扱貨物ノ例ニ依ル但シ配達付ノモノヲ貨主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ届先ニ於テ引渡スコト能ハサルトキハ荷扱所ニ於テ引渡ヲ爲ス此ノ場合再配達ノ取扱ヲ爲サズ
- (註) 一 小口扱、應扱及貸切扱貨物ノ集貨又ハ配達ニ付テハ宅扱貨物ニ關スル貨物運送規則補則ノ規定ヲ準用スルモノナルモ之ガ貨物通知書ノ作成ハ總テ荷扱所ニ於テ爲スモノトス
- 二 小口扱、應扱及貸切扱貨物ノ貨物運送規則第四十八條補則一第一號及同第五十二條補則一ノ規定ニ拘ラズ荷送人名又ハ荷受人名ヲ指定店名義ト爲シ得ルモノトス
- 第七條 一口ノ荷物ヲ分割シテ集貨又ハ配達ヲ爲ス場合運賃及料金、引換代金、貨物引換證等ハ最初ノ集貨又ハ配達ノ際ニ之ヲ收受ス
- 第八條 所屬驛ニ於ケル荷物ノ積換並ニ貨車ノ施封又ハ開封ハ鐵道省ニ於テ之ヲ爲ス
- 第九條 荷扱所ニ於テ取扱フ荷物ニ對シテハ左ノ荷扱所料金ヲ收受ス  
一 小荷物(略)  
二 貨物(發著各)  
宅扱 運賃計算重量 三十斤迄 三錢  
同 五十斤迄 五錢  
同 以上十斤迄ヲ増ス毎斤 一錢  
小口扱 同 百斤ニ付 四十錢  
應扱 同 一應ニ付 一圓六十錢  
貸切扱 同 一圓八十錢(所屬驛ニ於ケル積換費ヲ含ム)
- 註 本條ノ荷扱所料金ニ對シテハ運賃計算最低重量ヲ適用スルモノトス
- 第十條 荷扱所發送前ノ荷物ニ對シ小荷物ニ在リテハ荷主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ、貨物ニ在リテハ鐵道省ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ依リ託送取消ノ請求ニ應ジタル場合ニ於テハ荷扱所料金中左ノ金額ヲ拂戻ヲ爲ス

一 集荷付小荷物	一箇ニ付	二 錢
二 貨物		
宅 扱	運賃計算重量	三十斤迄 三 錢
		五十斤迄 五 錢
		以上十斤迄 一 錢
小口扱	同	ヲ増ス毎ニ 二十 錢
百斤ニ付	同	六十 錢
一施ニ付	同	八十 錢
貨切扱	同	八十 錢

小荷物ニ在リテハ荷主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ、貨物ニ在リテハ鐵道省ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ荷扱所ニ返送若ハ荷扱所到着後發驛ニ返送又ハ著驛變更ノ請求ニ應ジタル場合ニ於テハ別ニ小荷物ニ在リテハ一箇ニ付金二錢、貨物ニ在リテハ第九條ニ定ムル荷扱所料金ヲ追徴ス但シ荷扱所著テ他ノ荷扱所著ニ變更シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

### 荷物代金引換規程 大四、一 告 二

- 第一條 荷送人ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ託送ニ係ル荷物(小荷物及貨物ヲ謂フ、以下同ジ)ニ付代金引換ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但シ左ニ掲グル荷物ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 新聞紙
  - 二 鮮魚介蝦類、動物、鮮肉、蠶種其ノ他腐敗變質シ易キモノ又ハ死スル處アルモノ
  - 三 危險品
  - 四 貨物引換證又ハ船荷證券付ノモノ

- 第二條 引換代金額ハ一口ニ付金二千圓以下トシ錢位未滿ノ端數ナキモノニ限ル
- 第三條 代金引換ハ特ニ定アル場合ヲ除キ各驛所(連帶線通過ノ場合ヲ含ム)ニ於テ其ノ取扱ヲ爲ス
- 第四條 代金引換荷物ヲ受附ケタルトキハ代金引換證ヲ荷送人ニ交付スルモノトス
- 第五條 代金引換荷物ニシテ配達付ノモノハ配達先ニ於テ、又驛留ノモノハ著驛ニ於テ之ヲ引渡ス際荷受人ヨリ代金ヲ收受ス但シ配達付ノモノト雖モ荷主ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ配達先ニ於テ引換ヲ爲スコト能ハザルトキハ驛留ノモノノ例ニ依ル
- 第六條 荷受人ヨリ引換代金ヲ收受シタルトキハ荷送人ニ對シ發驛所(委託小荷物扱所又ハ省係員ノ配置ナキ驛發ノモノハ其ノ所屬驛又ハ管理驛、以下同ジ)ヨリ其ノ旨ヲ通知シ發驛所ニ於テ之ガ支拂ヲ爲ス
- 註 委託小荷物扱所ノ名稱、所屬驛等ハ委託小荷物扱所規程第二條ニ定アリ、又省係員ノ配置ナキ驛ニシテ代金引換ノ取扱ヲ爲ス驛トハ業務委託驛(愛媛線、宇和島線、阿波線及自動車線ニ於ケル被管理驛)ヲ指稱スルモノニシテ其ノ驛名ニ付テハ大正七年五月二十日公報通報特殊停車場ノ其ノ他ニ關スル件並昭和八年九月二十八日公報通報省營自動車線ニ於ケル一般運輸營業ヲ爲ス停車場及特種停車場其ノ他ニ關スル件參照
- 第七條 荷送人ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ引換代金ノ支拂時間内ニ代金引換證ヲ提出シ之ト引換ニ發驛所ヨリ代金ヲ受取ルモノトス
- 前項ノ引換代金ノ支拂時間ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外午前八時ヨリ午後四時迄トス
- 第八條 前條ノ場合荷送人ニ於テ代金引換證ヲ提出シ難キトキハ其ノ要旨ヲ記載シタル保證書(保證人連署)ヲ提出スベキモノトス
- 前項ノ保證書ハ左ノ文例ニ依ルモノトス

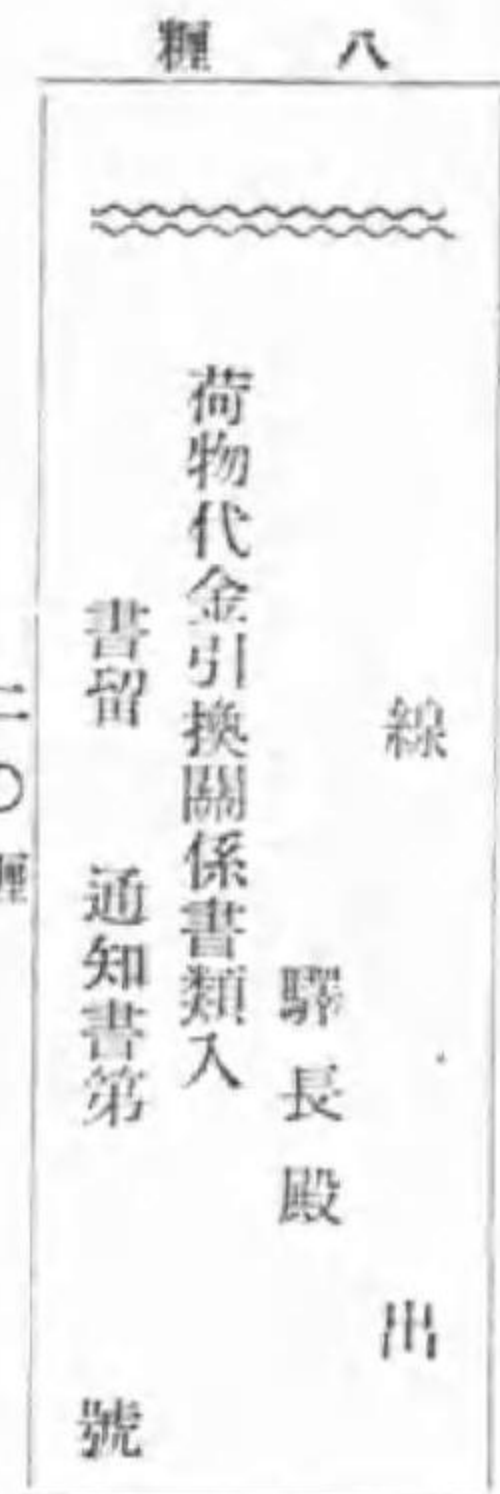


# 荷物代金引換取扱手續

大八、三  
達一、二、三

## 第一章 總 則

- 第一條 本手續ニ於テ驛トハ驛、營業所、委託小荷物扱所、貨物扱所及棧橋待合所ヲ、驛長トハ驛長及營業所主任ヲ謂フ
- 第二條 (削除)
- 第三條 (削除)
- 第四條 (削除)
- 第五條 荷物代金引換關係書類ヲ關係驛ニ送付スルトキハ左ノ様式ノ封筒ヲ使用シ連達スル列車ニ依リ運送スベシ但シ小荷物ニシテ關係書類ヲ切符ト共ニ送附スル場合ハ此ノ限りニ在ラズ



白地ニ文字  
ヲ書クシ上  
部ニ同色ニ  
テ幅〇・九  
釐ノ波線一  
條ヲ劃ス

二〇釐

## 第二章 引換代金ノ收入

第六條 配達先ニ於テ引換ヲ爲スモノニシテ引換代金ノ準備等ニ關シ必要アリト認ムルトキハ適宜ノ方法ヲ以テ其ノ

要項ヲ荷受人ニ通知スベシ

第七條 代金引換荷物引渡ノ請求アリタルトキハ引換代金及著拂運賃料金ヲ收受シタル上引渡ヲ爲シ領收證ノ請求アリタル場合ニ於テハ便宜諸料金切符ノ一片ヲ交付スベシ

第八條 (削除)

第九條 (削除)

第十條 荷物到着ノ通知ヲ發シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三日ヲ經過スルモ荷受人ガ荷物ノ受取方ヲ申出デザルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ引渡不能トナリタルトキハ著驛ハ其ノ旨ヲ發驛ニ通知シ發驛ハ更ニ之ヲ荷送人ニ通知シ其ノ處分方ヲ申出デシムベシ

第十一條 著驛ニ於テ引換代金ヲ領收シタルトキハ驛長ニ於テ當該引換代金領收通知書ト關係切符又ハ通知書トヲ對照シ金額其ノ他相違ナキコトヲ確認シタル上引換代金領收通知書ニ收入月日、驛名ヲ記入職印ヲ捺捺シ之ヲ發驛(委託小荷物扱所發ノモノハ其ノ所屬驛、又省係員ノ配置ナキ驛發ノモノハ其ノ管理驛、以下同ジ)ニ送付スベシ

第十二條 (削除)

第十三條 著驛ニ於テ引換代金領收通知書ノ不著又ハ毀損其ノ他ニ依リ代金引換ノ手續ヲ遲延スル虞アル場合ニ於テハ小荷物ニ在リテハ再製用荷物切符ヲ、又貨物ニ在リテハ再製用貨物通知書ヲ作製シ第十一條ニ依リ處理スベシ

前項ノ手續ヲ爲シタル後引換代金領收通知書到著シタルトキハ著驛ニ於テ之ヲ保存スベシ

第十四條 (削除)

## 第三章 引換代金ノ支拂

第十五條 發驛ニ於テ第十一條ニ依リ引換代金領收通知書又ハ第十三條ニ依リ再製用荷物切符又ハ再製用貨物通知書

ノ送付ヲ受ケタルトキハ左ニ掲グル書式ニ依リ引換代金ノ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ遲滯ナク荷送人ニ通知スベシ

#### 引換代金支拂通知書

月 日 當驛、所（又ハ其ノ所屬小荷物取扱所若ハ被管理驛）發行第 號  
代金引換證に對する引換代金の支拂を致しますから代金引換證を御持参下さい  
追つて右代金支拂時間は午前 時より午後 時迄であります

第十六條 荷送人ヨリ代金引換證ヲ提出シ引換代金支拂ノ請求アリタルトキハ發驛ハ著驛ヨリ廻附ヲ受ケタル引換代金領收通知書又ハ再製用荷物切符若ハ再製用貨物通知書ト關係小荷物切符ノ控又ハ貨物運送狀トヲ對照シ其ノ相違ナキコトヲ確認シタル上代金引換證相當欄ニ年月日、住所、氏名ヲ記入捺印セシメ引換代金支拂要求ノ手續ヲ爲スベシ

第十七條 引換代金ノ支拂要求書ニハ數口分ヲ連記スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ著驛ニ於ケル收入月別ノ金額ヲ記事欄ニ内譯記入（委託小荷物取扱所又ハ省係員ノ配置ナキ驛發行ノ代金引換證ニ對シ支拂ヲ爲シタルトキハ各驛所毎ノ内譯ヲモ記載）スルヲ要ス

第十八條 發驛ニ於テ引換代金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ小荷物切符戊片、貨物通知書丁片及代金引換證、引換代金領收通知書又ハ再製用荷物切符若ハ再製用貨物通知書ニ各支拂月日ヲ記入又ハ押印シ且之ニ認印シタル上代金引換證ト引換代金領收通知書又ハ再製用荷物切符若ハ再製用貨物通知書トヲ組合セ之ヲ歲出科目「節」（小荷物及貨物）毎ニ著驛ニ於ケル收入月別ニ區分仕譯（扱所發行ノ代金引換證ニ對シ支拂ヲ爲シタルトキハ各扱所毎ニ區分仕譯）ヲ爲シ成規ニ依リ當日ノ現金引繼書甲片ニ添付シ所屬主任出納官吏ニ引繼グベシ

第十九條 引換代金支拂驛ニ於テ引換代金ノ支拂額ニ過又ハ不足アルコトヲ發見シタルトキハ不足拂ノ場合ニハ支拂要求書又過拂ノ場合ニハ戻入要求書（年度經過シタルモノニ在リテハ徵收要求書）ヲ作成シ支拂、戻入又ハ徵收ノ手續

ヲス爲ベシ

第十九條ノ二 發驛ニ於テ引換代金領收通知書ノ不著其ノ他ニ依リ引換代金ノ支拂ヲ爲シ能ハザルトキハ著驛ヨリ再製用荷物切符又ハ再製用貨物通知書ノ送付ヲ受ケ第十六條ニ依リ處理スベシ

前項ニ依リ取扱ヒタル後引換代金領收通知書ヲ受ケタルトキ若ハ發見シタル場合ハ之ニ事由ヲ附記シ關係書類ニ貼付シ置クベシ

第二十條（削除）

#### 第四章 荷主ノ指圖

第二十一條 代金引換ノ追付、取消又ハ引換代金ノ増額、減額ノ請求アリタルトキハ左ニ掲グル方法ニ依リ處理スベシ

- 一 荷送人ノ指圖ニ應ジタル場合ハ關係切符又ハ貨物運送狀ニ其ノ要旨ヲ記入スベシ
- 二 荷物及關係書類發送前ニ在リテハ代金引換證ヲ回收シ關係切符、貨物通知書並貨物運送狀ニ其ノ指圖ノ要旨ヲ記入シ別ニ定ムル所ニ依リ處理シ代金引換取消ノ場合ニ於テハ代金引換用ニ在ラザル小荷物切符又ハ貨物通知書ヲ其ノ他ノ場合ニ於テハ代金引換用ノ小荷物切符又ハ貨物通知書ヲ發行シ引換代金ノ増額、減額又ハ代金引換ノ取消手数料ハ該小荷物切符又ハ貨物通知書ニ記入スルモノトス
- 三 荷物及關係書類發送後（荷物又ハ關係書類ノ何レカ一方發送後ノ場合ヲ含ム）ニ在リテハ代金引換證（小荷物切符貨物通知書）ニ指圖ノ要旨ヲ記入シ之ヲ荷送人ニ還付シ代金引換取消ノ場合ニ於ケル引換代金領收通知書ハ著驛ニ於テ抹線ヲ劃シ荷物賃訂正通知書二片ニ貼附シ置クベシ

前項ノ増額ハ取消又ハ減額ノ請求アリタル場合ニ於テ荷物發送後ナルトキハ直ニ其ノ旨著驛ニ照會シ支障ノ有無ヲ確ムルコトヲ要ス

第二十二條 (削除)

第二十三條 (削除)

附 則

第二十四條 本手續ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 大正四年一月達第二〇號荷物代金引換取扱手續竝大正五年六月達第五九六號代金引換荷物到着通知後代金引換ノ取消アル場合ニ於ケル荷物無料保管期間ニ關スル達ハ之ヲ廢止ス

一箇ノ重量百五十斤ヲ超ユル宅扱貨物ノ取扱方

昭一、二、四 意

當局以外ノ鐵道局管内著ノ宅扱貨物ニシテ一箇ノ重量百五十斤ヲ超ユルモノノ運送方申込アリタルトキハ左記驛著ノ場合ヲ除キ貨物運送規則第五十九條補則一ノ規定ニ拘ラス驛長限リ運送ヲ引受ケ差支ナシ

記

東京鐵道局管内

杵掛、幕張、南酒々井、猿田、大戸、下總松崎、安食、木下、上總興津、保田、太海、市川、船橋、四街道、佐倉、八日市場、佐原、小林、布佐、御宿、鶴原、檜葉、安房、勝山、大多喜、總元

名古屋鐵道局管内

降雪期間 (自十二月一日至二月末日) 中

北陸本線(中ノ郷泊間及敦賀港)、小濱線(粟野大島羽間及松尾寺)、三國線、七尾線、中越線、氷見線、新湊線、高山本線(飛田小坂西富山間)、越美南線(郡上八幡北濃間)、各驛

大阪鐵道局管内

該當驛ナシ

廣島鐵道局管内

該當驛ナシ

門司鐵道局管内

遠賀川、基山、長洲、小川、野田郷、串木野、坂本、大隅横川、福治、小城、多久、山本、唐津、大町、志佐、彼杵、豊後三芳、内牧、豊後竹田、高森、杵築、下ノ江、岩脇、加治木、行橋、二島、中間、鯉田、上穂波、鴨生

新潟鐵道局管内

野邊山、松原湖、嫉捨、稻荷山、南小谷、中土、六日町、五日町、小出、越後堀ノ内、小千谷、越後瀧合、内ヶ卷、下條、十日町、相野々、尾去澤、山都、荻野、野澤、上野尻、德澤、豊實、日出谷、鹿瀧、白崎、五十島、五泉、庭坂、峠、大澤、芦澤、羽前豊里、釜淵、飯詰、機織、早口、南米澤、中郡、荻生、羽前沼澤、伊佐領、小國、越後下關、時庭、羽前成田、羽前山邊、寒河江、羽前高松、栢山、刺卷、阿仁合、平木田、桑川、越後寒川、五十川、鶴岡、遊佐、小砂川、羽後岩谷、津谷、古口、狩川、坂城、戸倉、湯町、姉崎、鉢崎、青海川、北條、越後廣田、塚山、來迎寺、桐原、寺尾、矢作

降雪期間 (自十二月一日至四月末日) 中

北陸本線市振郷津間、大糸北線、神城、信濃四ツ谷、信濃森上、扇田、笹木野、坂谷、關根、中川、上ノ山、天童、大石田、舟形、泉田、院内、十文字、横手、大川、羽前椿、手ノ子、越後片貝、西大塚、荒砥、金塚、藤島、本橋、米倉、清川、田口、關山、二本木、脇野田、高田、春日山、柏崎、押切、帶織、加茂、矢代田、片貝、石地、越後長澤

仙臺鐵道局管内

久田野、鏡石、安積永盛、日和田、本宮、二本松、安達、松川、金谷川、瀨ノ上、伊達、桑折、越河、品井沼、二枝橋、矢幅、厨川、瀧澤、奥中山、小繫、北高岩、下田、沼崎、乙供、千曳、狩場澤、清水川、小湊、夜ノ森、野木澤、川東、谷田川、磐城守山、岩代飯野、岩代川俣、作並、小梨、矢越、江釣子、岩澤、和賀仙人、大荒澤、陸中大石、柏木平、平倉、足ヶ瀬、大釜、小岩井、橋場、上米内、大志田、淺岸、區界、松草、平津戸、箱石、腹帶、平館、岩手松尾、赤坂田、田山、兄畑、湯瀬、小豆澤、柴平、鮫、種差、階上、陸中八木、侍濱、陸中夏井、有戸、舞木、三春、船引、神俣、小野新町、夏井、川前、喜久田、岩代熱海、川桁、大寺、鹽川、喜多方、會津本郷、會津高田、塔寺、會津柳津、門田、上三寄、湯野上、彌五島、橋原、會津長野、鳴澤、鯉ヶ澤、大戸瀨、陸奥澤邊、中山平、堺田、鹿又、白井線各驛  
降雪期間(自十二月一日至三月末日)中  
矢吹、藤田、新田、有壁、新地、大越、中山宿、上戸、關都、猪苗代、翁島、廣田、會津若松、西若松、新鶴、會津坂下、會津坂本、桑原、岩手山、瀨見、長澤

濱小樽驛著貨切扱貨物積載貨車々票及通知書  
ニ對シ貨物取卸場所表示方ニ就テ

注 昭八、二  
意

濱小樽驛ニ於ケル貨物取扱並驛構内配線狀態及沿線營業倉庫ノ關係等ニ付キテハ、客年七月二日本欄ニ掲載シタル通りナレバ同驛ニ於テハ配線ノ關係上到着貨車ノ入換仕譯ノ操業困難ニ付總ベテ隣驛小樽築港ニ於テ仕譯區分ノ上入換機關車ヲ以テ濱小樽ニ至ル沿線附近營業倉庫又ハ土場ヨリ順次之ガ差入レヲ爲スモノナレバ濱小樽著貨切扱貨物積載貨車ハ小樽築港ニ到着ノ際當該貨物ノ著驛ニ於ケル取卸場所分明シ居ラザレバ入換仕譯作業ニ着手シ得ザル不便アルノミナラズ著驛ヲ介シ荷受人ト取卸場所ノ打合せ等ニ多大ノ手数ト時間トヲ空費シ貨車入換並貨物取卸作業ヲ遅延セシムル等、自他共ニ受クル迷惑鮮少ナラザルモノアリ貨物運送上遺憾ノ次第ニ付爾令濱小樽著貨切扱貨物受託ノ際ニハ漏レナク貨主ニ對シ叙上ノ事情ヲ說示シ可成運送狀ニ其ノ貨物ノ取卸場所ヲ記載セシムルコトニ努ムルト共ニ之ヲ貨車々票面所定ノ箇所並通知書記事欄ニ左記略號ヲ以テ記入表示シ著驛及小樽築港ニ於ケル作業ヲ容易ナラシムル様取計方特ニ留意スベシ  
(濱小樽及沿線附近ニ於ケル營業倉庫並貨物取卸場所配線狀態ニ付キテハ別紙略圖參照) (別圖省略)

取卸場所	通知書並車票面略號	取卸場所	通知書並車票面略號
第一積卸線		河上製材所	河上
岡崎倉庫	い岡崎	土場	い土場
甲勝納組材置場	い甲	取卸	い取卸
二引倉庫	い二引	第二積卸線	
小樽木材倉庫會社專屬倉庫	い木倉	坂本魚糧工場一、二、三號	ろ坂本
新宮商行木材倉庫	い新宮	坂本魚糧工場一、二號	ろ坂本





貨物通知書並車票面記載例

- 一 第二積卸線(猪股倉庫取卸)の場合
- 二 第三積卸線(取卸)の場合
- 三 入換二番線小樽物産南濱倉庫取卸の場合

ろ(8)

は(解)

ほ(小樽物産)

### 濱小樽驛著貸切扱貨物ノ車票及通知書ニ

#### 取卸場所明示ニ就テ

注 昭一三、一一  
意

濱小樽驛著貸切扱貨物ハ同驛ノ配線關係上入換仕譯ノ操業困難ナル爲小樽築港驛ニ於テ仕譯區分ヲ爲シ然ル後夫々營業倉庫又ハ土場取卸場所ニ差入レテ行フ現狀ナルガ濱小樽驛ノ取卸場所ハ現在百五箇所アリ貨車差入及取卸ノ迅速ヲ期スルニハ發驛ニ於テ貨車々票及貨物通知書ニ該貨物ノ著驛取卸場所ヲ明示シ之ニ依リ小樽築港驛ニ於ケル入換仕譯ヲ圓滑ニシ差入順序ヲ整理スル外方法無キニ付發送驛ハ昭和八年二月九日局報注意濱小樽驛著貸切扱貨物積載貨車々票及通知書ニ對シ貨物取卸場所表示方(規程類抄營業編八二頁所載)ノ勵行ニ付特段ノ注意相成度

### 秤量委託ノ場合ニ於ケル輸送順路ニ就テ

注 昭八、九  
意

貨物運送規則第七十條中ノ「輸送順路」トハ一定シタル運送經路ヲ指スモノニ非ズシテ個々ノ場合其ノ貨物ガ實際輸送セラルベキ經路ヲ謂フモノニシテ「輸送順路外」トハ其ノ個々ノ場合實際ニ輸送セラルベキ經路外ノ意ナリ、例ヘバ釧網線方面ヨリ天寧驛ニ到着スル貨物ノ運送經路ハ釧路經由ナルモ實際貨物ハ一旦濱釧路驛ニ持込ミ繼送セラレ居

ルカ此ノ場合濱釧路經由ガ即チ本貨物ニ對スル輸送順路ナリ故ニ此ノ場合濱釧路驛ニ於ケル秤量ノ委託ニ應ジタル場合貨物運送規則第七十條ノ適用ナキ區間ニシテ當局管内ノモノ左ノ如シ

### 秤量委託ノ場合ニ於ケル輸送順路ニ關スル件

注 昭一〇、八  
意

貨物輸送經路ハ事實迂回經路トナルモ輸送順路ナル爲途中驛ニ於ケル秤量ノ委託ニ應ジタル場合貨物運送規則第七十條ノ適用ナキ區間ニシテ當局管内ノモノ左ノ如シ

貨物ノ發著區間	秤量驛	迂回區間
一 岩内線第七七二列車發送、小樽以遠下リ方面行	俱知安	小樽俱知安間
二 札沼線經由ヲ短距離トスル留萌線ト函館本線方面トノ相互間	苗穂、江別、岩見澤、砂川、瀧川、深川	深川經由、桑園石狩沼田間
三 新旭川經由宗谷線方面ト石北線方面相互間	旭川	新旭川旭川間
四 釧路(含發著)並東釧路(含著)經由根室本線(含天密)上、下方面、釧網線方面、雄別炭礦鐵道(含釧路發著)、釧路臨港鐵道線各相互間	濱釧路	釧路又ハ東釧路濱釧路間
五 釧網線方面、網走本線方面、湧網東線各相互間	濱網走	網走濱網走間

### 秤量料收受ニ關スル件

注 昭六、九  
意

計重臺設備驛ニ於テ從來貸切扱貨物ノ積込後貨主ヲシテ自由ニ計重臺ヲ使用セシムルカ又ハ驛ニ於テ計量シ何等料金ノ收受ヲ爲サ

ザル向アルヤニ開及右ハ委託秤量ノ制ヲ設ケラレタル今日無料ニテ使用セシムルガ如キハ不都合ニ付爾今貨主ノ自由使用又ハ貨物受取前ノ無料検査ハ嚴禁シ秤量方申込アルモノニ對シテハ相當料金ヲ收受シ貨主ノ要求ナキモ貨物受取後驛ニ於テ計量シタルモノハ受託監査トシテ其ノ過不足量ニ對シテハ相當運賃ノ處理ヲ爲スベキモノニ付注意ヲ要ス

### 計重臺ニ依ルニ非サレハ計量困難ナル貨物ノ 受託監査方法制定ニ就テ

昭八、一  
注 意

本日札鐵達甲第一七號ヲ以テ貨物運送規則第十一條補則四局補一ヲ追加シ計重臺ニ依ルニ非サレバ計量困難ナル貨物ノ受託監査方法ヲ制定セラレタルガ其ノ趣旨ハ木材ニ在リテハ規則第十一條補則四第一項第二號ニ依リ受託監査ヲ爲シ得ルモノハ之ニ據リ然ラザル場合ハ社會一般ニ行ハレ居ル商取引上ノ單位ヲ尊重シ之ヲ重量計算ノ基礎ト爲シ其ノ他ノ貨物ニ在リテモ之方受託監査ニ困難ナル貨物ノ重量ヨリ正確ナラシメ過積ヨリ生ズル恐ルベキ運轉上ノ危險ヲ防止シ一方正當ナル運賃ノ收受ヲ爲サントスルモノニ付克ク其ノ趣意ヲ甄味シ受託上遺憾ナキヲ期セラタシ尙注意スベキ點ヲ擧グレバ

- 一 發驛々長ハ木材及其ノ他ノ貨物ノ一單位當リ重量ノ正確ヲ期スル爲常ニ計重臺設置驛ニ検査ノ依頼及荷主ニ秤量ノ委託ヲ懲進スル等可及的ニ多數檢量ヲ爲スコト
- 一 前項ニ依リ一單位當リ重量ヲ算出シタルモノハ樹種、形態ハ勿論皮付ノ有無、伐材ノ經過、乾濕ノ程度等其ノ貨物ノ重量算出ニ關係アル事柄ハ詳細ニ記録シ又檢量依頼、秤量委託以外ノ貨物ト雖計重臺設置驛ヨリ檢量ノ通知ヲ受ケタルモノハ之ニ準ジ記録シ後日ノ參考トスルコト

- 一 木材ノ容積タル商取引上ノ賣買石數ノ正確ナルヤ否ハ石數早見表ヲ利用シ現品ニ付檢尺ヲ爲シ不止得檢尺ヲ爲シ得ザル場合ハ野帳、手帳、仕様書等ヲ參照シ正確ナルヤ否ヤヲ確メ其ノ他ノ貨物ニ對シテモ木材ノ如ク荷重ノ基礎トナルベキ數量ハ必ズ現品ニ付確認シ又撒積鐵屑ノ如キ荷重不明ノ貨物荷姿及貨物負擔ノ狀態等ニ依リ貨物ノ重量ヲ推定スルト共ニ秤量委託及檢量依頼ヲ爲スコト
- 一 局補ハ計重臺ノ設置無キ驛ニ於ケル取扱ヲ定メラレタルモノナルガ計重臺設置驛ニ於テハ計重臺ニヨリ受託監査ヲ爲スヲ原則トスルハ勿論ナリ
- 一 木材ノ檢尺ニハ和尺ハ別ニ配給セザルニ付米尺ヲ以テシ石數早見表中和尺ノ寸法ヲ記入シ在ル處ハ米ニ換算シ置ク等ノ方法ニ依リ取扱フコト

### 貨車内の降雪及凍結物の重量に就いて

札鐵新聞  
第五三號

運輸部 貨物課

本道冬期間に於ける貨物輸送上の悩みとして無蓋貨車床板上の凍結物が不鮮ある。固より貨車内の掃除により之を除去することに努力はして居るが之が絶無は困難である。従つて凍結物附著ある貨車を使用せる場合は、之等凍結物の重量を控除したる荷重により運賃を計算するのは勿論であるが、さて幾何の重量あるかは推定困難なので現場に於いて取扱上相當苦心が拂はれてる事と思ひ、當局に於いて、參考迄に測定した結果が大體次の通りであつた。之れを參考として善處されたい。

- 一 平方米當リ重量(一種ノ厚サ)
  - イ 雪 二庇乃至五庇 (平均三・四庇)
  - ロ 氷雪ニ藁木屑混入ノモノ 五庇乃至九庇 (平均六・三庇)
  - ニ 氷雪ニ土砂石炭混入ノモノ 六庇乃至十一庇 (平均八・七庇)

貨車別氷雪重量

車種	型式	貨車別 平面積	1平方米當り重量 (厚サ1糎ニ於ケル)												
			2 延	3 延	(3,4) 延	4 延	5 延	6 延	(6,3) 延	7 延	8 延	(8,7) 延	9 延	10 延	11 延
ト	1	11,707	24	35	40	47	59	70	74	82	94	102	105	117	129
ク	6,000	11,020	22	33	28	44	55	66	69	77	88	96	99	110	121
ク	13,600	12,042	24	36	41	48	60	72	76	84	96	105	108	120	133
ク	14,500	15,837	32	48	54	63	79	95	97	111	127	138	143	158	174
ク	20,000	13,440	27	40	46	54	67	81	85	94	108	117	121	134	148
ト	1	15,130	30	45	51	61	76	91	95	106	121	132	136	151	166
ク	5,000	15,130	30	45	51	61	76	91	95	106	121	132	136	151	166
ク	16,000	15,246	31	46	52	61	76	92	96	107	122	133	137	153	168
トラ	1	19,739	40	59	67	79	99	118	124	133	158	172	178	197	217
チ	1	12,701	25	38	43	51	64	76	80	89	102	111	114	127	140
チ	1	19,162	38	58	65	77	96	115	121	134	153	167	173	192	211
チ	30	18,520	37	56	63	74	93	111	112	130	148	161	167	185	204
チ	100	18,400	37	55	63	74	92	110	116	129	147	160	166	184	202
チ	1	24,653	49	74	84	99	123	148	155	173	197	215	222	247	271
ク	300	25,300	51	76	86	101	127	152	159	177	202	220	228	253	278
ク	1,000	30,080	60	90	102	120	150	181	190	211	241	262	271	301	331
セキ	600	27,172	54	82	92	109	136	163	171	190	217	236	245	272	299

重貨物ノ重量標示ニ關スル件

昭五、五  
内令一六

第一條 一貨物ニシテ重量千疋以上ノモノ(包裝セラレザル木材、石材、鐵材其他之ニ類スルモノヲ除ク)ヲ發送セントスル者ハ發送前見易ク且容易ニ消磨セザル方法ヲ以テ其ノ重量ヲ表記スベシ但シ當該貨物ノ重量ヲ計量シ難キ場合ニ於テ其ノ重量千疋以上ナリト推定セラルトキハ推定重量ヲ表記スベシ

第二條 貨物發送者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

第三條 貨物發送者未成年者若ハ禁治產者ナルトキハハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ間則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 貨物發送者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附 則

本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道運輸規程第百條ニ於ケル擔保取扱手續

昭八、九  
達七二五

第一條 貨物引換證ノ紛失等ニ因リ擔保ヲ供シテ貨物ノ引渡ヲ請求スル者アルトキハ本手續ニ依リ取扱フベシ

第二條 擔保ハ左ノ三種トス

一 現金

二 國債  
三 保證人

註 國債中ニハ帝國鐵道會計法第十二條ニ依ル證券及大藏省證券ヲモ包含スルモノトス

第三條 現金及國債ニ在リテハ本手續ニ依ルノ外鐵道會計事務取扱細則第七章歳入歳出外現金及鐵道省保管有價證券取扱規程ノ定ムル所ニ依ル

第四條 現金及國債ヲ擔保トスル場合ニ於テハ當該驛長ハ引渡スベキ荷物ノ時價相當ト認ムル價額ヲ納付セシムベシ但シ貨物引換證ニ記載シタル荷物ノ價額ガ時價以上ナリト認ムルトキハ其ノ記載價額ニ依ル

保證人ハ驛ヲ管轄スル局所々在地ニ住所ヲ有シ驛長ニ於テ其ノ資力信用充分ナリト認ムル者ニ限ル  
前項ノ場合ニ於テハ第一號書式保證書ヲ提出セシムベシ

註 本條第一項ノ場合ニ於ケル國債、價格ニ付テハ明治四十一年十一月勅令第二八七號政府ニ納ムベキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ニ關スル件ニ依リ價額金額ニ依ルモノトス

第五條 擔保又ハ保證書ノ還付ヲ受ケムトスルモノアルトキハ貨物引換證又ハ除權判決ノ謄本若ハ判決ヲ公告シタル官報又ハ新聞紙ヲ提出セシムベシ

貨物引渡請求時効ニ因リ消滅シタルトキハ請求ニ依リ擔保又ハ保證書ヲ還付スベシ

第六條 驛長保證書ヲ還付スルトキハ其ノ領收書ヲ徴スベシ

第七條 貨物引渡後貨物引渡請求者以外ノ者ガ貨物引換證ヲ呈示シタルトキハ直ニ所管運輸事務所長又ハ鐵道局出張所長ニ報告シ指揮ヲ請フベシ

第八條 驛長ハ擔保ヲ提出セシメ貨物ノ引渡ヲ爲シタルトキ及之ガ還付ヲ爲シタルトキハ其ノ都度第二號書式擔保物及保證書出納報告書ニ依リ所管運輸事務所長又ハ鐵道局出張所長ニ報告スベシ

第九條 所管運輸事務所長又ハ鐵道局出張所長ハ擔保ノ當否及出納ヲ監査スベシ  
第十條 本手續ニ於テ驛トハ營業所ヲ含ム

附 則

左ノ達ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年十月遷公達第七七〇號鐵道運輸規程第百條ニ於ケル擔保物取扱手續

明治四十一年十月達第五一二號鐵道運輸規程第百條ニ於ケル擔保物取扱手續ニ關スル書式

第一號書式 保證書(第四條第三項)

保 證 書

印 紙

何年何月何日何驛長發行貨物引換證第何號何々(紛失等引換證ヲ呈示スルコト能ハザル理由)候處貨物引渡相受候ニ付テハ之ガ爲貴省ニ對シ損害相懸候節ハ保證人連帶シテ賠償可致候

年 月 日

住 所

本 人 氏

名

住 所

保 證 人 氏

名

鐵道大臣宛

第二號書式 擔保物及保證書出納報告書(第八條)

擔保物及保證書出納報告書

貨物引換 證ノ番號	貨物			引渡請求者 ノ住所氏名	擔保物ノ 數量住所	種類及 保人名	擔保 物ノ 付 又 出 理 由
	品目	數量	價額				

年 月 日 所 長 宛

署 長 印

荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル  
鐵道運送品等ノ公告ニ關スル件

明四三、五  
關令一、一

第一條 鐵道營業法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハザル運送品ニ付爲ス公告ハ運送品ノ名稱、種類、數量、記號、發送停車場、到達停車場、保管停車場ノ名稱及託送到達ノ日時等成ルベク其ノ運送品ヲ知得スルニ足ルベシト思料スル事項並公告後六月内ニ其ノ權利者ノ申出ナキトキハ鐵道ニ於テ其ノ所有權ヲ取得スベキ旨ヲ記シ之ヲ官報ニ掲載スルモノトス

第二條 鐵道ハ荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハザル運送品ナルコトヲ知リタルトキハ運送品ヲ其ノ鐵道ノ各停車場ニ備付ケタル帳簿ニ前條ト同一事項ヲ記入シ其ノ所有權ヲ取得スルニ至ル迄公衆ノ閱覽ニ供スルコトヲ要ス

第三條 前二條ノ規定ハ鐵道營業法第十三條ノ二ニ規定スル託送手荷物及一時預リ品ニ之ヲ準用ス

荷受人及荷送人及荷送人ヲ確知スルコト能ハザル運送品等ノ公告ニ關スル件

荷送人荷受人カ同一ナル貨物ノ錯誤  
處理ニ關スル件

昭六、一一  
注 意

荷送人及荷受人ガ同一ナル貨物ノ錯誤ヲ發見シ之ガ爲メ運賃ニ異動ヲ生ジタル場合ハ著譯ニテ直チニ其ノ處理ヲ爲サズ「發譯處理」ノ荷物貨訂正通知書ヲ發行シテ發譯ニ其ノ旨通知シタルモ荷送人ハ著譯ヨリ荷受後既ニ居所不明トナリ之ガ處理不能トナリタル事實アリタルニ付右ノ如キ場合ハ豫納及後拂扱ノモノヲ除キ著譯ニ於テ貨物引渡ノ際荷送人タル同人ニ對シ直ニ運賃及料金ノ處理ヲ爲スベキモノニ付留意セララルベシ

二硫化炭素ノ運送ニ就テ

昭八、四  
通 報

二硫化炭素ハ引火點攝氏零下二十度ニシテ揮發性ニ富ミ可燃性液體中エーテルト共ニ引火爆發ノ危險最モ大ナリ殊ニ罐入ニシテ貨切扱ニ依リ運送セラレツツアルモノハ最近事故頻發ノ實例アルヲ以テ之ガ根本的對策ニ付テハ目下研究中ナルガ要スルニ事故ノ原因ハ荷造及積付不完全ノ爲輸送中漏洩氧化シタルモノガ車輛制動機使用ノ際生ズルスパークニ因リ引火爆發スルニ至ルモノト認メラルルヲ以テ左記事項勵行方注意セララルベシ

- 一 使用貨車
  - 有蓋車積トシ車扉ヲ一部開キテ通風ヲ宜クスルコト此ノ場合貨車ニ引戸止ノ裝置ナキトキハ車扉ノ移動セザル様充分ニ緊縛シ置クコト
- 二 積 付
  - イ 栓ノ部ヲ上ニ向ケテ積積トスルコト
  - ロ 罐ニ相當スル曲リ面ヲ有スル木製枕止ヲ當テ且罐ノ移動ヲ防止スル設備ヲ施スコト

荷送人及荷受人ガ同一ナル貨物ノ錯誤處理ニ關スル件  
二硫化炭素ノ運送ニ就テ

ハ 積重ネザルコト

三 輸 送

イ 積載貨車ハナルベク機關車ヨリ隔離シ連結スルコト

ロ 空氣制動箱附貨車ニ積載スルトキハ空氣制動機ノ締切活栓ヲ閉塞シタル上火藥類積載貨車ノ例ニ依リ「活栓締切」ノ表示ヲ爲スコト

ハ 積載貨車ニハ「突放禁止」ノ表示ヲ勵行シ且之ヲ入換スル場合ハ制動機ヲ使用セザルコト又制動機ハナルベク之ヲ使用セザルコト

ニ 二硫化炭素ノ漏洩ヲ發見シタルトキハ直ニ安全ナル箇所ニ解放シ相當ノ手當ヲ爲スコト此ノ場合電燈以外ノ燈火及其ノ他ノ火氣ヲ近ヅケザルコト

尙貨主ニ對シテハ前記第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ勵行スルノ外容器ノ使用方其ノ他ハ左記ニ依ルベキ旨ヲ要望シ置キタリ

一 容 器

イ 罐ハグリセリン罐又ハ之ニ類スル罐ニシテ漏洩セザルモノタルコト

ロ 罐ハ毎平方寸ニ付〇・七疋(毎平方吋ニ付約十封度)以上ノ壓力ニ一分以上耐ユルモノタルコト

ハ 栓ハ雌雄螺旋ノ完全ナルモノニシテ鉛其ノ他二硫化炭素ニ依リ侵サレザル適當ノ充填材ヲ用ヒ完全ニ密封スルコト

ニ 外部ヲ塗粧スルトキハ鉛白塗料ヲ以テ塗裝スルコト

二 空 器

二硫化炭素ヲ取出シタル後空器ハ直ニ栓ヲ施スコト

三 二硫化炭素充填量

容器ノ内容積ノ十分ノ一以上ノ空所ヲ存セシムルコト又空ノ場合共罐ニハナルベク水ヲ容レザルコト

### 二硫化炭素發火防止ニ關スル件

昭 八、四  
札運庶二六五ノ二

二硫化炭素ニ對スル發火事故防止方ニ付本月八日鐵運乙第七四四號ヲ以テ左記ノ通運輸局長ヨリ通牒有之候ニ付テハ同日付鐵道公

報通報欄「二硫化炭素ノ運送ニ就テ」ヲ精讀シ取扱上遺漏ナキヲ期スルト共ニ右通報前段第一號(使用車)及第二號(積付)並後段(容器使用方其ノ他ニ對スル荷主ヘノ要望)ニ掲グル事項ノ周知方ニ關シ驛長ハ運送取扱業者、商工會議所、本藥品取扱商店等ニ對シ適宜ノ方法ヲ以テ右通牒ノ主旨徹底ヲ講セラレ度尙此ノ種危險品ヲ他ノ品名ニテ託送スルガ如キ機會ヲ與ヘザル様一層荷物ノ監査ヲ勵行相成度

追テ二硫化炭素積載貨車ノ検査並輸送方ニ關シテハ右公報通報第三號ニ留意相成度

記

鐵運乙第七四四號

昭和八年四月八日

札幌鐵道局長宛

運 輸 局 長

二硫化炭素ニ對スル發火事故防止方ニ付テハ四月八日鐵道公報ヲ以テ通報致置候處右通報中前段第一號及第二號並ニ後段ニ掲グル事項ハ貨主側ニ對シ之ヲ徹底セシムルニ非ザレバ實效ヲ期シ難キ次第ニ付貴管内各貨主ニ對シ右實行方慈惠相成様御配慮相成度尙近來二硫化炭素ヲ他ノ品名ニ依リ小荷物又ハ貨物トシテ託送スル者アルヤニ及聞候處斯クテハ恐ルベキ危害發生ノ素因トモ可相成ニ付其ノ邊嚴重取締方件ヲ御配慮相成度

### アルミニウム其ノ他金屬削屑貨物取扱方ノ件

昭 一三、三  
通 報

アルミニウム、エレクトロン合金(マグネシウムヲ主トセル合金)及チユラルミン合金(アルミニウムヲ主トセル合金)ヲ材料トシテ機械器具類ヲ工作スル場合ニ工作機械ノ摩擦發熱防止ノ爲油脂類ヲ使用スルヲ以テ前記金屬ノ削屑ニハ油脂類ガ附着シ其ノ自己酸化ニ依リ發熱シタル實例アリ之等貨物ノ取扱ニ當ツテハ直接日光ニ曝露シ、火氣ニ近付ケ又ハ下積トナス等ノコトナキ様注意スルヲ要ス

## 振綿ノ發火事故防止ニ就テ

昭九、六  
通報

振綿ハ輸送中往々自己酸化ニ因リ自然發火ノ事例アルヲ以テ之ガ荷造及運送取扱方ニ付テハ貨物運送規則第十二條補則一及其ノ註ニ明示セルガ恰モ夏季ニ際シ特ニ此ノ種事故誘發ノ虞アルヲ以テ右規定ヲ勵行方注意セラルベシ

## 火藥類及危險品ノ積卸用燈器備付に關する件

大一四、五  
運一二、六

依命通牒

火藥及危險品等ノ夜間積卸用として懷中電燈を左記各驛、車掌所及船舶に備付け使用することに相成候に付ては使用方參照の上危險防止上遺憾なきを期せられたし

記

- 一 備付驛及箇數(略)
- 二 使用方

本燈器は左の場合に之を使用するものとし尙貨物の性質上本燈器の使用を可と認むるものに對しても可成之を流用すること

(イ) 火藥類を積載したる緩急車代用車に驛に於て發送貨物の積込を爲すとき又は積載しありたる到着貨物の取卸を爲すとき  
(ロ) 危險品を夜間積卸を爲すとき

- 三 其の他の事項

貨切投危險品の發著ある驛に於て夜間本貨物の積卸を爲すときは本燈器類の適當なるものを使用することに協定し置くこと

## 拳銃、實空包、廢彈類ノ運送取締ニ關スル件

昭一三、四  
札運貨三四五

依命通牒

支那及滿洲ヨリ内地ニ運送又ハ携行セラル拳銃、實空包、廢彈類ノ取締ニ關シ保安ノ必要上内務次官ヨリ鐵道次官宛照會ノ次第モ有之候間、之ガ運送又ハ携行ヲ發見ノ場合ハ左記ヨリ相當措置ノ上其ノ狀況報告相成度

記

- 一 拳銃類ノ輸入ニ關シテハ銃砲火藥類取締法令ニ依リ許可ヲ要スル所ナルヲ以テ支那及滿洲ヨリ貨物トシテ運送セララル場合ハ引渡前豫メ荷受人住所管轄警察官吏ト協議スルコト
- 二 實空包、廢彈其ノ他爆發性物件ノ客車内持込、手荷物託送、貨物運送ニ關シテハ各種ノ制限アルモ動モスレバ貨物若クハ携帶品中ニ混入セラルル虞アルヲ以テ支那及滿洲ヨリノ貨物並携帶品ニハ充分注意ヲ拂ヒ若當該物件發見ノ場合ハ最寄警察官吏ニ通知スルコト

## 貨物ノ附添人ニ就テ

昭一二、一〇  
意

附添人ハ貨物ノ保護看守ニ必要ナル限度ニ於テ附スベキモノナルニ拘ラズ往々其ノ程度ヲ超エテ多人數乗車セルモノ或ハ甚數ニ於テハ女小兒ノ乗車セルモノアルヲ聞知スルガ此ノ如キハ附添制度ノ趣旨ヲ没却シタルモノト云フベク發驛ノ取扱上注意ヲ要ス尙青函連絡船ハ夫々乗船員數ニ制限ガアリ第一青函丸ノ如キハ船員等ヲ除キ附添人ノ乗船ハ僅々二十一名ニ過ザルヲ以テ不必要ト認メラルモノヲ漫然附添ハシムル如キコトナキヤウ本州方面著ノモノニ對シテハ特段ノ注意相成度

馬匹積車ノ馬糧櫃車外吊下取締ニ  
關スル件

昭一三、五  
注 意

馬匹積車ノ馬糧櫃車外吊下取締ニ關シテハ客年本欄ニテ注意シ置キタルモノナルガ、最近又々車外ニ吊下グルモノ漸増ノ傾向アリ如斯ハ不測ノ事故ノ原因トナル虞アリ甚遺憾ノ次第ニツキ發驛ハ勿論中繼驛車掌等ニ於テモ嚴重取締ヲ爲ス様留意相成度

附添人無斷乘込取締ノ件

昭八、一〇一  
札 運 庶 一〇〇五

最近馬匹積車等ノ附添人ニシテ附添人料金連脱ノ目的ヲ以テ申告以外ニ無斷ニテ乘込ムモノ往々有之其ノ都度處理上種々手數ヲ要スルノミナラズ違犯ノ惡習ヲ馴致スル結果ト相成甚遺憾ノ義ニ付爾今附添人乘込ノ貨車發送ノ場合ハ充分注意シコレ等ノ不正ナカラシムル様嚴重取締相成度

家畜其ノ他ノ檢疫ニ關スル件

大一二、一二  
注 意

支那、西比利亞其ノ他諸外國並朝鮮、樺太ヨリ本道ニ家畜並其ノ屍體及肉骨毛皮類ヲ輸入又ハ移入スル場合ハ家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ヲ受クルニ非ザレバ移輸入スルコトヲ得ザルコトニ規定セラレアリ而シテ家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ハ本道ニ於テハ函館港及小樽港ノミ(小樽港ハ開設期間毎年自四月一日至十二月三十一日)ニ於テ之ヲ行フモノニ付大泊港稚内間航路ニ於テハ右荷物ノ輸送ヲ爲スベカラザルモノナルニ近時前記航路ニ依リ之ガ移入ヲ企ツルモノ有之哉ニテ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モアリ

右ニ該當スル手小荷物及貨物ノ取扱ヲ爲サザル様注意ヲ要ス

貸切扱貨物通知書ノ送達ニ就テ

昭一三、五  
注 意

貸切扱貨物通知書ニシテ現車ヨリ遅延シテ著驛ニ到着シ或ハ不達ニ歸スルモノ漸増ノ傾向アリ斯テハ著驛ニ於ケル作業ニ支障ヲ及ボスコト多カルベキニ付、各驛ハ充分通知書ノ取扱ニ留意シ不達又ハ遅延等ノコトナキ様注意ヲ要ス

酒類及酒用空樽ノ取扱方ニ關スル件

昭一〇、九  
注 意

酒類及酒用空樽ノ取扱方ニ關シテハ貨物ノ性質ニ鑑ミ特ニ左記ノ諸點ニ留意シ遺憾ナキヲ期スベシ尙運送取扱人、積卸業者等ニ對シテモ本趣旨ニ依リ取扱フヤウ注意スベシ

記

- 一 酒類ハ其ノ性質上外氣ノ變動ニ因リ品質ニ變化ヲ來シ易キニ付雨天ノ際屋外ニ放置シ又ハ日光ノ直射スル箇所ニ留置セザルコト
- 二 特ニ破損、抜荷等ノ事故ヲ發生セシメザルヤウ注意スルコト
- 三 酒用空樽ハ其ノ性質上雨濡レ又ハ乾燥ヲ厭フモノニ付上家ノナキ箇所ニ置カザルコト

鮮魚類ノ荷造及取扱方ニ就テ

昭一三、六  
注 意

鮮魚類ノ荷造ニハ往々破損シ易キ再装箱等ヲ使用スル向アリテ輸送途中ニ於テ中味露出シ爲ニ減量スル場合生ジ引渡上相當支障ヲ

(117) 貸切扱貨物通知書ノ送達ニ就テ  
酒類及酒用空樽ノ取扱方ニ關スル件  
鮮魚類ノ荷造及取扱方ニ就テ

馬匹積車ノ馬糧櫃車外吊下取締ノ件ニ關スル件  
附添人無斷乘込取締ノ件ニ關スル件  
家畜其ノ他ノ檢疫ノ件ニ關スル件



來シオル實情ニ鑑ミ之ガ受託ニ際シテハ輸送距離、荷造箱ノ強弱度等ニ留意シ改善ヲ要スト認メタルモノニ付テハ荷主ニ相當交渉セラレ度  
尙鮮魚類ハ汚汁等漏出附着シオル爲兎角積卸取扱ニ際シテ遺憾ノ點アルヤウ認メラレルガ作業員其他ニ對シテハ取扱上ノ指導ヲ爲ス様注意相成度

### 貨物ノ荷札整備ニ就テ

昭一三、六  
注一三、六  
意

最近荷札不備ノモノ往々發見サレ、取扱上ノ正確、輸送ノ迅速ヲ期スル上ニ相當支障ヲ生ジオルニ付、各驛ハ左記ノ點特ニ留意シ相互不便ナキ様改善方努力相成度

記

- 一 強度ノ甚低キモノハ取換ヘセシムルコト
- 二 稚内中繼樺太連絡貨物ニ對シテハ所定枚數ヲ必ズ附セシムルコト
- 三 字體ヲ鮮明ナラシメ鉛筆ヤインキヲ使用セシメザルコト
- 四 經路指定、運帶運輸ニシテ經路二途以上アル場合等ノ經路名ヲ洩サザルコト

### ボンブ空罐輸送ニ關スル件

昭五、一  
札運庶七六六

從來ボンブ空罐輸送ニ當リ罐内ニ壓縮瓦斯殘留スルモノ往々有之輸送上危險不尠ニ付不日函館、小樽、南小樽、札幌ノ四驛ニ氣壓計ヲ配備シ到着ボンブ空罐ニ對シ殘留瓦斯ノ有無ヲ嚴重監査シ之ガ取締ヲ爲スベキニ付他ノ各驛ニ於ケルボンブ空罐ノ受託ニ際シテハ其ノ荷送人ニ付瓦斯ノ有無ヲ注意スルト共ニ工場、機關區、檢車區等ニ於テモ使用済ボンブ空罐返送ニ當リテハ瓦斯殘留無之様留意セラレ度

### 貨物荷造用容器其他積卸貨主負擔貨物ノ取扱方ニ就テ

昭一〇、一  
通一〇、一  
報

貨物荷造用容器其ノ他貨取扱以外ノ貨物ニシテ積卸貨主負擔ノ條件アルモノハ申込ノ際荷送人ヲシテ著驛ノ取卸ニ關シ支障、紛糾等ヲ醸サザル様豫メ相當ノ手配ヲ爲サシメ、又著驛ニ於テモ常時取引ノ貨主ニ對シテハ右ノ趣旨ニ依リ相當ノ手配ヲ講ゼシムルコトニ勸奨スベシ

### コンテナー託送見合セノ場合ニ於ケル集貨料收受方ニ就テ

昭一三、九  
注一三、九  
意

「コンテナー」使用ノ申込ニ應ジ之ヲ集貨先ニ持運ビタル處荷主ノ都合ニ因リ貨物ノ託送ヲ見合セ持戻リタル場合ハ左記ニ依リ料金ヲ收受シ作業ニ從事セル請負人ニ交附スルコトニ諒知相成度

- 一 集貨料ノ半額ニ相當スル金額ヲ收受ス
- 二 諸料金切符ヲ發行シ貨物收入ノ雜收トシテ處理スルコト
- 三 前號諸料金切符ニハ本料金收受ノ事由ヲ詳記シ之ヲ基礎トシ集貨證明票ヲ作成スルコト

集貨證明票記事欄ニハ口數コンテナーノ種類及託送見合ノ旨記載スルコト

## 札幌驛到着貨物取扱制限ニ關スル件

注 昭一三、六  
意

札幌驛荒荷貨物積卸場ハ貨物増加ニ伴ヒ甚敷狹隘トナリタルニ付當分ノ間共濟組合購買部及職員共同購買貨物ニシテ荷受人ヲ職員個人名義トスル撤積石炭ノ札幌驛到着取扱ヲ停止ス

## 蜜蜂の運送途中に於ける飼料に就て

注 六一五、一一  
意

蜜蜂の運送途中に於ける飼料に付ては從來其の取扱區々に涉り居るが如きも無貨携帯又は無貨積込を承認すべき飼料の量の決定は左記標準に依り取扱ひ必要以上の蜂蜜を飼料として積載せしむるが如きこと無き様注意を要す

記

蜜蜂の鐵道運送に際し一日一群（養蜂器一箇）に付六十匁（二百二十五匁）前後の飼料を要するものなるが養蜂器一箇には普通六百匁（二匁二五）前後の蜂蜜を給與し託送するものなるを以て右養蜂器に容れたるもの外運送途中に於ける飼料として無貨携帯又は無貨積込を承認すべき蜂蜜の量は貨物の輸送日數と前記一日一群の消費量とを考慮し決定すべきものとす

## 車掌の乗務せざる列車に連結の緩急車及代用車に積卸する貨物の取扱方に就て

注 昭五、一二  
意

車掌の乗務せざる列車に連結の緩急車及代用車に積卸する貨物の取扱方に付ては十二月十日札幌達甲第三九五號を以て貨物輸送細

則の一部を改正し之に據らしむることとしたるが本改正は作業の簡易化に立脚したるものにて所期の目的を達成せんとするには従事員の細心なる注意と大なる自覺とを以て作業に當るの必要あるは勿論左の事項の勵行方に付特に注意を要す

### 一 一般取扱方

本改正の取扱方は驛相互間に於ける一の信用受授とも稱すべきものなれば苟且にも運送社の使用人に一任するが如き事を絶対に避け如何なる場合と雖も開、施封は驛員自ら之をなすこと

### 二 通報方

本通報は著驛に於ける取卸作業の圓滑を圖り且從來の驛、乗務員間の面接受授の形式を廢し恰も發著驛員間に通信受授の役目をなす重要な事項なるが故に直接受授する場合より一層懇切丁寧に其の個數、容積、積付位置並通知書所在箇所等は勿論荷卸の爲特に手配を要する事柄は洩れなく通報すること

### 三 途中取卸驛の準備

途中取卸驛に於ては各積込驛よりの通報に依り代用車の停車位置並所要時分を豫測し取卸に要する適切なる人員を手配し苟も積卸の爲列車を遅延するが如きことなき様注意すること

### 四 封 印

本取扱に依る施封方は専ら能率増進を旨として貨物積卸の爲開封したる一方の改封のみとし特に指定せる牛乳及同容器積専用代用車の如きは施封を省略し得ることとしたるを以て積載貨物の保護に付ては各従事員に於て責任觀念を重んじ萬遺漏なきを期すること

### 五 施封上の準備

開封したる代用車を更に施封すべき驛は列車到着前に豫め封印紙に必要事項を記載し積卸完了後直ちに施封し得る程度に準備し置き之が爲列車を遅延せしむるが如きことなき様努力すること

### 六 貨物通知書の整正方

施封驛に於ては貨物通知書を驛順に取揃へ赤狀に封入し次の驛に取卸すべき貨物の見易き箇所に括付け到着の上は直ちに通知書と現品の對照をなし荷卸に些も支障なき様整理し置くこと

### 七 積 付 方

開封驛の積卸を容易ならしむる爲には施封代用車の積付に一層の注意を拂ふは勿論なるも特に危険品及動物等の如き積付の如

- 八 何に依りては自他の貨物に損害を及ぼすか又は斃死の虞あるものに對しては床板に直積するか若くは他貨物との振合を考慮し適當なる位置に積付け不祥なる事故發生を誘引せしめざる様充分注意すること
- 九 事故處理箇所指定方
- 運送途中に於て事故を惹起したる場合の報告並處置方に就ては列車毎に各受持驛を所轄運輸事務所にて指定する等機宜の處置を誤らざる様手配すること
- 事故發見の場合の通報方
- 事故發見の場合には發見者は直ちに電報若くは電話を以て運輸事務所及關係所に通報し之を受けたる運輸事務所は即時調査を開始すること

## 梅田驛四ツ橋、横堀各貨物扱所ニ於ケル 貨物取扱ニ關スル件

昭七、七  
達五〇〇

梅田驛四ツ橋、横堀各貨物扱所ニ於ケル貨物取扱方左ノ通定メ四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 取扱範圍
  - 發送宅扱小口扱及應扱貨物俱シ一箇ノ長四米、重量百五十疋又ハ容積一立方米ヲ超ユルモノヲ除ク
  - 二 小運送料金
- 四ツ橋貨物扱所發
  - 小口扱貨物 六十疋迄十五錢トシ以上十疋迄毎ニ二錢五厘ヲ加フ
  - 應扱貨物 一應迄毎ニ二圓
  - 宅扱貨物 收受セズ
  - 横堀貨物扱所發
    - 小口扱貨物 六十疋迄十錢トシ以上十疋迄毎ニ一錢七厘ヲ加フ

應扱貨物 一應迄毎ニ一圓五十錢  
宅扱貨物 收受セズ

## 特種停車場其ノ他ニ關スル件

六七、五  
通報

停車場其ノ他ニシテ旅客、荷物ノ取扱上制限アルモノ及貨物運賃計算経路等ニ付特別ノ規定アルモノ別表ノ如シ  
(別表省略 鐵道法規類抄第十四編運輸別輯一頁參照)

## 倉庫營業規則、同補則

(抜萃)

昭六、九 鐵告二三六  
達六四〇

### 第一章 總 則

- 第一條 鐵道省(以下單ニ省ト稱ス)所管ノ倉庫營業ニ付テハ別段ノ規定又ハ特約アル場合ノ外本規則ニ依ル註「別段ノ規定」トハ荷物事故調査及損害賠償關係規定、運輸帳表取扱手續等ヲ謂フ
- 補則一 本規則及補則ニ定ナキ事項又ハ異例ニ屬スル事項ニ付テハ上長ノ指揮ヲ受クベシ
- 第二條 營業課目ハ左ノ通トス
  - 一 鐵道ニ依リ到着シ又ハ發送スベキ貨物ノ保管
  - 二 倉庫ノ賃貸
- 第三條 營業時間ハ毎日午前八時ヨリ午後四時迄トス但シ省ノ都合ニ依リ臨時變更スルコトアルベシ
  - 補則一 本條ノ營業時間ハ必要ニ應ジ鐵道局長ニ於テ延長スルコトヲ得
  - 營業時間外ト雖モ貨主ヨリ特ニ請求アルトキハ支障ナキ限り之ニ應ズベシ
  - 補則二 營業時間ハ見易キ箇所ニ之ヲ揭示スベシ
- 第四條 營業ニ關シ關係者ニ通知又ハ催告ヲ爲スベキ場合省ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ之ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ要

項ヲ營業所ニ揭示シ通知又ハ催告ニ代フ  
補則一 本條ノ揭示ハ左ノ文案ニ依リ少クトモ七日間見易キ箇所ニ之ヲ掲出スベシ  
(文案省略)

## 第二章 貨物ノ保管

### 第一節 受託

第五條 左ニ掲グル貨物ハ寄託ヲ受ケズ

- 一 貨物運送規則所定ノ特殊貴重品、危險品及汚穢品並ニ硝酸鹽類、スピリットワニス、セルロイド、ザイロナイト、過酸化マグネシア、亞硝酸ソーダ、過酸化水素水ニシテ過酸化物ノ含有量百分ノ四十ヲ超ユルモノ、活動寫眞用フィルムニシテ罐入ニ非ザルモノ、油類ニシテ攝氏六十六度以下ニ於テ可燃性瓦斯ヲ發散スルモノ及上記品目ト危險程度類似ノモノ
- 二 腐敗、變質、減量等損傷シ易キモノ(省ニ於テ特ニ承諾シタルモノヲ除ク)又ハ死スル虞アルモノ
- 三 内地消費稅未納ノモノ
- 四 荷造不完全ナルモノ其ノ他省ニ於テ保管ニ適セズト認ムルモノ

前項ニ掲グル以外ノ貨物ト雖モ其ノ保管ガ法令ノ規定、公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スルトキ又ハ天災事變等ノ不可抗力其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因ル支障アルトキハ寄託ヲ受ケズ

補則一 本條第一項第二號ニ掲グル腐敗、變質、減量等損傷シ易キモノヲ特ニ受託セムトスルトキ及第二項後段ノ場合ニシテ相當期間繼續シテ受託ヲ拒絕セムトスルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

第六條

寄託ノ時、保管期間、料金計算方、火災保險事項等ノ條件ヲ同ジクスル貨物ハ之ヲ一口ト爲スコトヲ得但シ省ニ於テ必要ト認ムルトキハ貨物ノ種類、數量等ニ付制限ヲ附スルコトアルベシ

第七條

寄託者ハ寄託ノ際一口毎ニ寄託申込書ヲ提出スルモノトス但シ倉荷證券ヲ請求セザル場合寄託者ニ於テ其ノ要項ヲ申告シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

寄託申込書ノ記載事項及様式ハ左ノ通トシ寄託者ニ於テ記名捺印スルモノトス

### 一 記載事項

- イ 寄託申込ノ日
- ロ 寄託者ノ住所(又ハ營業所、以下同ジ)及氏名(又ハ商號、以下同ジ)
- ハ 貨物ノ種類、品質、數量及荷造ノ種類、箇數並ニ記號
- ニ 貨物ノ價格
- ホ 保管期間
- ヘ 第二十八條ニ依リ貨物ヲ保險ニ附スルトキハ其ノ金額及保險期間又保險ニ附セザルトキハ其ノ旨
- ト 保管ニ付特別ノ注意ヲ要スルトキハ其ノ事項
- チ 特約アルトキハ其ノ事項
- リ 倉荷證券請求ノ有無

### 二 様式

(様式省略)

補則一 寄託申込書ノ記載方ハ左ノ各號ニ依ラシムベシ

- 一 貨物ノ種類品質ハ料金及貨物ノ價格決定ニ必要ナル事項ヲ知悉シ得ル程度ニ記入スルモノトシ貨物ノ銘柄、格付等商取引上ノ稱呼モナルベク詳記スルコト
  - 二 單量ハ貨物ノ品種ニ從ヒ料金計算ノ基準トナルベキ數量(料金表ノ單量欄ニ掲グルモノ又ハ一箇ノ數量)ヲ記入スルコト
  - 三 貨物ノ價格ハ其ノ地ニ於ケル時價ヲ記入スルコト
  - 四 保管ニ付特別ノ注意ヲ要スル事項、貨物ニ毀損、減量等アリタルトキハ其ノ現狀、規則第十條第三項ニ依リ内容ノ監査ヲ省略シタル場合ノ免責條件ノ記載等ハ特約條件及記事ノ欄ニ記入スルコト
  - 五 代理人ニ於テ寄託スルトキハ代理關係ヲ明カニシ置クコト
- 補則二 寄託ノ申込アリタルトキハ左ノ各號ニ付監査スベシ
- 一 其ノ貨物ノ受託ガ規則第五條ノ規定ニ反セザルヤ否ヤ
  - 二 寄託者ノ申告ニ不備又ハ不正ナキヤ否ヤ

補則三 已ムヲ得ザルトキハ署名又ハ記名捺印ヲ以テ記名捺印ニ代ヘシムルコトヲ得寄託申込書以外ノ書類ニ付亦同ジ

第八條 寄託者申告ノ不備又ハ不正ニ關シテハ寄託者ニ於テ一切ノ責ニ任ズルモノトス

寄託申込ノ際價格ノ明告ナキカ若ハ不當ナル價格ノ申告アルトキハ省ニ於テ相當ト認ムル所ヲ以テ其ノ價格トス

第九條 省ニ於テ貨物ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ貨物提供ノ場所及日時ヲ指定ス

指定シタル場所及日時ニ貨物ノ全部ヲ提供セザルトキハ受託ヲ拒絕スルコトアルベシ貨物提供後ト雖モ已ムヲ得ザル事由アルトキ亦同ジ

補則一 寄託申込アリタル際其ノ引受ニ支障ナシト認ムルトキハ貨物提供ノ場所及日時ヲ定メ適宜ノ方法ニ依リ寄託者ニ通知スベシ

補則二 指定シタル場所及日時ニ貨物ノ全部ヲ提供セザル場合ト雖モ既ニ其ノ一部ヲ持込ミタルトキハ支障ナキ限り之ヲ受託

(寄託申込書ヲ提出シタル場合ハ之ヲ適宜訂正ノ上受託)スベシ

第十條 貨物ノ提供アリタルトキハ寄託者ノ申告ニ付之ヲ監査ス此ノ場合荷造ノ開裝ヲ要スルトキハ寄託者ノ立會ヲ求ムルモノトス

前項ニ依リ監査ノ結果寄託者ノ申告ト相違アルトキハ特ニ要シタル費用其ノ他ノ損害ヲ寄託者ノ負擔トス貨物ノ種類、品質、荷造等ニ依リ中味ノ點檢ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトアルベシ此ノ場合入庫傳票、貨物保管書又ハ倉荷證券ハ寄託者ノ申告ニ依リ之ヲ作成ス

第一項及第二項ノ規定ハ受託後保管中ノ貨物ニ對シ省ニ於テ監査ヲ必要ト認ムル場合ニ之ヲ準用ス但シ荷造ノ開裝ヲ要スル場合倉荷證券付貨物ニ在リテハ證券所持人ノ明カナルトキニ限り其ノ立會ヲ求ムルモノトス

補則一 貨物ノ提供アリタルトキハ左ノ各號ニ付監査スベシ

一 貨物ノ種類、品質、數量其ノ他ガ寄託者ノ申告ト相違ナキヤ否ヤ

二 貨物ニ濡損、汚損、破損、減量等ノ異狀ナキヤ否ヤ

三 荷造、容器等ガ完全ナリヤ否ヤ

補則二 監査ノ際貨物ノ内容ニ付疑アルトキハ寄託者ノ立會ヲ求メ荷造ヲ開キ點檢スベシ

前項ノ場合寄託者ノ申告ト相違ナキトキハ省ノ費用ヲ以テ荷造ヲ原狀ニ復スベシ

補則三 監査ノ結果異狀アルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 貨物ノ種類、品質、數量、其ノ他ニ相違アルトキハ必要ニ應ジ寄託者ヲシテ寄託申込書ヲ訂正、記事欄ニ其ノ要旨及月日ヲ記入捺印セシムルコト

二 規則第五條ノ規定ニ反スルトキハ受託ヲ拒絕シ寄託者ニ對シ相當時間ヲ定メテ貨物ノ搬出方ヲ通告スルコト

三 貨物ニ濡損、汚損、破損、減量等ノ異狀アル場合又ハ荷造、容器等ガ不完全ナル場合ハ相當手入ヲ爲サシメ且特約ヲ要スルトキハ第一號ノ例ニ依リ處理スルコト

前項ノ場合特ニ費用ヲ要シタルトキハ之ガ徵收ノ手續ヲ爲シ又損害賠償ノ請求ヲ要スルモノト認ムルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

補則四 受託後保管中ノ貨物ニ對シ監査ヲ必要ト認ムルトキハ補則一乃至三ノ例ニ依リ處理スベシ

第十一條 第九條第二項又ハ前條第二項及第四項ノ場合受託ヲ拒絕又ハ契約ヲ解除シタルトキハ既ニ持込ミタル貨物ハ遲滞ナク之ヲ搬出スベキモノトス若シ之ニ應ゼザルトキハ第二十六條ノ例ニ依リ處理ス

第十二條 貨物ノ入庫作業ハ省ニ於テ之ヲ爲ス出庫作業ニ付亦同ジ

補則一 貨物ヲ入庫セムトスルトキハ必要ニ應ジ入庫指圖書ヲ作成使用スル等ノ方法ニ依リ係員間ノ作業連絡ヲ圓滑ナラシムベシ

補則二 貨物ヲ入庫スルトキハ其ノ種類、品質、荷造狀態、荷役及監査ノ便宜等ヲ參酌シ保管箇所、積付方等ニ注意スベシ

省ト特約アル農林省米穀事務所寄託ノ政府所有米、取引所ノ清算取引ニ供スベキ米及綿絲等ノ取扱方ニ付テハ當該約定ニ依ルベシ

前項ノ特約ハ鐵道局長ニ於テ之ヲ締結スベシ

補則三 入庫貨物ニ對シテハ必要ニ應ジ左記様式ノ荷札ヲ附シ他ノ貨物トノ識別ヲ容易ナラシムベシ

(様式省略)

第十三條 貨物全部ノ入庫ヲ終リタルトキハ寄託者ニ對シ一口毎ニ貨物保管書(貨物保管通帳ヲ含ミ以下單ニ保管書ト稱ス)又ハ請求ニ因リ倉荷證券(以下單ニ證券ト稱ス)ヲ交付ス

寄託者ハ保管書ニ代ヘ入庫傳票ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

註一 貨物保管通帳ハ常時ノ寄託者ニ對シ請求ニ因リ交付スルコト

註二 入庫傳票ノ請求アリタルトキハ保管書ヲ作成セザルコト





四 價格變更ノ申出アルトキハ原票及證券ヲ相當訂正シ且其ノ記事欄ニ要旨ヲ記入、證券ニハ驛長職印ヲ押捺ノ上之ヲ請求者ニ還付スルコト

補則二 證券ヲ再交付ノ請求アルトキハ請求書ノ提出ヲ求メタル上左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 新ニ證券ヲ發行シ其ノ記事欄及原票ノ記事欄ニ請求者ノ住所氏名、再發行ノ事由及月日ヲ記入シ證券ニハ驛長職印ヲ押捺シ且原票ト割印スルコト

二 擔保物ノ取扱方ニ付テハ第二十五條補則一ノ例ニ依ルコト

證券毀損ノ事由トシテ再交付ノ請求アルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

### 第一節 保 管

第十八條 貨物ノ保管期間ハ其ノ都度契約ニ依リ之ヲ定ム但シ其ノ長期ヲ六箇月トス

保管期間經過後引續キ貨物ヲ寄託セムトスルトキハ寄託者又ハ證券所持人（以下貨主ト稱ス）ニ於テ期間滿了前保管書又ハ證券ヲ呈示シ契約更新又ハ期間延長ノ手續ヲ爲スモノトス但シ省ニ於テ支障アルトキハ之ニ應ゼザルコトアルベシ

保管期間滿了スルモ契約更新又ハ期間延長ノ手續ヲ爲サザル貨物ノ保管ニ關シテハ本規則ヲ準用ス期間滿了前契約終了シタル場合引取ヲ爲サザル貨物ニ付又同ジ

註 入庫傳票ヲ交付シタル貨物ニ付契約更新又ハ期間延長ノ請求アルトキハ正當寄託者タルコトヲ確認シタル上之ニ應ジ入庫傳票ハ之ヲ呈示セシムルニ及バズ又出入庫手續ヲ省略シタルトキハ入庫傳票及出庫傳票ヲ作成スル必要ナキモノトス

補則一 本條第二項ニ依リ引續キ保管ノ請求アル場合貨物ノ種類、品質、保管上ノ都合等ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ之ニ應ジ左ニ掲グル區別ニ依リ處理スベシ

一 契約更新ノ請求アルトキハ貨物引渡ノ手續ト同時ニ新規受託ノ手續ヲ爲シ新ニ作成シタル保管書又ハ證券及原票ノ記事欄ニ其ノ要旨、月日及原入庫月日ヲ記入スルコト但シ出入庫ノ手續ハ之ヲ省略スルコトヲ得

二 期間延長ノ請求アルトキハ保管書又ハ證券及原票ノ記事欄ニ其ノ要旨及月日ヲ記入（證券ニハ驛長職印ヲ押捺）シ保管書又ハ證券ハ之ヲ貨主ニ還付スルコト

補則二 本條ニ依リ保管箇所ヲ變更スルトキハ庫替傳票ヲ作成シ且必要ニ應ジ關係書類ヲ訂正處理スベシ

庫替傳票ノ様式ハ左ノ如シ

（様式省略）

補則三 本條後段ノ通知ハ證券ヲ發行シタル場合ニシテ其ノ所持人ノ明カナルトキハ證券所持人ニ、其ノ他ハ寄託者ニ對シ之ヲ爲スベシ第二十條以下ノ場合亦同ジ

第二十條 貨物ノ損害ヲ發見シ又ハ損害ヲ生ズル虞アルトキハ貨主ニ對シ其ノ旨ヲ通知ス此ノ場合貨主ニ於テ指圖ヲ爲サザルトキ其ノ指圖ヲ俟ツ迄ナキトキ又ハ時日ノ經過ヲ不利益ト認ムルトキハ適宜處理スルコトアルベシ

貨主ニ於テ見本ノ摘出、貨物ノ點檢又ハ保存ニ必要ナル處置ヲ爲スベキ旨ノ申出アルトキハ省ニ於テ支障ナキ限り之ニ應ジ前二項ノ場合特ニ要シタル費用其ノ他ノ損害ハ省ノ責ニ歸スベキ事由ニ因ルモノヲ除キ貨主ノ負擔トス

第一項ノ場合貨主ニ於テ貨物ノ處分ヲ爲サムトスルトキ又ハ第二項ノ場合ハ保管書又ハ證券ヲ呈示シ且第十七條第四項所定ノ請求書ヲ提出スルモノトス此ノ場合保管書又ハ證券ヲ呈示シ難キトキハ第二十五條第一項及第二項ノ例ニ依リ處理ス

註 本條第四項ノ場合入庫傳票ヲ交付シタル貨物ニ付テハ入庫傳票ハ之ヲ呈示セシムル必要ナキモ正當寄託者タルコトヲ確認シタル上之ニ應ズルモノトス

補則一 貨物ノ損害ヲ發見シ又ハ損害ヲ生ズル虞アルトキハ貨主ニ對シ遲滯ナク其ノ要旨ヲ通知シ且時宜ニ依リ其ノ指圖ヲ求ムベシ

前項ノ場合ハ貨物ノ保護ニ關シ機宜ノ處置ヲ爲シ且損害ノ程度大ナルトキ又ハ換價處分ヲ有利ト認ムルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

補則二 見本ノ摘出、貨物ノ點檢又ハ保存ニ必要ナル處置ヲ爲スベキ旨ノ申出ニ應ジタルトキハ係員ニ於テ相當監視ノ上之ヲ爲サシムベシ

前項ノ場合貨物ガ農林省米穀事務所寄託ノ政府所有米ナルカ又ハ清算取引ニ供スル米若ハ綿絲等ナルトキハ其ノ取扱方ニ付テハ省ト農林省米穀事務所又ハ取引所トノ間ニ於ケル約定ニ依ルベシ

補則三 本條ノ場合關係書類ノ處理方ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一 貨主ニ對シ通知ヲ發シタルトキハ其ノ要旨ヲ適宜記錄シ置クコト



二 原票及保管書又ハ證券ノ記事欄ニハ其ノ概要（貨物ノ數量、荷造、價格等ニ異動アルトキハ其ノ旨共）、月日、請求者住所氏名等ヲ記入（證券ニハ驛長職印ヲ捺捺）シ保管書又ハ證券ハ之ヲ貨主ニ還付スルコト  
三 貨物ノ數量又ハ價格ノ異動其ノ他ノ事由ニ因リ火災保險事項、現在保管高等ニ影響ヲ及ボストキハ關係帳表ヲ訂正處理スルコト

補則四 本條第四項後段ノ場合擔保物ノ取扱方ニ付テハ第二十五條補則一ノ例ニ依ルベシ

第二十一條 左ニ掲グル貨物ノ損害ニ對シテハ省ニ於テ其ノ責ニ任ゼズ

一 天災事變、氣候ノ變化、濕氣、浸水等不可抗力ニ因ルモノ  
二 防疫其ノ他公ノ處分ニ因ルモノ

三 鼠害、蟲害、貨物ノ性質若ハ瑕疵又ハ荷造不完全ニ因ルモノ

四 保管ニ付特別ノ注意ヲ要スル旨ノ申出ヲ爲サザリシニ因ルモノ

五 爆發ニ基ク損害及無保險貨物ノ火災ニ基ク損害ニシテ省又ハ使用人ノ惡意又ハ過失ニ因ラザルモノ

六 前各號ノ外省又ハ使用人ノ惡意又ハ過失ニ因ラザルモノ

第二十八條ニ依リ火災保險ニ付シタル貨物ノ火災ニ基ク損害ニ付テハ第四節ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス

補則一 本條ニ定ムル損害ヲ生ジタル場合ニ於テモ其ノ處理方ニ付テハ第二十條補則一及三ノ例ニ依ルベシ

第二十二條 貨物ノ損害ニ對スル賠償金額ハ保管書又ハ證券（保管書又ハ證券ヲ交付セザル場合ハ省ノ書類）ニ記載シタル價格ヲ限度トシ損害發生當時（損害發生ノ時期不明ナルトキハ損害發見當時）ノ價格ニ依リ之ヲ定ム

### 第三節 引 渡

第二十三條 貨主ニ於テ貨物ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅベキモノトス

一 保管書又ハ證券ヲ交付シタル貨物ニ在リテハ當該保管書又ハ證券ニ引渡ヲ受クベキ貨物ノ種別、箇數等ヲ記載シ捺印ノ上之ヲ提出スルコト但シ保管書ヲ交付シタル貨物ノ一部ノ引渡ナルトキハ當該保管書ニ出庫請求書ヲ添付スルコト

二 入庫傳票ヲ交付シタル貨物ニ在リテハ出庫請求書ヲ提出スルコト

貨物ニ對シ擔保權ヲ有スル者ト省トノ間ニ特約アル場合ニ於ケル貨物ノ一部引渡方ニ付テハ當該約定ニ依ル

補則一 保管期間滿了セムトスルトキハ滿期日ノ少クトモ十日前ニ寄託者ニ對シ其ノ旨ヲ通知スベシ

滿期日ヲ經過スルモ何等ノ申出ナキトキハ更ニ少クトモ五日ノ期間ヲ定メテ出庫方ヲ催告スベシ

前二項ニ依リ通知又ハ催告ヲ發シタルトキハ出庫通告簿ニ相當記入シ置クベシ

通知又ハ催告ヲ書面ニテ爲ス場合ノ様式及出庫通告簿ノ様式ハ左ノ如シ

一 滿期通知書

（様式省略）

二 出庫催告書

（様式省略）

三 出庫通告簿

（様式省略）

補則二 貨物引渡ノ請求アルトキハ保管書、出庫請求書又ハ證券ヲ監査シ支障ナキコトヲ確メタル上之ニ應ズベシ

前項ノ請求ニ應ジタルトキハ料金及費用ヲ收受シタル上出庫傳票ヲ作成スベシ

貨物ヲ出庫セムトスルトキハ出庫傳票又ハ貨主ヨリ提出シタル出庫請求書ヲ係員間ノ作業連絡用トシテ使用スベシ

出庫傳票ノ丁片ハ貨主ヨリ料金領收證ノ請求アリタル場合之ヲ交付スベシ

出庫傳票ノ様式ハ左ノ如シ

（様式省略）

補則三 貨物ヲ引渡シタルトキハ出庫請求書、保管書、證券及原票ハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 出庫請求書ハ貨主ヲシテ相當記入捺印セシメ之ヲ受領ノ證トスルコト

二 全部ノ引渡ヲ終リタルトキハ保管書又ハ證券ハ貨主ヲシテ相當記入（保管書ニハ受領ノ旨）捺印セシメタル上之ヲ回收シ又原票ハ係員ニ於テ出庫傳票ノ目付及番號ヲ記入ノ上執レモ其ノ全面ニ「×」形ノ赤線ヲ劃シテ（證券ニハ驛長職印ヲ捺捺）捺消シ置クコト但シ貨物保管通帳ハ全部ノ使用ヲ終リタルトキ之ヲ回收スルコト

三 一部ノ引渡ヲ爲シタルトキハ保管書又ハ證券及原票ハ前號ノ例ニ依リ記入及捺印ノ上保管書又ハ證券ハ之ヲ貨主ニ還付スルコト但シ保管書ハ出庫請求書ニ依リ係員ニ於テ相當記入スルコト

補則四 補則三第三號ノ場合證券ヲ擔保ニ供シタルトキハ擔保權者ト省トノ間ニ特約アルトキニ限り其ノ發行ニ係ル貨物内渡請求書ヲ證券ニ準ジ取扱フベシ

内渡請求書記載ノ貨物中更ニ其ノ一部ヲ分割出庫ノ請求アルトキハ最初ニ出庫請求ノ際右請求書ヲ預リ置キ殘部ノ貨物ニ對

シテハ本條第一項第三號ノ例ニ依リ處理スベシ  
貨物内渡請求書ノ様式ハ左ノ如シ

(様式省略)

補則五 補則四ノ特約ハ鐵道局長ニ於テ適當ト認ムル金融業者ヲ選定シ之ヲ締結スベシ

補則六 貨物ノ滅失又ハ毀損ヲ事由トシテ其ノ現狀ニ付證明ノ請求アルトキハ引渡ノ際ニ限り證明書ヲ作成交付スベシ  
證明書ノ様式ハ左ノ如シ

(様式省略)

第二十四條 出庫請求書ノ記載事項及様式ハ左ノ通トシ寄託者ニ於テ記名ノ上豫メ届出デタル印鑑ヲ押捺スルモノトス

一 記載事項

- イ 貨物ノ種類、品質、數量及荷造ノ種類並ニ記號
- ロ 入庫番號、倉庫番號及入庫傳票、保管書又ハ證券番號
- ハ 在庫殘高又ハ證券面現在箇數
- ニ 請求書ノ作成年月日及寄託者住所氏名
- ホ 受領年月日及受取人住所氏名

二 様式

イ 出庫請求書(普通)

(様式省略)

ロ 出庫請求書(證券付)

(様式省略)

補則一 出庫請求書ニ押捺スル印鑑ハ豫メ印鑑届ヲ提出セシメ置クベシ

第二十五條 第二十三條第一項第一號ノ場合保管書又ハ證券ノ滅失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ提出シ難キトキハ左ニ掲グル區別ニ依リ貨主ニ於テ貨物受取書又ハ擔保物ヲ提供シ之ニ代フルコトヲ得

- 一 保管書ヲ發行シタルトキハ省ニ於テ適當ト認ムル保證人連署ノ貨物受取書ヲ提出スルコト
- 二 證券ヲ發行シタルトキハ公示催告申立後省ニ於テ相當ト認ムル擔保物ヲ提供スルコト

前項第二號ノ場合省ニ於テ收受シタル擔保物ハ除權判決確定後ニ非ザレバ之ヲ還付セズ  
貨物受取書ノ様式ハ左ノ通トス

(様式省略)

補則一 本條第一項ノ場合保證人及擔保物ノ適否ハ驛長ニ於テ之ヲ認定スベシ

前項ノ規定ニ依ルノ外擔保物ニ依リ引渡ヲ爲ス場合ノ取扱方ニ付テハ鐵道運輸規程第百條ニ於ケル擔保取扱手續ノ例ニ依ルベシ

第二十六條 契約終了後貨主ニ於テ遲滞ナク貨物ノ引取ヲ爲サザルトキハ必要ニ應ジ商法第三百八十一條ニ依ル處分其ノ他機宜ノ處置ヲ爲スコトアルベシ

前項ノ場合因リテ生ジタル損害及特ニ要シタル費用ハ省ノ責ニ歸スベキ事由ニ因ルモノヲ除キ貨主ノ負擔トス

補則一 左ニ掲グル場合ハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

- 一 引渡ニ關シ争アルトキ
- 二 貨主ニ於テ受取ヲ拒絶シタルトキ
- 三 出庫催告後指定ノ期限ヲ經過スルモ何等ノ申出ナキトキ
- 四 公ノ處分其ノ他ノ事由ニ因リ引渡不能ナルトキ

第二十七條 受託手續未済ノ貨物又ハ引渡済ノ貨物ヲ貨主ガ自己ノ責任ニ於テ構内ニ留置セムトスルトキハ省ノ承諾ヲ受クベキモノトス

補則一 受託前又ハ引渡済ノ貨物ヲ構内ニ留置ノ請求アルトキハ支障無キ限り之ニ應ズベシ

前項ニ依リ請求ニ應ジタル場合必要ト認ムルトキハ相當期間ヲ定メテ搬出方ヲ催告スベシ

#### 第四節 火災保險

第二十八條 寄託ヲ受ケタル貨物ハ貨主ノ爲ニ於テ適當ト認ムル保險者ノ火災保險ニ附ス但シ寄託者ガ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

貨物ヲ保險ニ付シタル場合ハ保險ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ省ト保險者トノ間ニ於ケル約定ニ依ル

補則一 火災保險價額ニ異動ヲ生ズベキ貨物ノ入庫又ハ出庫ニ付テハ一日分ヲ取纏メ(午後四時締切)火災保險臺帳ニ相當記入スベシ

火災保險臺帳ノ様式ハ左ノ如シ

(様式省略)

補則二 火災保險契約ハ鐵道局長ニ於テ適當ト認ムル保險者ヲ選定シ之ヲ締結スベシ  
火災保險ノ申込ハ驛長ニ於テ毎日午後四時現在ノ保管貨物ヲ基礎トスル特約倉庫貨物火災保險申込書ニ依リ之ヲ爲スベシ  
特約倉庫貨物火災保險申込書ノ様式ハ左ノ如シ

(様式省略)

補則三 火災保險ニ關スル事項ニ付テハ本規則及補則ニ依ルノ外省ト保險者トノ間ニ於ケル約定ニ依ルベシ

第二十九條 保險金額ハ寄託者申告ノ價格トス但シ第八條第二項ノ場合又ハ價格變更ノ請求ニ應ジタル場合ハ其ノ價格トス

一部出庫ノ請求ニ應ジタルトキハ保險金額モ亦其ノ割合ニ應ジ減少スルモノトス

補則一 保險金額ニ異動ヲ生ジタルトキハ必要ニ應ジ關係帳表ヲ訂正處理スベシ第三十條ニ依リ保險者ヲ變更シタルトキ亦同

ジ

第三十條 省ニ於テ必要ト認ムルトキハ貨主ニ通知セズシテ保險者ヲ變更スルコトアルベシ

第三十一條 貨主ガ保險契約ノ效力ニ關シ影響ヲ及ボスベキ事項ヲ通知セザルニ因リ生ジタル一切ノ損害ニ付テハ省ニ於テ其ノ責

ニ任ゼズ

補則一 貨物ノ火災事故ニ付テハ第二十條、同條補則ノ一及三ニ依リ處理スルノ外保險者ニ對シテハ遲滞ナク被害模様ヲ通知

スベシ

第三十二條 火災保險金ハ省ヲ經由シテ其ノ支拂ヲ爲スモノトス

### 第三章 著後寄託並ニ受寄物ノ運送

#### 第一節 著後寄託

第三十三條 鐵道ニ依ル貨物ノ荷送人ハ發驛ニ於テ貨物託送ノ際其ノ著驛到着後ノ倉庫寄託(以下著後寄託ト稱ス)ヲ申込ムコトヲ得

第三十四條 著後寄託ノ取扱範圍ハ左ノ通トス

一 申込ヲ受クル驛

東海道線

沙留、川崎、富士、濱松、梅小路、梅田、湊川、

名古屋港、小野濱、神戸港、西九條、櫻島

北陸線

虎姫、福井、金澤、伏木

中央線

中津川

山陽線

兵庫、和田

關西線

桑名、富田、四日市、湊町、四日市港、浪速、津、山田

東北線

宇都宮、岡本、寶積寺、氏家、小牛田、田尻、瀬峰、

二 貨物ノ保管ヲ爲ス驛

東海道線 笹島、梅田

東北線 秋葉原

三 取扱ヲ爲ス貨物ノ種類

イ 笹島驛保管ノモノ

綿絲、綿織物、紙及加工紙、米、砂糖、棉花(機械綿ノモノ)

ロ 梅田驛保管ノモノ

綿絲、綿織物、紙及加工紙、米

ハ 秋葉原驛保管ノモノ

綿絲、紙及加工紙、米

前項第三號ニ掲グル貨物ト雖モ貸切扱ニ非ザルモノ、代金引換ノ取扱ヲ請求スルモノ又ハ第五條ニ依リ寄託ヲ受ケザルモノハ著

新田、石越、一ノ關、前澤、水澤、花巻、北千住、龜

有、土浦、石岡小高、原ノ町、鹿島、高崎、下館、眞岡

奥羽線

新庄、眞室川、大曲

羽越線

新發田、羽前水澤、鶴岡、藤島、余目、砂越、本橋、

遊佐、象潟、羽後本莊、最上川

陸羽線

陸前古川、中新田、涌谷、前谷地、石巻

信越線

長岡、見附、三條、沼垂、西吉田

總武線

小名木川、佐原





前項ノ通知ヲ發シタルトキハ通知發送ノ時、其ノ宛先、貨物ノ發譯名、通知書又ハ引換證日付番號及積載貨車記號番號等ヲ原票ニ記入シ置クベシ  
貨物到着及入庫ノ通知ヲ書面ニテナス場合ノ様式ハ左ノ如シ  
(様式省略)

第三十九條 貨物入庫後荷受人、荷受人又ハ引換證所持人ガ通知書又ハ引換證ト保管書又ハ證券トノ引換ヲ請求セムトスルトキハ

第十七條第一項ノ例ニ依リ著譯ニ其ノ旨ヲ申出ヅベキモノトス價格ノ變更ヲ請求セムトスルトキ亦同ジ

補則一 本條ノ請求アリタルトキハ第十七條補則一ノ例ニ依リ處理スベシ

第四十條 著後寄託貨物ヲ入庫シタル後荷受人又ハ引換證所持人ニ於テ貨物ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅベキモノトス

- 一 引換證ヲ交付シタル貨物ニ在リテハ第二十三條第一項第一號及同第二項並ニ第二十五條ノ例ニ依ルコト
- 二 通知書ヲ交付シタル貨物ニ在リテハ第二十三條第一項第二號ノ例ニ依ルコト但シ豫メ印鑑ノ届出ナキ場合ハ荷受人ニ於テ省ノ發シタル到着及入庫通知ノ書面ヲ呈示スル等ノ方法ニ依リ正當權利者タルコトヲ證明シテ其ノ印鑑ニ依リ引渡ヲ請求スルコトヲ得

註 引換證ヲ呈示シテ貨物引渡ノ請求アルトキハ其ノ裏書ノ連續及署名捺印ノ眞偽等ヲ監査シ正當所持人タルコトヲ確認スベキモノトス著後寄託ノ取消、引換證ト證券又ハ保管書トノ引換ノ請求アルトキ等亦同ジ

補則一 引換證ニ對シテ著譯長職印ヲ押捺スベキ場合ハ時宜ニ依リ其ノ略印ヲ使用スルコトヲ得

#### 第一節 受寄物ノ運送

第四十一條 貨主ハ貨物ノ出庫請求ト共ニ其ノ鐵道ニ依ル運送(貨切扱ニ限ル)ヲ申込ムコトヲ得

前項ノ申込ニ應ジタルトキハ省ニ於テ其ノ貨物ノ貨車積込ヲ爲スモノトス

貨物ノ運賃及料金ハ別段ノ定アル場合ヲ除キ第一項ノ申込ニ應ジタル際之ヲ收受ス

註 受寄物ノ運送ヲ引受ケ出庫シタルトキハ其ノ運送ニ關シテハ別段ノ定アル場合ノ外貨物運送規則其ノ他運送ニ關スル規定ニ依ルモノトス

補則一 受寄物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ貨物運送狀並ニ新ニ發行スベキ通知書及引換證記事欄ニハ受寄物運送ノ旨、原票ニ

ハ該通知書又ハ引換證日付番號及貨車記號番號ヲ記入スベシ

補則二 受寄物運送貨物ノ貨車施封ハ省ニ於テ之ヲ爲スベシ

### 第四章 倉庫ノ賃貸

第四十二條 倉庫ハ貨物保管ノ用ニ供スルモノトス但シ左ニ掲グル貨物ハ之ヲ收容スルコトヲ得ズ

一 貨物運送規則所定ノ危険品及汚穢品並ニ硝酸鹽類、スピリットワニス、セルロイド、ザイロナイト、過酸化マグネシア、亞

硝酸ソーダ、過酸化水素水ニシテ過酸化化物ノ含有量百分ノ四十ヲ超ユルモノ、活動寫眞用フィルムニシテ罐入ニ非ザルモノ

油類ニシテ攝氏六十六度以下ニ於テ可燃性瓦斯ヲ發散スルモノ及上記品目ト危險程度類似ノモノ

二 液汁ノ漏出、臭氣ノ發散等ニ因リ他ニ損害ヲ及ボス虞アルモノ

前項ニ掲グル以外ノ貨物ト雖モ省ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ガ收容ニ付制限ヲ附スルコトアルベシ

第五條第二項ノ規定ハ倉庫ノ賃貸ニ之ヲ準用ス

補則一 本條第二項ノ制限ハ必要ニ應ジ鐵道局長ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四十三條 賃借人ハ倉庫賃借申込書ヲ提出スルモノトス

倉庫賃借申込書ノ記載事項及様式ハ左ノ通トシ賃借人ニ於テ記名捺印スルモノトス

一 記載事項

イ 賃借人ノ住所及氏名

ロ 賃借スベキ倉庫及其ノ面積

ハ 收容スベキ貨物ノ種類

ニ 賃借期間

ホ 特殊ノ施設事項其ノ他ノ特約條件

二 様式

(様式省略)

第四十四條 省ガ賃借ノ申込ヲ承諾シタルトキハ倉庫賃借契約書ニ通テ作成シ賃借人及鐵道局長又ハ其ノ指定シタル者ニ於テ記名捺印ノ上各一通ヲ所持スルモノトス

補則一 倉庫賃借契約書ノ文案ハ左ノ如シ

(文案省略)

補則二 倉庫ヲ貸貸シタルトキハ倉庫貸貸原簿ニ相當記入スベシ  
倉庫貸貸原簿ノ様式ハ左ノ如シ

(様式省略)

第四十五條 貸借ノ期間ハ其ノ都度契約ニ依リ之ヲ定ム但シ其ノ長期ヲ一箇年トス

貸借期間經過後引續キ倉庫ヲ賃借セムトスルトキハ賃借人ニ於テ期間満了前契約書ヲ呈示シ契約更新又ハ期間延長ノ手續ヲ爲  
スモノトス但シ省ニ於テ支障アルトキハ之ニ應ゼザルコトアルベシ

補則一 賃借ノ期間満了セムトスルトキ及満期日ヲ經過スルモ何等ノ申出ナキトキハ第二十三條補則一ノ例ニ依リ賃借人ニ  
對シ適宜ノ方法ニ依リ通知及催告ヲ爲シタル上倉庫貸貸原簿ニ其ノ旨ヲ記入スベシ

補則二 本條第二項ノ場合ハ第十八條補則一ノ例ニ依リ處理スベシ

第四十六條 左ニ掲グル場合ハ契約ノ期間内ト雖モ時宜ニ依リ解約スルコトアルベシ但シ第四號ノ場合ハ一箇月前ニ其ノ旨ヲ豫告  
ス

一 賃借人ガ本規則其ノ他契約上ノ義務ニ違反シタルトキ

二 貨物ノ品種、性質等ニ因リ他ニ損害ヲ及ボシ又ハ其ノ虞アルトキ

三 天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ支障アルトキ

四 省ニ於テ業務上必要ト認ムルトキ

前項ニ依リ解約シタルトキハ因リテ生ジタル損害ニ付賃借人ニ於テ其ノ責任ズルモノトス  
賃借人ハ契約期間内何時ニテモ解約スルコトヲ得

補則一 本條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル事由ニ因リ解約セムトスルトキハ收容貨物ノ種類、品質、數量、支障ノ程度、  
賃借人ノ住所等ノ關係ヲ考ヘ驛長ニ於テ相當ト認ムル期間ヲ定メテ賃借人ニ豫告シタル上其ノ手續ヲ爲スベシ

補則二 本條第二項ニ依リ賃借人ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ要スルモノト認ムルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

第四十七條 倉庫ヲ賃貸シタルトキハ賃借人ニ對シ倉庫ノ鍵ヲ交付ス

補則一 倉庫ノ鍵ハ倉庫賃借契約書ニ調印ヲ終リタル後賃借人ニ之ヲ交付シ契約終了ノ際還付セシムベシ  
鍵ヲ受授スルトキハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ事實ヲ明カニシ置クベシ

第四十八條 賃貸倉庫ニ收容シタル貨物ハ省ニ於テ保管ノ責任ズ

補則一 收容貨物ノ保管ニ付テハ省ニ於テ其ノ責任ズルモ之ガ損害ニ對シテハ相當ノ防護方法ヲ講ジ且損害ヲ生ジ又ハ生  
ズル虞アルトキハ第二十條補則一ノ例ニ依リ處理スベシ

第四十九條 賃借人ハ省ノ指示ニ從ヒ自己ノ負擔ニ於テ賃借倉庫ノ區劃ニ必要ナル施設ヲ爲スモノトス

第五十條 賃借人ハ倉庫内ニ於テ他ノ貨物又ハ倉庫ニ損害ヲ及ボス虞アル一切ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ズ

賃借人ハ第三條所定ノ時間外ニ在リテハ省ノ承諾ヲ受ケズシテ倉庫ニ出入スルコトヲ得ズ

省ハ契約期間内何時ニテモ倉庫ニ立入り之ガ保存又ハ改良ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

補則一 賃借人ヨリ第三條所定ノ時間外ニ倉庫内ニ出入シタキ旨ノ申出アルトキハ支障ナキ限り之ニ應ズベシ

第五十一條 賃借人ハ其ノ賃借シタル倉庫ヲ他ノ目的若ハ倉庫營業ノ用ニ供シ又ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ズ

第五十二條 契約終了ノ場合ハ賃借人ニ於テ遲滞ナク貨物ヲ引取ヲ爲シ倉庫ヲ原狀ニ復スベキモノトス

前項ノ規定ニ反スルトキハ第二十六條第一項ノ例ニ依リ貨物ヲ處分シ又ハ省ニ於テ倉庫ヲ原狀ニ復シタル上其ノ費用ヲ請求スル  
コトアルベシ

補則一 本條第二項ニ依リ處理セムトスルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

第五十三條 賃借人ガ契約上ノ義務ニ違反シ又ハ收容貨物ノ性質、瑕疵等ニ因リ他ニ損害ヲ及ボシタルトキハ賃借人ニ於テ之ガ賠  
償ノ責任ズルモノトス

### 第五章 料金及費用

第五十四條 貨物ノ寄託又ハ倉庫ノ賃貸ニ關シテハ左ニ掲グル料金ヲ收受ス

- 一 倉敷料 寄託貨物ノ保管ニ對スル料金
- 二 入庫料及出庫料 第十二條ニ依リ寄託貨物ヲ省ニ於テ倉庫ニ搬入又ハ搬出スル場合收受スル料金
- 三 證券手数料 第十七條第一項及第二項ニ依リ證券ノ名義變更、書換、分割又ハ再交付ノ請求ニ應ジタル場合收受スル料金
- 四 貨物留置料 第二十七條ニ依リ貨主ノ責任ニ於テ貨物ヲ構内ニ留置スル場合收受スル料金
- 五 遲滞料 左ニ掲グル場合收受スル料金
  - イ 第十一條ニ依リ受託ヲ拒絶又ハ契約ヲ解除シタル場合貨物ノ引取ヲ爲サザルトキ

- ロ 第二十六條第一項ノ場合ハ契約終了シタル貨物ノ引取ヲ爲サザル場合
- ハ 第二十七條ニ依リ構内ニ留置シタル貨物ノ搬出方ヲ催告スルモ引取ヲ爲サザル場合
- ニ 第五十二條第一項ニ依リ倉庫ヲ原狀ニ復セザル場合
- 六 著後寄託貨物入庫料 第三十八條第一項ニ依リ省ニ於テ貨物ノ貨車取卸及入庫ヲ爲ス場合收受スル料金
- 七 受寄物運送貨物出庫料 第四十一條第二項ニ依リ省ニ於テ貨物ノ出庫及貨車積込ヲ爲ス場合收受スル料金
- 八 著後寄託取消手数料 第三十七條第一項及第二項ニ依リ著後寄託ノ取消ノ請求ニ應ジタル場合(天災事變其ノ他貨主ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ取消ノ請求ニ應ジタル場合ヲ除ク)收受スル料金
- 九 貨庫料 倉庫賃貸ニ對スル料金

第五十五條 料金率ハ別表倉庫料金表ニ之ヲ掲ゲ

庫移シ、仕譯、排直シ其ノ他ノ爲特ニ要シタル費用ハ其ノ實費ヲ收受ス

註一 貨物運送規則第六條所定ノ貨物ヲ著後寄託シタルトキハ實重量及箇數ニ依リ其ノ倉庫料金及費用ヲ計算スルモノトス

此ノ場合引換證、通知書其ノ他ノ帳表ニハ實重量及箇數ヲ記載スルノ外括弧ヲ以テ標準重量及箇數ヲ附記スルモノトス

註二 省ノ都合ニ依リ庫移シ、排直シ等ヲ爲シタル爲要シタル費用ハ之ヲ收受セザルモノトス

第五十六條 倉敷料割合ハ料金計算單位毎ニ從價率ト從價率トニ依リ各別ニ算出シ之ヲ併算シタルモノ(一箇月分又ハ一期分)トス

一口中ニ料金率ノ異ナル貨物ヲ混ジタルトキハ其ノ全部ニ對シ最高ノ料金率ヲ適用ス

第五十七條 倉敷料又ハ貨庫料ハ一箇月ヲ一日ヨリ十日迄、十一日ヨリ二十日迄及二十一日ヨリ末日迄ノ三期ニ區分計算シ保管期間又ハ貸貨期間ガ一期ニ滿タザルトキト雖モ一期分ヲ收受ス

保管期間又ハ貸貨期間ガ二期以上ニ跨ル場合ハ料金割合ニ期數ヲ乘ジタルモノヲ以テ其ノ料金をトス但シ秋葉原驛ニ於テハ料金割合ニ期數ヲ乘ジ之ヲ三分シタルモノヲ以テ其ノ料金をトス

契約更新ノ請求ニ應ジタル場合爾後ノ料金ノ其ノ請求ニ應ジタル日ノ屬スル次ノ期ヨリ之ヲ起算ス

第五十八條 倉敷料、貨物留置料及運送料ハ特ニ定ムル場合ヲ除キ貨物搬出ノ際之ヲ收受ス但シ倉敷料ハ時宜ニ依リ貨物搬出前相當期間毎ニ分割收受スルコトアルベシ

入庫料、出庫料、證券手数料及特ニ要シタル費用ハ其ノ都度之ヲ收受ス但シ著後寄託貨物入庫料又ハ受寄物運送貨物出庫料ハ其

ノ申込ニ應ジタル際荷造人ヨリ之ヲ收受ス

著後寄託ノ追付ノ請求ニ應ジタルトキハ著後寄託貨物入庫料ヲ、又取消ノ請求ニ應ジタルトキハ著後寄託取消手数料ト著後寄託貨物入庫料トノ差額ヲ追徴又ハ拂戻スモノトス

第三十八條第二項ニ依リ倉庫保管ヲ拒絕シタルトキハ著後寄託取消手数料ヲ收受セズ又既收ノ著後寄託貨物入庫料ト既ニ要シタル貨費トノ差額ヲ追徴又ハ拂戻スモノトス

貨庫料ハ契約締結ノ際其ノ全額ヲ收受ス但シ時宜ニ依リ三箇月毎ニ分割收受(前拂)スルコトアルベシ

契約更新ノ請求アル場合ノ倉敷料及貨庫料ノ收受方ニ付テハ其ノ請求ニ應ジタル時ヲ以テ貨物搬出又ハ契約締結ノ時ト看做ス

補則一 料金又ハ費用ハ左ニ掲グル區別ニ依リ入庫傳票、出庫傳票、通知書又ハ倉庫料金切符ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スベシ

一 倉敷料ニシテ貨物搬出ノ際收受スルモノ、出庫料及受寄物運送貨物出庫料ハ出庫傳票ニ依ルコト

二 入庫料ハ入庫傳票ニ依ルコト

三 著後寄託貨物入庫料ハ通知書ニ依ルコト

四 前三號ニ掲グル以外ノ料金及費用ハ倉庫料金切符ニ依ルコト

倉庫料金切符ノ様式左ノ如シ

(様式省略)

補則二 倉敷料金切符ヲ料金領收證トシテ發行スル場合ハ記事欄ニ「料金領收用」ト附記ノ上其ノ甲片ヲ交付シ丙片ハ其ノ全面ニ「×」形ヲ劃シテ抹消シ置クベシ

補則三 料金又ハ費用收受ノ手續ヲ爲シタル後其ノ訂正ヲ要スルトキハ倉庫料金訂正通知書ヲ發行處理スベシ

倉庫料金訂正通知書ノ様式ハ左ノ如シ

(様式省略)

補則四 倉敷料若ハ貨庫料ヲ分割收受セムトスルトキ又ハ料金豫納若ハ後拂ノ請求アルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ

註 小切手其ノ他ノ證券ニ依ル倉庫料金ノ納付方ニ付テハ證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル關係規定參照

補則五 證券ノ讓渡アリタル場合讓渡人ニ於テ既ニ要シタル倉敷料ノ支拂アリタルトキハ之ヲ收受シ其ノ旨ヲ證券ノ記事欄ニ記入シ置クベシ

第五十九條 倉庫賃貸借ノ期間滿了前契約終了ノ場合既收料金が契約終了ニ至ル迄ノ料金ヨリ多額ナルトキハ其ノ差額ノ拂戻ヲ爲



第六十條 料金割合ヲ決定スル場合厘位未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ毛位四捨五入スルモノトス  
 料金又ハ費用計算ノ結果錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ各種別ニ依リ一件毎ニ最後ニ之ヲ切捨ツ但シ一件ノ金額ガ五錢ニ滿タザル場合ハ之ヲ五錢ニ切上ゲ

附 則

本規則ハ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 本補則ハ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 (別表倉庫料金表省略)

鐵道營業用度衡器取扱規程

昭二二、一〇  
 達二二、二八

第一章 總 則

第一條 鐵道營業用度衡器ノ取扱ニ關シテハ法令ニ依ル外本規程ニ依ル

註一 法令トハ度量衡法、同施行令、同施行細則等ヲ謂フ

第二條 鐵道營業用度衡器(以下度衡器ト稱ス)トハ鐵道省ニ於テ運輸營業又ハ倉庫營業ニ使用スル度器及衡器ヲ謂フ

註一 本條ノ度衡器ニハ業務委託驛ニ於テ使用スル度衡器ヲ含ム

第三條 度衡器ノ種類ハ左ノ通トス

種 類	名 稱	形 式	全 長	最 小 目 盛
直 尺	竹 尺	第 一 號	一 米	一 厘
同	大 曲 尺	第 一 號	二 米	一 厘
同	同	第 二 號	三 米	一 厘
卷 尺	同	第 一 號	五 米	一 厘
同	同	第 二 號	二〇 米	一 厘

二 衡器

種類	名稱	形式	秤量	最小目盛	桿拂	附屬增錘	額盤又ハ働長額盤(耗)
同	臺秤	第一號	三〇〇斤	一斤	五〇斤	一〇〇斤	六四〇×四三〇
同	同	第二號	五〇〇斤	一斤	五〇斤	一〇〇斤	六四五×四二〇
同	同	第三號	一、〇〇〇斤	一斤	五〇斤	一〇〇斤	一、〇四〇×八二〇
同	同	第四號	二、〇〇〇斤	一斤	一〇〇斤	三〇〇斤	一、一〇〇×一、一〇〇
同	同	第五號	三、〇〇〇斤	一斤	一〇〇斤	三〇〇斤	一、一〇〇×一、一〇〇
同	自動臺秤	第一號	一五〇斤	一斤		二個	六四五×四三〇
同	同	第二號	五〇〇斤	一斤		三個	八三五×六五〇
同	同	第三號	一、〇〇〇斤	一斤		三個	一、一〇〇×一、一〇〇
同	同	第四號	二、〇〇〇斤	一斤		三個	一、一〇〇×一、一〇〇
同	橋秤	第一號	三〇〇斤	五〇斤			働長(耗) 六、五〇〇
同	橋秤	第二號	五〇〇斤	五〇斤			八、〇〇〇

第四條 度衡器ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 檢定證印、記號其ノ他表記ノ文字又ハ目盛ノ正確ニ識別シ得ルモノ
- 二 使用公差ヲ超ユル差狂ナキモノ
- 三 要部ノ毀損、磨滅又ハ腐蝕シ居ラザルモノ
- 四 分離シ得ベキ部分ガ檢定ヲ受ケタルトキト異リタルモノヲ以テ組成シ又ハ檢定ヲ受ケタルトキ固定シアリタル部分ヲ變更シ居ラザルモノ
- 五 度器ニシテ甚シキ曲リ又ハ歪ミナキモノ
- 六 度器ニシテ端目盛ノモノニ在リテハ其ノ端ニ於ケル角ガ最小目盛ノ一度目以上磨滅シ又ハ端目盛ニ非ザルモノニ在リテハ最端目盛ヲ超ユル迄磨滅シ居ラザルモノ
- 七 度器ニシテ目盛アル部分ガ缺損シ又ハ甚シク割レ居ラザルモノ
- 八 卷尺ニ在リテハ目盛アル部分ガ切斷ノ虞ナキモノ
- 九 大曲ニ在リテハ其ノ角度ニ著シキ差ヲ生ジ又ハ副枝ニ甚シキ緩ヲ生ジ居ラザルモノ

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
第三號	第四號	第一號	第二號	第三號	第四號	第四號	第三號	第二號	第一號
三〇〇斤	五〇〇斤	三〇〇斤	五〇〇斤	三〇〇斤	五〇〇斤	三〇〇斤	五〇〇斤	三〇〇斤	五〇〇斤
五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤	五〇斤
五、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	八、〇〇〇	五、五〇〇	六、五〇〇	三、〇〇〇以下			

- 十 秤ニシテ又、双受、吊軸、双蓋又ハ桿ニ於ケル金具ガ離脱シ又ハ移動シ居ラザルモノ
  - 十一 秤ニシテ調子玉又ハ直點若ハ標點ヲ調整スル装置ノ遊動スルコトナク其ノ作用完全ナルモノ
  - 十二 秤ニシテ水平装置アルモノニ在リテハ其ノ裝置完全ナルモノ
  - 十三 臺秤ニ在リテハ臺ト増錘トニ表記シアル「大」「中」「小」ノ文字ガ符合シ居ルモノ
  - 十四 増錘ノ毀損、磨滅又ハ腐蝕シ居ラザルモノ
  - 十五 其ノ他計量ニ支障ヲ及ボス缺陷ナキモノ
- 第五條 前條ニ適合セザル度衡器ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ使用シ又ハ使用スル場所ニ存置スベカラズ但シ直ニ撤去困難ナルモノニ在リテハ設置箇所附近見易キ箇所ニ使用停止ノ旨ヲ揭示スベシ
- 第六條 驛長（業務委託驛管理驛ノ驛長及自動車線ニ在リテハ驛務掛又ハ業務委託驛管理驛ノ驛長若ハ驛務掛ヲ含ム以下同ジ）ハ度衡器ノ使用竝ニ保守等其ノ取扱ニ注意スベシ
- 第七條 度衡器ハ正當ノ手續ニ依ル外修覆行爲ヲ爲スベカラズ
- 第八條 鐵道局ニハ度衡器管理員（以下管理員ト稱ス）、運輸事務所（鐵道局出張所ヲ含ム以下同ジ）ニハ度衡器検査員（以下検査員ト稱ス）ヲ置クベシ
- 管理員ノ資格ハ別ニ之ヲ定ム
- 第九條 管理員ハ鐵道局管内度衡器ノ取締ニ任ズル外検査員、驛長其ノ他度衡器使用者ノ指導教養ニ努ムベシ  
検査員ハ管理員ノ指揮ヲ受ケ運輸事務所管内度衡器ノ取締ニ任ズル外驛長其ノ他度衡器使用者ノ指導教養ニ努ムベシ

## 第二章 使用竝ニ保守

- 第十條 度器ハ適當ナル場所ニ保管シ乾燥セル布類ヲ以テ常ニ清掃シ置クベシ
- 第十一條 臺秤ハ日光ノ直射又ハ雨露ヲ受ケザル一定ノ場所ニシテ堅固ナル基礎上ニ水平ニ据付クベシ但シ已ムヲ得ザル場合ハ水平器ヲ有スルモノニ限り他ノ場所ニ移動シ使用スルコトヲ得
- 第十二條 臺秤ノ使用ニ當リテハ左ノ各號ニ注意スベシ
- 一 使用ニ先テ水平状態ヲ確認シ直點又ハ標點ヲ調整スルコト
  - 二 計量スベキ荷物ハ機械ニ激動ヲ與ヘザル様靜ニ額盤ノ中央ニ置クコト
  - 三 長大ナル荷物ヲ計量スル場合ハ其ノ重量ヲ額盤上ニ平均セシムル様積載スルコト
  - 四 重量大ナル荷物ノ積卸ハ機械ヲ休状態ト爲シタル後之ヲ行フコト但シ自働臺秤ニ於ケル針休ハ使用セザルモノトス
- 註一 水平状態トハ水平器ノ懸垂棒ガ睨圓ノ中央ニ靜止シ且臺ニ動搖ナキコトヲ謂フ
- 註二 直點又ハ標點ノ調整トハ臺秤ニ在リテハ送錘ヲ直點ニ置キ桿ニ微振ヲ與フルトキ桿ガ上下ニ振動シタル後睨窓ノ中心ニ靜止スル様、自働臺秤ニ在リテハ額板ニ衝動ヲ與フルトキ指針ガ標點ノ左右ニ振動シタル後標點ニ於テ靜止スル様調子玉ニテ整正スルコトヲ謂フ
- 註三 休状態トハ休裝置ヲ有スルモノニ在リテハ休裝置ヲ使用シ休裝置ナキモノニ在リテハ桿休等ヲ以テ秤量機能ヲ停止セシメタル状態ヲ謂フ
- 第十三條 橋秤ハ前條ニ準ズル外左ノ各號ニ注意スベシ
- 一 衡橋上ニハ車輛ヲ留置セザルコト
  - 二 車輛ヲ通過セシムル場合ハ必ず固定線ニ依ルコト但シ固定線ナキモノハ休状態ヲ確認シタル後通過セシムルモノトス
  - 三 衡橋上ニ於テハ車輛ノ連結又ハ荷物ノ積卸等ニ依リ機械ニ激動ヲ與ヘザルコト

第十四條 秤ヲ使用セザルトキハ之ヲ休状態ニ爲シ置クベシ

第十五條 臺秤ヲ移動スル場合ハ機械ヲ休状態ト爲シ傾斜又ハ激動ヲ與ヘザル様注意スベシ

第十六條 度衡器ヲ運搬スル場合ハ各部ノ移動、脫落又ハ損傷セザル様完全ニ荷造シ之ヲ取扱ニ注意スベシ

第十七條 臺秤ハ左ノ各號ニ依リ清掃注油スベシ

- 一 秤ノ外部ハ毎日一回布類ヲ以テ清掃シ又ハ又受等ノ要部ハ潤滑油第三種ヲ浸シタル布類ヲ以テ清掃スルコト
- 二 秤ノ内部(自働臺秤ノ太鼓内部ヲ除ク)ハ毎月三回以上期日ヲ定メ清掃シ要部ハ潤滑油第三種ヲ浸シタル布類ヲ以テ清掃スルコト

三 食鹽、魚介其ノ他液汁性又ハ腐蝕性等ノ荷物ヲ計量シタル場合ハ其ノ都度前各號ニ準ジ秤ノ内外各部ヲ清掃スルコト

四 自働部緩衝油ハ潤滑油第一種ヲ使用シ缺乏セザル様常ニ注意スルコト

第十八條 橋秤ハ前條ニ準ズル外左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 常ニ地下坑内ノ排水ニ努ムルコト
  - 二 地下坑内ノ掃除ハ毎年四回以上之ヲ行フコト
  - 三 接続スル軌條ノ遊間ハ五耗乃至十四耗ニ、又軌條端ノ高低ハ五耗以内、左右ノ喰違ハ五耗以内ニ保タシムルコト
  - 四 電動体装置ヲ有スルモノハ機械部分ニグリース又ハ潤滑油第三種ヲ注油スルコト
- 前項第二號及第三號ノ場合ハ保線區長之ヲ爲スベシ

### 第三章 檢 査

第十九條 度衡器ニ對シテハ左ノ檢査ヲ行フベシ

#### 一 度 器 及 臺 秤

(一) 管理檢査 管理員ノ行フ檢査ニシテ一年一回以上トス

(二) 定期檢査 檢査員ノ行フ檢査ニシテ一年一回以上トス

#### 二 橋 秤

(一) 管理檢査 鐵道局長ノ指定スル工場長及保線事務所長(鐵道局出張所長ヲ含ム)ノ行フ檢査ニシテ一年一回以上トス

(二) 定期檢査 檢査員ノ行フ檢査ニシテ一年一回以上トス

前項橋秤ノ管理檢査ニ於ケル保線事務所長ノ行フ檢査ハ第二十三條第一項第一號及第二號中外廻リ檢査トシ工場長ノ行フ檢査ハ其ノ他ノ檢査トス

第二十條 前條ノ檢査ニハ驛長之ニ立會フベシ

度器及臺秤ノ檢査ニハ必要ニ應ジ物品會計官吏之ニ立會フベシ

橋秤ノ管理檢査ニハ管理員並ニ電力設備アルモノニ對シテハ電力事務所長(電力事務所ナキ場合ハ運輸事務所長)之ニ立會フベシ

橋秤ノ定期檢査ニハ保線區長並ニ必要ニ應ジ工場長ノ指定スル工場員之ニ立會フベシ

第二十一條 度器ノ檢査ハ第四條ニ依リ其ノ完否ヲ確認スベシ

第二十二條 臺秤ノ管理檢査及定期檢査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フベシ

#### 一 臺 秤

(一) 据付檢査 据付状態ヲ檢査スルコト

- (二) 調整検査 整正ノ状態ヲ検査スルコト
- (三) 部分検査 左ノ各部ヲ點檢スルコト
  - イ 車輪、車軸、臺
  - ロ 額板、額盤、桿、桿押金、桿掛グボ
  - ハ 茄子環、茄子環吊軸、短體又ハ長體ノ双及双受、蛇目環、蛇目双及双受、機械鼻
  - ニ 吊棒、水平器、堅筒
  - ホ 桿及送錘、桿ノ双及双受、桿ノ吊環(支點、重點又ハ力點)、調子玉
  - ヘ 腕窓、桿休、増錘臺、笠板、休裝置、定量増錘
- (四) 作用検査
  - イ 桿拂ノ検査 送錘ヲ桿拂ニ懸ケ其ノ目盛ニ相當スル分銅ヲ額盤ノ中央ニ載セ小分銅ノ加減ニ依リ検査ス此ノ場合ニ於ケル差狂ハ秤量ノ使用公差ノ二分ノ一ヲ超エザルコト
  - ロ 秤量ノ五分ノ一迄ノ検査 秤量ノ五分ノ一ニ達スル迄途中數箇所ノ各掛量ニ付検査ス此ノ場合ニ於ケル差狂ハ秤量ノ使用公差ノ二分ノ一ヲ超エザルコト
  - ハ 四隅ノ検査 秤量ノ五分ノ一ノ重量ニ相當スル分銅ヲ額盤ノ四隅ニ於ケル重點ノ上ニ順次轉載シ一隅毎ニ検査ス此ノ場合ニ於ケル差狂ハ秤量ノ使用公差ヲ超エザルコト
  - ニ 搾リノ検査 秤量ノ五分ノ一ノ重量ニ相當スル分銅ヲ額盤ノ中央ニ載セ桿ヲ前後左右ニ動カシ額盤ヲ前後ニ突キ左右ニ振り検査ス此ノ場合秤量ノ使用公差ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト
  - ホ 秤量ノ五分ノ一ヲ超ユル検査 秤量ノ五分ノ一ヲ超ユル秤量ニ達スル迄途中數箇所ニ於テ増錘ハ一箇毎ニ少量ノモノヨリ順次大量ノモノニ及ボシ且増錘各箇ヲ交換シ各掛量ニ付検査ス此ノ場合ニ於ケル差狂ハ秤量

- ノ使用公差ヲ超エザルコト但シ秤量ノ大ナルモノニ在リテハ其ノ掛量ヲ六百疋迄ト爲スコトヲ得
- ヘ 感量ノ検査 秤量ニ於テ桿ヲ鈞合セタル後秤量ノ使用公差ニ相當スル分銅ヲ靜ニ加減シ検査ス此ノ場合腕窓ニ於テ桿方鈞合ノ位置ヨリ二耗以上又ハ下ニ靜止スルコト但シ秤量ノ大ナルモノニ在リテハ其ノ掛量ヲ六百疋迄ト爲スコトヲ得
- ト 休裝置ノ検査 休裝置付ノモノニ在リテハ秤量ニ相當スル分銅ヲ額盤ノ中央ニ載セ把手ヲ數回上下左右ニ動搖シ検査ス此ノ場合秤量ノ使用公差ノ二分ノ三ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト但シ秤量ノ大ナルモノニ在リテハ其ノ掛量ヲ六百疋迄ト爲スコトヲ得
- チ 戻直點ノ検査 前各號ノ検査ヲ爲シタル後各分銅ヲ取卸シ検査ス此ノ場合直點ニ秤量ノ使用公差ノ二分ノ一ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト
- 二 自働臺秤
  - 前號ニ準ズルノ外左ノ作用検査ヲ行フコト但シ目盛ノ検査ハ前號(四)ノイ、ロ及ホノ検査ニ、又標點ノ検査ハ同チノ検査ニ代ヘ之ヲ行フモノトス
  - イ 目盛ノ検査 最小目盛ヨリ秤量ニ更ニ秤量ヨリ最小目盛ニ至ル途中數箇所ノ目盛ニ付検査ス此ノ場合往復各點ニ於テ秤量ノ使用公差ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト但シ秤量ノ大ナルモノニ在リテハ其ノ掛量ヲ六百疋迄ト爲スコトヲ得
  - ロ 感量ノ検査 秤量ニ於テ指針方靜止シタル後秤量ノ使用公差ニ相當スル分銅ヲ靜ニ加減シ検査ス此ノ場合指針方最小目盛ノ二分ノ一以上右又ハ左ニ移動シテ靜止スルコト但シ秤量ノ大ナルモノニ在リテハ其ノ掛量ヲ六百疋迄ト爲スコトヲ得
  - ハ 標點ノ検査 前各號ノ検査ヲ爲シタル後各分銅ヲ取卸シ検査ス此ノ場合標點ニ秤量ノ使用公差ノ二分ノ一ヲ

第二十三條 橋秤ノ管理検査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フベシ

一 橋秤

(一) 外廻リ検査 使用状態ノ儘左ノ各部ヲ點檢、清掃スルコト

イ 軌條、本線軌條ト秤軌條トノ間隙、軌條取付ボルト

□ 秤量上家

ハ 地下坑ノ龜裂其ノ他ノ變狀、排水状態

(二) 調整検査 前條臺秤ノ調整検査ニ準ズ

(三) 部分検査 左ノ各部ヲ點檢、清掃スルコト

イ 覆板、襷、襷掛、衡橋、標識

□ 積桿、積桿ノ双及双受、積桿ノ吊裝置(支點、重點又ハ力點)、機械鼻

ハ 支點臺

ニ 桿及送錘、桿ノ吊環(支點又ハ重點)、調子玉

ホ 睨窓、桿休、印字裝置

ヘ 休裝置、漸加重裝置

(四) 作用検査

イ 小桿盛止ノ検査 送錘ヲ盛止ニ懸ケ其ノ掛量ニ付検査ス此ノ場合ニ於ケル差狂ハ秤量ノ使用公差ノ二分ノ一ヲ超エザルコト

一ヲ超エザルコト

□ 秤量ノ五分ノ一迄ノ検査 秤量ノ五分ノ一ニ達スル迄途中一應毎ノ各掛量ニ付検査ス此ノ場合ニ於ケル差

超ユル差狂ヲ生ゼザルコト

狂ハ秤量ノ使用公差ノ二分ノ一ヲ超エザルコト

ハ 三點ノ検査 前條臺秤ノ四隅ノ検査ニ準ズ

ニ 搾リノ検査 秤量ノ五分ノ一ノ重量ニ相當スル分銅ヲ衡橋ノ中央ニ載セ桿ヲ前後左右ニ動カシ更ニ挺子ニ

ヨリ衡橋ヲ前後左右ニ動搖シ検査ス此ノ場合秤量ノ使用公差ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト

ホ 秤量ノ五分ノ一ヲ超ユル検査 秤量ノ五分ノ一ヲ超エ秤量ニ達スル迄途中一應毎ノ各掛量ニ付検査ス此ノ

場合ニ於ケル差狂ハ秤量ノ使用公差ヲ超エザルコト

ヘ 感量ノ検査 前條臺秤ノ感量ノ検査ニ準ズ

ト 休裝置ノ検査 休裝置付ノモノニ在リテハ秤量ニ相當スル分銅ヲ衡橋ノ中央ニ載セ數回休状態ヲ反覆シ檢

査ス此ノ場合秤量ノ使用公差ノ二分ノ三ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト

チ 戻直點ノ検査 前各號ノ検査ヲ爲シタル後各分銅ヲ取卸シ検査ス此ノ場合直點ニ於テ秤量ノ使用公差ノ二

分ノ一ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト

二 自働橋秤、小形橋秤

前號ニ準ズル外左ノ作用検査ヲ行フコト但シ目盛ノ検査ハ(四)ノイ、□及ホノ検査ニ、又標點ノ検査ハ同チノ検査

ニ代ヘ之ヲ行フモノトス

イ 目盛検査 標點ヨリ秤量ニ、更ニ秤量ヨリ標點ニ至ル途中一應毎ノ目盛ニ付検査ス此ノ場合往復各點ニ於テ

秤量ノ使用公差ヲ超ユル差狂ヲ生ゼザルコト

□ 感量ノ検査 前條自働臺秤ノ感量ノ検査ニ準ズ

ハ 標點ノ検査 前條自働臺秤ノ標點ノ検査ニ準ズ

橋秤ノ定期検査ハ前項ニ依ル外廻リ検査、調整検査及作用検査中ニ、ヘ、ト及チノ各検査ヲ行フベシ但シ作用検査

ハ適當ナル重量ニ於テ之ヲ行フ  
第二十四條 前二條ノ使用公差ハ左ノ通トス

種		類		種		類	
秤臺		秤臺		自動秤		自動秤	
秤量ノ二百分ノ一ヲ超ユル目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一ヲ超ユル目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一ヲ超ユル目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ
秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一・五	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ	秤量ノ二百分ノ一以下ノ目盛アルモノ

第四章 處理竝ニ報告

第二十五條 驛長不良ノ度衡器ヲ發見シタルトキハ直ニ使用ヲ停止シ其ノ旨運輸事務所長（鐵道局出張所長ヲ含ム以下同ジ）ニ報告シ其ノ指示ヲ俟ツベシ

註一 本條ノ報告ハ自動車線ニ在リテハ區長ヲ經由スルモノトス

第二十六條 運輸事務所長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ニ依リ處置ヲ爲スベシ

- 一 度器及臺秤ニ在リテハ速ニ補助其ノ他ノ措置ヲ爲シ修繕ヲ要スル場合ハ鐵道局長ノ定ムル所ニ依リ驛長ヲシテ受持工場長ニ其ノ修繕ヲ要求セシムルコト但シ自動車線業務委託驛ノ度衡器ノ修繕ニ在リテハ業務請負人ニ之ヲ要求セシムルモノトス
- 二 橋秤ニ在リテハ使用停止其ノ他ノ措置ヲ爲シ修繕ヲ要スル場合ハ驛長ヲシテ第十九條第二項ニ定ムル檢査範圍ニ依リ保線事務所長又ハ受持工場長ニ其ノ修繕ヲ要求セシムルコト
- 三 前號ノ修繕ヲ保線事務所長ニ要求シタルトキハ驛長ハ其ノ旨工場長ニ又其ノ修繕ヲ工場長ニ要求シタルトキハ

其ノ旨保線事務所長ニ報告スルモノトス

註一 本條第一號ノ場合特許ニ屬スル度器及臺秤ニ在リテハ一般物品修繕ノ例ニ依ル

第二十七條 橋秤ノ使用ヲ開始、停止又ハ廢止シタル場合鐵道局長ハ其ノ旨速ニ運輸局長ニ報告スベシ  
第二十八條 鐵道局長ハ毎年五月末日迄ニ前年度ニ於ケル度衡器ノ管理檢査成績ヲ別表第一號様式ニヨリ運輸局長ニ報告スベシ

第五章 整理

第二十九條 鐵道局長ハ度衡器ノ整理番號ヲ定メ之ニ別表第二號ノ記載例ニ依リ整理符號ヲ冠シ各度衡器ニ之ヲ標示スベシ

第三十條 鐵道局長ハ別表第三號乃至第五號様式竝ニ別表第二號ノ記載例ニ依リ度衡器ノ臺帳ヲ設ケ運輸事務所長竝ニ驛長ヲシテ其ノ副本ヲ保管セシムベシ

橋秤ノ臺帳ノ副本ハ前項ニ依ル外工務局長、工作局長、保線事務所長及受持工場長ニ送付スベシ  
第三十一條 鐵道局長ハ毎年五月末日迄ニ前年度末現在ニ於ケル度衡器ノ數量竝ニ前年度ニ於ケル修繕箇數及其ノ費額ヲ別表第六號様式ニ依リ運輸局長ニ報告スベシ

第六章 雜則

第三十二條 鐵道局長ハ度衡器（橋秤ヲ除ク）ニ對シ相當數量ノ豫備品ヲ備付クベシ  
第三十三條 鐵道局長ハ度衡器檢査用トシテ左記器具ヲ備付クベシ  
一 鐵道局及運輸事務所備付

- イ 鋼卷尺（二米、最小目盛一耗ノモノ）
- ロ 組分銅（一疋乃至五〇〇瓦組合セノモノ）
- ハ 鐵分銅
  - 一 疋
  - 二 疋
  - 五 疋
  - 一〇 疋
  - 二〇 疋

- ニ 水準器
- ホ 感量測定尺
- ヘ 不錆鋼定量増錘

- 五〇 疋
- 一〇〇 疋
- 二〇〇 疋

二 受持工場備付

- イ 組分銅（二瓦乃至五〇〇瓦組合セノモノ）
- ロ 鐵分銅
  - 一 疋
  - 二 疋
  - 五 疋
  - 一〇 疋
  - 二〇 疋

- 一〇 疋
- 五 疋
- 二〇 疋

- ハ 水準器
- ニ 感量測定尺
- ホ 不錆鋼定量増錘

- 五〇 疋
- 一〇〇 疋
- 二〇〇 疋

ヘ 天秤及標準分銅

ト マスタースケール（秤量三、〇〇〇疋感量二〇瓦ノモノ）

チ 檢重車

第三十四條 前條ノ檢査用分銅ハ左ノ各號ニ注意スベシ

- 一 錆ヲ生ゼザル様布類ヲ以テ常ニ清掃シ置タコト
- 二 各分銅ノ器差ヲ常ニ明カニ爲シ置タコト
- 三 組分銅ハ主トシテ公差又ハ感量ノ測定ニ使用スルコト
- 四 組分銅ハ必ズ容器ニ收納シテ携行スルコト

第三十五條 鐵道局長ハ第三十三條ノ檢査用分銅ニ對シ毎年一回工場備付ノ標準分銅ニ依リ比較檢査ヲ行フベシ

附 則

本規程ハ起重機等ノ機械ニ附屬セル衡器又ハ經理局被服工場、同木材防腐工場、鐵道病院、鐵道局工場、鐵道局經理部用品庫、同製材場、同用品試驗場及購買支部等ニ於テ使用スル度衡器ニ之ヲ準用スルコトヲ得



種別	要項	檢査總數	檢査合格數	不合格中歩合	不合格理由	檢査項目	檢査結果	
							合格	不合格
度	竹尺	1	1	1	1	1	1	1
器	大曲尺	1	1	1	1	1	1	1
器	卷尺	1	1	1	1	1	1	1
器	臺秤	1	1	1	1	1	1	1
衡	秤	1	1	1	1	1	1	1
器	自動臺秤	1	1	1	1	1	1	1
器	橋秤	1	1	1	1	1	1	1
器	小形橋秤	1	1	1	1	1	1	1

備考 用紙ハA列三番トス

記載例

整理符號	種類	名稱	機能	摘要
A-1	直尺	竹尺	形全最 小目盛	第三條竹尺形式第一號ノモノ
A-99			同上	同上形式以外ノモノ
B-1	直尺	大曲尺	形全最 小目盛	第三條大曲尺形式第一號ノモノ
B-2			同上	同上形式第二號ノモノ
B-99			同上	同上形式以外ノモノ
C-1	卷尺	卷尺	形全最 小目盛	第三條卷尺形式第一號ノモノ
C-2			同上	同上形式第二號ノモノ
C-99			同上	同上形式以外ノモノ
D-1	臺秤	臺秤	形秤最 小目盛 額盤ノ寸法 附屬増	第三條臺秤形式第一號ノモノ
D-2			同上	同上形式第二號ノモノ
D-3			同上	同上形式第三號ノモノ
D-4			同上	同上形式第四號ノモノ
D-5			同上	同上形式第五號ノモノ
D-99			同上	同上形式以外ノモノ
E-1	臺秤	自動臺秤	形秤最 小目盛 額盤ノ寸法	第三條自動臺秤形式第一號ノモノ
E-2			同上	同上形式第二號ノモノ
E-3			同上	同上形式第三號ノモノ
E-4			同上	同上形式第四號ノモノ
E-99			同上	同上形式以外ノモノ
F-1	橋秤	橋秤	形秤最 小目盛 體裝置ノ有無	第三條橋秤形式第一號ノモノ
F-2			同上	同上形式第二號ノモノ
F-3			同上	同上形式第三號ノモノ
F-4			同上	同上形式第四號ノモノ
F-99			同上	同上形式以外ノモノ
G-1	橋秤	自動橋秤	同上	第三條自動橋秤形式第一號ノモノ
G-2			同上	同上形式第二號ノモノ
G-3			同上	同上形式第三號ノモノ
G-4			同上	同上形式第四號ノモノ
G-99			同上	同上形式以外ノモノ
H-1	橋秤	小形橋秤	同上	第三條小形橋秤 働長3,000耗以下ノモノ





# 鐵道營業用度衡器取扱手續

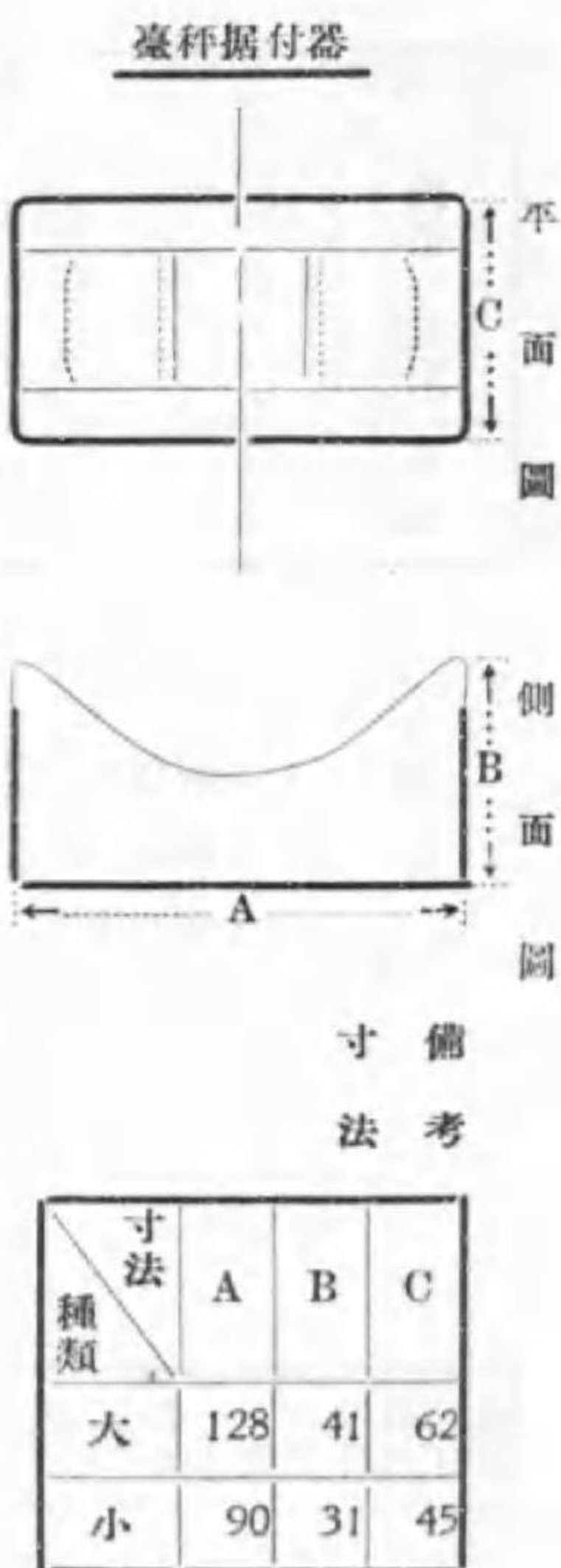
昭一三、三  
札達甲二六

## 第一章 總 則

- 第一條 鐵道營業用度衡器（以下度衡器ト稱ス）ノ取扱ニ關シテハ鐵道營業用度衡器取扱規程（以下規程ト稱ス）ニ依ルノ外手續ニ依ル
- 第二條 度衡器管理員（以下管理員ト稱ス）竝ニ度衡器検査員（以下検査員ト稱ス）ハ別ニ之ヲ指定ス
- 第三條 左ニ該當スル度衡器ハ規程第四條ニ適合セルモノト看做ス
- 一 度器ノ柱撓又ハ縊レアルモノニシテ之ヲ平板上ニ置キタルトキ其ノ間隙ガ全長ノ千分ノ十五ニ達セザルモノ
  - 二 衡器ノ額板、額盤又ハ臺ノ一部缺損アルモ計量上支障ナク且調子玉ヲ以テ直點ヲ調整シ得ルモノ
  - 三 衡器ノ双方磨滅或ハ腐蝕スルモ使用公差ニ相當スル重量ヲ載セタルトキ感ジアルモノ

## 第二章 使用竝ニ保守

第四條 臺秤ハ混凝土又ハ煉瓦ニテ造リタル基礎上ニ臺秤据付器（埋込式ノ場合ヲ除ク）ヲ用ヒテ据付クベシ  
据付器ノ型狀左ノ如シ



第五條 驛ニハ左ノ度衡器掃除具（ズツク袋入）ヲ備付クベシ

- 一 十五纏自在スバナ
- 一 双先一纏木螺子廻
- 一 洗バケ
- 一 栓 拔
- 一 丁
- 一 丁
- 一 筒
- 一 筒

第六條 臺秤ヲ運送スル場合ノ荷造ハ左記ニ依ルベシ

- 一 桿ハ脱ミ窓及笠板ニ緊縛シ送鐘ノ移動セザル様ニスルコト
  - 二 額盤下臺トノ間ニ繩類ノ如キヲ挿入シ動搖セザル様緊縛スルコト
  - 三 内部ノ器械ハ容易ニ移動セザル様緊縛スルコト
  - 四 器械ニ附セル環ハ離脱セザル様紐ヲ通シテ器械ニ緊縛スルコト
  - 五 附屬ノ増錘臺及定量増錘ハ散亂セザル様一括シテ臺秤ニ括付クルコト
  - 六 自働臺秤ノ休把手ハ取扱休状態トシ且太鼓部兩側硝子面ニ木板ヲ當テ緊縛スルコト
- 第七條 橋秤ニシテ印字機ノ裝置アルモノハ檢量票ヲ使用シ印字機ノ裝置ナキモノハ檢量記録簿ニ秤量ノ都度其ノ要項ヲ記載シ六箇月間之ヲ保存スベシ